

平成 22 年度
修士論文

公立文化ホールにおけるコモンスペースの利用実態に関する研究



指導教員 加藤彰一 教授

三重大学大学院工学研究科
建築学専攻

小塚 智世

目次

第1章 研究の概要	1
1-1 研究の背景	
1-2 研究の目的	
1-3 研究の方法	
1-4 用語の定義	
1-5 既往研究	
第2章 調査対象施設の位置付け	7
2-1 本章の目的・方法	
2-2 調査対象施設の概要	
2-3 公立文化ホールのコモンスペース	
2-4 第2章のまとめ	
第3章 ホワイエの利用実態と満足度	14
3-1 本章の目的・方法	
3-2 三重県文化会館大ホールホワイエ利用実態と満足度	
3-3 三重県文化会館小ホールホワイエ利用実態	
3-4 北上市文化交流センター中ホールホワイエ利用実態	
3-5 第3章のまとめ	
第4章 練習室まわりのコモンスペースの利用実態	39
4-1 本章の目的・方法	
4-2 三重県文化会館リハーサル室まわりのコモンスペース利用実態	
4-3 北上市文化交流センター練習室まわりのコモンスペース利用実態	
4-4 第4章のまとめ	
第5章 施設全体のコモンスペースと複合施設の付帯機能の利用実態	60
5-1 本章の目的・方法	
5-2 常設の広告展示空間の利用実態	
5-3 屋外テラスの利用実態	
5-4 複合施設の付帯機能の利用実態	
5-5 第5章のまとめ	
第6章 まとめ	71
6-1 まとめ	
6-2 コモンスペースにおける提案	

謝辞 巻末資料

第1章 研究の概要

- 1-1 研究の背景
- 1-2 研究の目的
- 1-3 研究の方法
- 1-4 用語の定義
- 1-5 既往研究

1-1 研究の背景

1-1-1 地域における公立文化ホール

近年、地域における公立文化ホールの在り方に対する多角的な検討が行われるようになっており、アートマネジメント*1への関心が高まっている。以下に検討事項を述べる。第一に、鑑賞を主としたホール機能の充実があげられ、地域のニーズに合った自主事業の展開等が求められる。第二に、市民の文化活動の場としての機能の充実があげられ、地域に根差した活動団体をつくり育てること、アーティストインレジデンス企画等が注目されている。第三に、情報公開の充実として、広報誌やビラ、ポスターの広告の他、HPやブログ、最近ではユーストリーム公開や、ツイッターを通じた情報公開がされている場合がある。第四に、周辺の公立文化ホールとの連携があげられる。第五に、アウトリーチ事業による周辺の教育施設との連携があげられ、参加型のワークショップ企画や、地域によっては特定の学生に無料招待公演を実施する企画がされている。第六に、公共ホールと民間ホールの連携があげられる。

1-1-2 公立文化ホールにおけるコモンスペースの役割

公立文化ホールにおけるコモンスペースにおいても、一般開放性や寄り付きやすさ、交流等の、地域への貢献を鑑みる議論がされており、コモンスペースの利用は多様化する傾向にある。コモンスペースは、諸室と諸室、諸室とホール、ホールと地域の間領域的空間であり、相互の関係性を構築する重要な機能を担っていると考ええる。

1-2 研究の目的

本研究では、公立文化ホールにおけるコモンスペースに着目し、空間的な特性に大きな違いがある2施設において調査分析を行うことで、多様な利用に対応可能なコモンスペースの在り方について指針を得ることを目的としている。コモンスペースの中で、ホワイエ、練習室まわりのコモンスペース、施設全体のコモンスペースに着目し、利用実態から、場の特性、施設利用者の特性を把握する。公立文化ホールにおけるコモンスペースは、様々な立場の施設利用者が様々な目的をもって滞在する空間であり、鑑賞者・活動者・一般利用者と各々の立場にたった公立文化ホールの環境を構築する必要があると考えられる。

*1アートマネジメント:芸術・文化と現代社会との最も好ましいかかわりを探求し、アートのなかにある力を社会にひろく解放することによって、成熟した社会を実現するための知識、方法、活動の総体(出典:「アートマネジメント教育の展開—慶応義塾における教育と研修の現場から」慶応義塾大学教授 美山良夫)

1980年代後半から企業による芸術文化支援活動の高まりとともに、芸術文化とマネジメントの関係が見直され、新しい概念として“アートマネジメント”という言葉が使われ始めた。芸術分野のマネジメントは多面的な取り組みが求められ、企業マネジメントより複雑で調整が難しいとされる。(出典:「実践アートマネジメント 地域公共ホールの活性術」名古屋芸術大学教授 竹本義明著)

1-3 研究の方法

第1章では、研究背景・目的、研究方法、既往研究、用語の定義を示す。

第2章では、調査対象施設である、三重県文化会館と北上市文化交流センターの施設概要、展開されている自主事業、コモンスペースの概要を通して、日本の公立文化ホールにおける位置づけについて説明を行う。

第3・4・5章は、本論の中核をなす。

第3章では、公演時に行ったマッピング調査やアンケートによる満足度調査により、ホワイエにおける利用実態・満足度を把握し、観賞者の特性、場の特性について、分析考察を行う。

第4章は、マッピングやヒアリング調査により、練習室まわりのコモンスペースの日常的な利用実態を把握し、一般利用者や活動者の特性、場の特性について、分析考察を行う。

第5章は、施設全体のコモンスペースと複合施設の付帯機能の利用について、分析考察を行う。具体的には、屋外テラス、広告展示空間、文化情報コーナー、レストラン、図書館である。

第6章では、3・4・5章で得られた知見から、現状の評価すべき点や問題点を検討し、鑑賞者・活動者・一般利用者の立場から、望ましいコモンスペースの在り方について、言及、提言する。

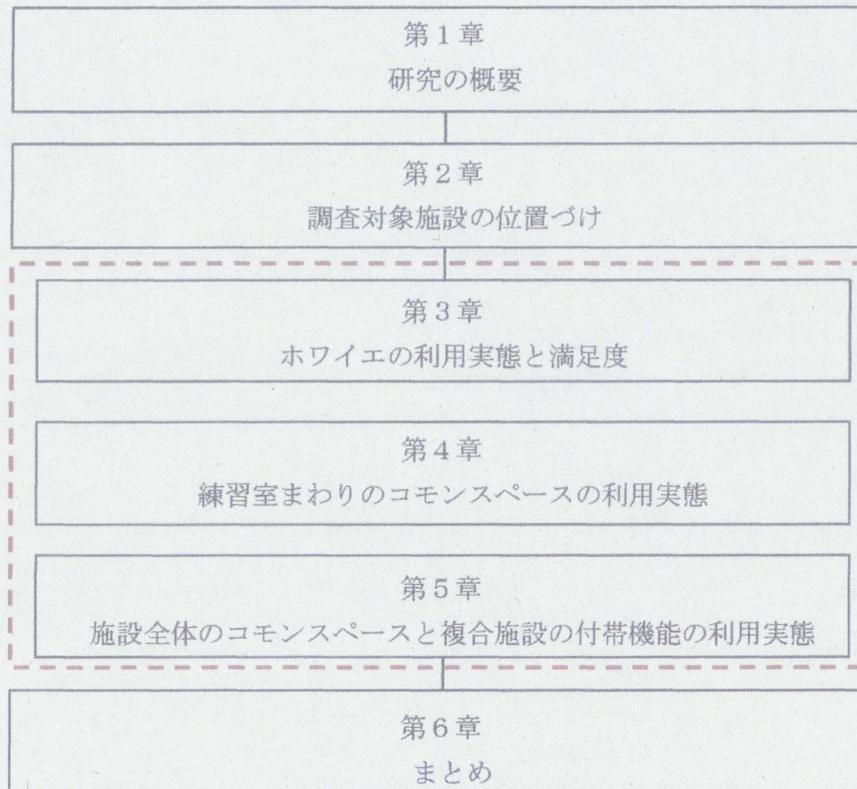


図 1-3-1 研究フロー

1-4用語の定義

本研究で取り扱う用語を以下のように定義する。

公立文化ホール：国及び地方自治体によって設置され（PFIを導入している場合を含む）、舞台芸術の上演等に用いられる「ホール」を含む公の施設。^{*2}

コモンスペース：開館時間であれば誰でも自由に使用できる諸室以外のフリースペースと（以下、CS）定義する。^{*3}本研究の調査対象施設において、公演時のホワイエ、ロビー、屋外テラス、練習室まわりの空間等がこれにあたる。

ホワイエ：チケットもぎりから後部座席までの空間。

行為：人間の活動や行い全般。意図や目的を有する活動。

物的要素：壁、柱、段差、ガラス面等の建築的要素、家具やオブジェ等の付属的要素を合わせた要素。

活動者：文化活動の目的で、施設内諸空間を借りて、施設を利用している個人・団体。

観賞者：公演を観賞する目的で、施設を利用している個人・団体。

一般利用者：文化活動や公演観賞以外の目的で、施設を利用している個人・団体。

施設利用者：活動者、鑑賞者、一般利用者を合わせた施設を利用している個人・団体の総称。

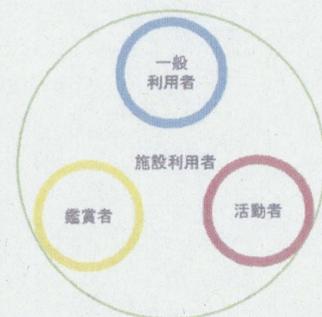


図 1-4-1 施設利用者の分類

^{*2} 「少子高齢化時代の公立文化ホールの配置、建築、運用計画の再構築に関する研究」の公立文化ホールの定義を本研究において引用する。

^{*3} 「公演時外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公立文化施設内のオープンスペースに関する研究—ホワイエを開放している施設における調査研究—」のコモンスペース定義を一部参考とする。

1-5 既往研究

1-5-1 公演時外のホワイエの利用に関する研究

・浦部智義「公演時外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公立文化施設内のオープンスペースに関する研究—ホワイエを開放している施設における調査研究—」
日本建築学会計画系論文集 75(647),57-66,2010.01.

・小川利和、勝又英明「劇場・ホールのロビー・ホワイエにおける公演時以外の利用に関する調査研究」日本建築学会計画系論文集(539),127-131,2001.01.

上記は、公演時外のホワイエの一般開放に焦点をあてた研究である。

浦部の論文では、公演時外の日常利用時のホワイエを含む施設内のオープンスペース滞在者の分布や意識を明らかにすることで、今後のオープンスペース計画の基礎的資料を得ることを目的としている。(浦部の論文におけるオープンスペースとは、本研究におけるコモンスペースの定義に、中庭・広場・公園、公演時外に開放するホワイエを含むものである。)論文の中で、中高生の学習によるオープンスペースが大きな需要であり、利用者属性が偏らない計画・運営等の検討事項を述べている。オープンスペースにおける滞在者の場所選択の要因として、気軽な寄り付きやすさや開放的な印象、作業性に関しては、机の大きさや明るさの適度を示している。メインエントランスからフロアを異にして、やや空間的に奥まった場所選択が、長時間滞在する傾向を指摘している。(→第4章により、利用者属性、場所選択において参考)

小川、勝又の論文では、1200席程度の客席数を持つ477ホールに対するアンケート調査を通じて利用実態を把握し、ロビーホワイエにおける建築計画上・運営計画上の基礎資料を得ることを目的としている。論文の中で、ロビーホワイエの一般開放の最大の問題点として警備があげられること、今後の公演時外のロビーホワイエの利用用途として、広報活動や休憩の場、一部ギャラリー化といった考えがあることを指摘している。(→第2章、CS利用に関する施設側の意向において参考)

1-5-2 公演時のホワイエの利用に関する研究

・本杉省三、小谷喬之助、瀬川陽子、青池佳子「劇場・ホールにおける公演内容と観客サービス機能利用に関する調査研究(1~3)」学術講演梗概集 1994.07.

上記は、公演時のホワイエにおけるサービス機能に焦点をあてた研究である。都内大規模ホールの公演内容と観客サービス機能の設置状況、公演時の入場者数状況とクロック利用状況、公演時のビュッフェ・トイレの利用状況について、利用実態を把握し問題点を明らかにすることを目的としており、公演内容による利用の違い等を指摘している。

1-5-3 ホワイエの空間構成に関する研究

- ・実川俊之、船越徹、浦部智義、積田洋他「劇場・ホールのアプローチ・ホワイエ空間に関する研究（その1～その6）」学術講演梗概集 2000.07.～2003.07.
- ・上野孝雄、熊井和雄、小川峰夫、佐藤哲士「劇場ホワイエにおける滞留行動と空間的要素との関係」学術講演梗概集 55,1163-1164,1980.09.
- ・瀬口哲夫、久野盛郎、大沼純一「建築の空間構成に関する研究—その1 文化会館、市民会館のホワイエの空間意識に関する研究—」学術講演梗概集 57,1525-1526,1982.08.

上記は、ホワイエの空間構成に関する研究であり、心理評価、物理量、滞留行動等のキーワードがあげられる。

瀬口、久野らの論文では、ホワイエにおける雰囲気に着目し、心理評価と物理的属性との対応関係について明らかにすることを目的としている。実川、船越らの論文では、客席までのアプローチ空間における雰囲気に着目し、外部アプローチ空間やエントランスから客席までの内部アプローチ空間の空間構成に関しての心理評価と物理的属性との分析をもとに、設計・計画の指針を得ることを目的としている。その5において、〈楽しみ感〉〈まとまり〉〈明るさ感〉〈開放感〉等の心理評価を行い、それぞれに関係する要因を示している。〈開放感〉に関しては天井高、吹き抜けが大きく影響し、次に開口、光、照明等が影響することを指摘している。〈明るさ感〉に関しては、光・照明や人の要因が影響することを指摘している。(→第3章、三重県文化会館のホワイエの雰囲気、広さの満足度の分析において参考)

上野、熊井らの論文は、ホワイエにおける位置プロット調査を行い、滞留行動と空間要素との因果関係を分析したもので、椅子類等の付属的要素が大きな影響のある空間要素であることを指摘している。

1-5-4 練習室に関する研究

- ・佐藤慎也、本杉省三「地域文化団体の創造活動における公共ホールの利用に関する研究：長岡リリックホールを事例として」日本建築学会計画系論文集(593),65-72,2005.07.
- ・川本直義 清水裕之 大月淳「市民吹奏楽団の練習場に関する研究 地域における公共施設の多目的利用に関する研究」日本建築学会計画系論文集 2004.06.
- ・嶋田秀雄 大野勝 元松経雄 室殿一哉 本間秀明 「ホールの搬入スペース、ホワイエ、楽屋、練習室・リハーサル室の評価に関する研究 ホールの施設・管理・運営に関する研究」学術講演梗概集 1999.09

上記は、練習室や活動団体に焦点をあてた研究である。

佐藤、本杉の論文では、練習室が10室ある長岡リリックホールにおいて、音楽2団体、演劇2団体を対象として、練習機能と公演機能の結びつき、練習室の在り方について現状と課題を探ることを目的としている。論文の中で、練習室の選択理由として、音楽では防音性能の高さ、演劇では面積の大きさ、舞踊では附属設備であったと述べている。(→第4

章、三重県文化会館、リハーサル室の使い分けにおいて参考) その他、各練習室の需要や各練習室の利用関係について記述されている。

川本、清水、大月の論文では、愛知・岐阜・三重の吹奏楽団を対象として、活動実態を把握し、地域における公立施設の多目的利用の可能性を考えることを目的としている。論文の中で、公立文化ホールにおける意見要望として、楽器をおかせてほしい、定例的な会場とりをお願いしたい等の意見が得られたことを述べている。また特定の団体の囲い込みについて、公式な制度と非公式なものがあることを指摘している。(→第3章 施設貸出の手順において、特定団体の予約優先を明記)

嶋田、大野らの論文では、搬入スペース、ホワイエ、楽屋、練習室・リハーサル室における、規模や設備等の基礎的指標を得ることを目的としている。論文の中で、ホワイエ面積は最低でも0.6 m²/席程度確保する必要があること、楽屋面積の狭さをクリアするラインは0.15 m²/席が1つの目安であること、ホールをリハーサル用に利用している施設があること等を指摘している。(→第3章 大ホールのホワイエ面積/席、明記)

第2章 調査対象施設の位置付け

2-1 本章の目的・方法

2-2 調査対象施設の概要

2-3 調査対象施設のコモンスペース

2-4 第2章のまとめ

2-1 本章の目的・方法

本研究の調査対象施設として、三重県総合文化センターの一部を成す三重県文化会館と北上市文化交流センターさくらホール（以下、北上市文化交流センター）を取り上げる。選定理由として、CSの空間的特性が異なることがあげられる。2施設を比較すると、三重県文化会館のCSは空間的に閉じられており、北上市文化交流センターのCSは空間的に開かれている。以下に、調査対象施設の概要、CSの概要や展開されている自主事業等、各施設の特徴について示し、調査対象施設の位置づけについて把握することを目的とする。

2-2 調査対象施設の概要

2-2-1 建築概要

■三重県総合文化センター

三重県総合文化センターは、文化会館、生涯学習センター、男女共同参画センター、県立図書館によって構成された、県を代表する大規模な複合施設である。年間の来館人数は2009年度で、約112.54万人、その内文化会館は58.71万人(三重県の人口は約185.5万人)である。

旧文化会館の老朽化等を原因に、新文化会館基本構想が策定され、1994年6月に竣工している。

立地としては、津駅から徒歩25分で、表2-1-1-1 三重県総合文化センターの建築概要バスや自家用車によるアクセスが望まれる。

建築概要	三重県総合文化センター
所在地	三重県一身上津部田1234
設計	株式会社A&T建築研究所 三重県総務部管財営繕課
規模	敷地面積 62,224㎡ 建築面積 21,692㎡ 延床面積 46,305㎡ うち文化会館29,415㎡
ホール	大ホール固定席 1895席 中ホール固定席 960席 小ホール 約300席(現状285席 最大322席)
練習室群 (文化会館のみ)	《B1階》第1リハーサル室/第2リハーサル室 《1階》レセプションルーム 《2階》第1ギャラリー/第2ギャラリー/ 大会議室/中会議室/小会議室 計8室

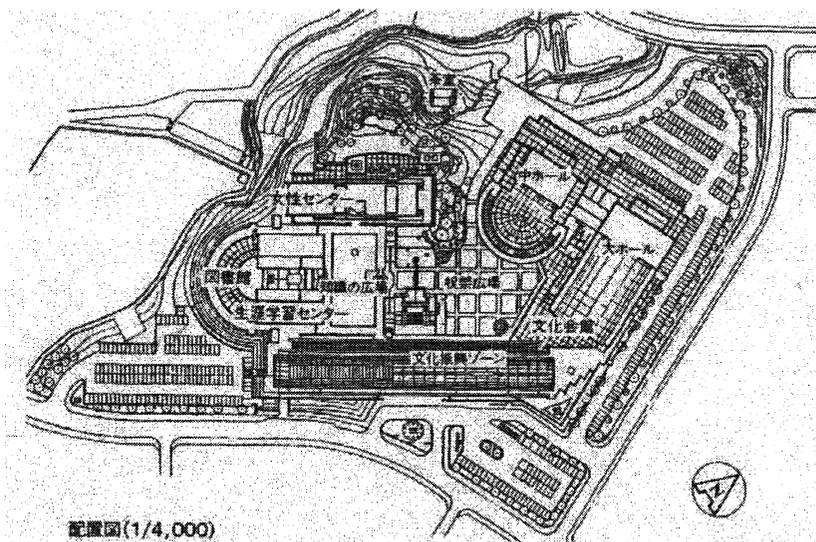


図2-1-1-1 三重県総合文化センターの配置図
(出典：新建築 1994年12月号)

■北上市文化交流センター

北上市文化交流センターは、大小22の練習室群を中心として、大・中・小ホールで構成されている。

築40年の旧市民会館が都市計画のため移転を余儀なくされ、市民会館に代わる公立文化ホールとして計画、2003年9月に竣工している。

立地としては、JR北上駅から車で10分 JR柳原駅より徒歩10分であり、バスや自家用車によるアクセスが望まれる。

建築概要	北上市文化交流センター
所在地	岩手県北上市さくら通り二丁目1番1号
設計	株式会社久米設計
規模	敷地面積 32191.55㎡ 建築面積 9834.11㎡ 延床面積 15093.16㎡
ホール	大ホール固定席 1310席 中ホール固定席 450席 小ホール仮設椅子 264席
練習室群	《1階》ミュージックルーム1・2/大アトリエ/キッズルーム/アクティブルーム/サテライトスタジオ 《2階》アンサンブルルーム1・2/トレーニングルーム/レッスンルーム1・2/オーブナルーム/スタジオ/ミキシングルーム/小アトリエ1・2/多目的室1・2/会議室1・2/和室しらゆり/和室きせきれい 計22室

表 2-1-1-2 北上市文化交流センターの建築概要

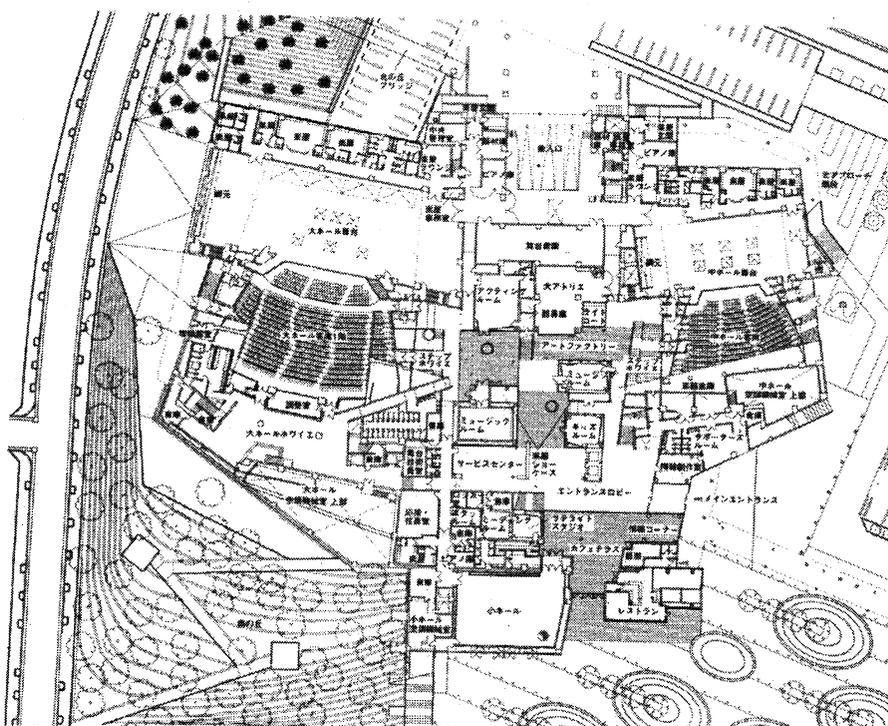


図 2-1-1-2 北上市文化交流センターの配置図
(出典：新建築 2004年10月号)

2-2-2 施設計画時の時代背景

■三重県総合文化センター

三重県総合文化センターは1994年に竣工しており、施設計画時に、同じく東海地方に位置し、同設計者である、1992年に竣工した愛知芸術文化センターの影響を受けている。愛知芸術文化センターは、舞台機能に力を入れたドイツ式劇場を参考として、後舞台を持つ建築形態等、本格的なオペラ公演が可能な機能を搭載した大ホールを、我が国の先駆けとして実現した。三重県総合文化センターの計画においても、この舞台技術が大きな影響を与え、大ホールにおいて同様に本格的なオペラ公演が可能な機能を搭載している。

専用ホールを組み合わせた大規模な複合施設として、1982年竣工の熊本県立劇場、仙台市青年文化センター、1990年竣工の東京芸術劇場と水戸芸術館、1992年竣工の愛知芸術文化センターがあげられる。1994年竣工の彩の国さいたま芸術劇場、アクトシティ浜松、調査対象施設である三重県総合文化センターもその流れを継いだものと考えられる。

表 2-2-1 1980年代以降の大規模複合施設におけるホール機能と複合機能

公立文化ホール	ホール規模	複合機能
熊本県立劇場	コンサートホール(1810) 演劇ホール(1172)	リハーサル室(2)、控室(6)、 練習室(3)、楽屋(5)、会議室、 和室、飲食店
仙台市青年文化センター	コンサートホール(802) 多目的ホール(584) 多目的ホール(最大300)	AVホール、会議室(3)、研修室 (3)、アトリエ、練習室(4)、スタジオ (2)、ミーティングルーム(2)、和室、 茶室、クッキングルーム、ギャラリー
東京芸術劇場	コンサートホール(1999) 演劇ホール(841) 多目的ホール(300) 多目的ホール(287)	展示ギャラリー、リハーサル室、 会議室、飲食店(6)、ショップ(2)、 スタジオ(1)
水戸芸術館	コンサートホール(620-680) 演劇ホール(472-636)	ギャラリー、会議場、ミュージアム ショップ、飲食店(2)
愛知芸術文化センター	多目的ホール(2500) コンサートホール(1800) 多目的ホール(330)	リハーサル室(2)、美術館、 文化情報センター、飲食店(4)、 ショップ(2)
彩の国さいたま芸術劇場	多目的ホール(776) コンサートホール(604)	映像ホール、稽古場(6)、練習室 (6)、情報センター
アクトシティ浜松	演劇ホール(2336) コンサートホール(1030)	展示イベントホール、セミナー室 (14)、コンgresセンター、会議室 (10)、宿泊施設、ショッピング街、 飲食店街、楽器博物館
三重県総合文化センター	多目的ホール(1903) 演劇ホール(968) 多目的ホール(285) 多目的ホール(383最大425)	リハーサル室(2)、会議室(4)、 レセプションルーム、ギャラリー(2)、 飲食店(2)、ショップ、図書館、 研修室(4)、生活工房、茶室、 セミナー室(3)、フィットネスルーム

■北上市文化交流センター

1990年代の専用ホール建設に伴い、舞台芸術の制作環境全体について関心が高まり、地域における公立文化ホールの在り方に対する多角的な検討が行われるようになった。地域への貢献という視点から、ワークショップ型のプログラムやアウトリーチ事業等、ソフト面の充実がはかられるようになった。また近年、地域と舞台をつなぐ中間領域的な空間である公立文化ホールにおけるCSが着目され、一般開放性や寄り付きやすさ、交流等の、地域への貢献を鑑みる議論がされている。北上市文化交流センターは、このような背景をもとに、地域における「新たな関係性の生産へ」をコンセプトとして計画された1事例である。同設計事務所による、このようなテーマをもとに設計された公立文化ホールの事例として、2002年竣工の「とぎつカナリーホール」等がある。

(2-2-2 参考：「21世紀の地域劇場パブリックシアターの理念、空間、組織、運営への提案」清水裕之著)

2-3 調査対象施設のコモンスペース

2-3-1 CSの概要

■三重県文化会館

【CSの種類】大・中・小ホールのホワイエ、リハーサル室前のCS、会議室前のCS、ギャラリー前のCS、エントランスホール等を含む常設展示空間があげられる。

【各CSのつながり】1階に大・中・小ホールのホワイエ、地下1階にリハーサル室前のCS、2階に会議室前とギャラリー前のCSが配置され、壁やガラス面・レベル差・距離により閉じられた空間で、個別のCSとして機能している。地下1階のCSと大ホールCSは吹抜けにより、空間はガラス面で隔てられているが、見る見られるの関係はある。

【一般開放】大・中・小ホールのホワイエは、公演時外は一般開放されていない。

【施設側の意向】施設のスタッフにヒアリングを行い、基本的に「室内でできることは室内で」という方針であることを確認した。施設側の意向を示すため、施設利用の予約受付時もしくは打合せ時に、施設スタッフが口頭で“原則借りる室内のみの利用”を活動者に指導している。指導のもと、CSは平等に施設利用者が利用できるよう、特定団体が占有しないように管理されているが、受付程度の利用や一般利用者に迷惑をかけない程度の利用は可能であり、その他利用内容に応じて別途相談に応じるかたちをとっている。

また、CSにおいて留意すべき事柄に、安全面の確保がある。警備員が毎日定期的に施設内を巡回し、不審者、不審物、迷惑行為、病人やけが人、施設内で迷っている人、施設の破損の有無について、目視確認を行っている。

ヒアリングにより、今後一般開放する予定は特になく、理由としてホール利用が頻繁であること、ホールでの公演や活動を最優先したいことがあげられることを確認した。以上より、ホールやリハーサル室等の諸室での活動、安全面を最優先する施設側の意向、活動者に施設側の意向を伝える手段を把握できた。

■北上市文化交流センター

【CSの種類】大・中ホール、練習室まわりのCS、エントランスホール等を含む常設展示空間があげられる。

【各CSのつながり】練習室郡が中央にあり、それらを囲むように、大・中・小ホールが配置されている(図2-3-1-1)。大・中ホール、練習室まわりのCSは隣接している。また、ホールや他のCS間に壁面やガラス面による隔たりはなく、開かれた空間が計画されている。練習室はガラス張りの設えであるため、CSと練習室間に見る見られるの関係があることも特徴としてあげられる。

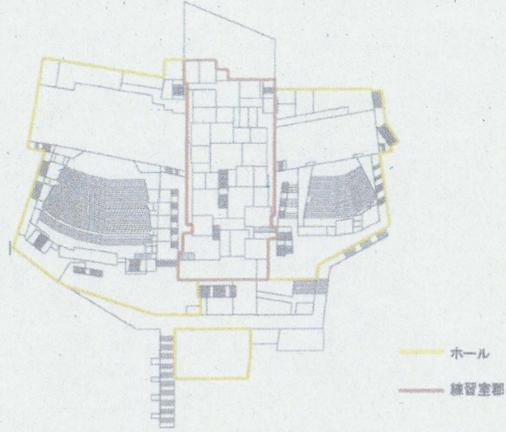


図2-3-1-1 ホールと練習室郡の位置関係

【一般開放】大ホールのCSは一般開放されていないが、中ホールのCSやその他のCSは一般開放されている。練習室まわりのCSは、テラス、植栽、トップライトにより半屋外化した空間が計画され、公園のような一般開放性のある雰囲気重視されている。

【設計者・施設側の意向】設計者にヒアリングを行い、視覚や聴覚を触発するようなCSを計画することで、今まで文化活動に関心なかった人々が活動者となり頻繁に接触し、触発される場を地域の中に仕掛けるというコンセプトを伺った。「新たな関係性の生産へ」というコンセプト部分における、接触→触発→定着・共有→波及・拡大といった効果について、図2-3-1-2に示す。また、施設のスタッフにヒアリングを行い、一部のCSにおいて自習やダンス練習を禁止しているが、その他は原則として自由に利用してもらってよいという施設側の意向を確認することができた。

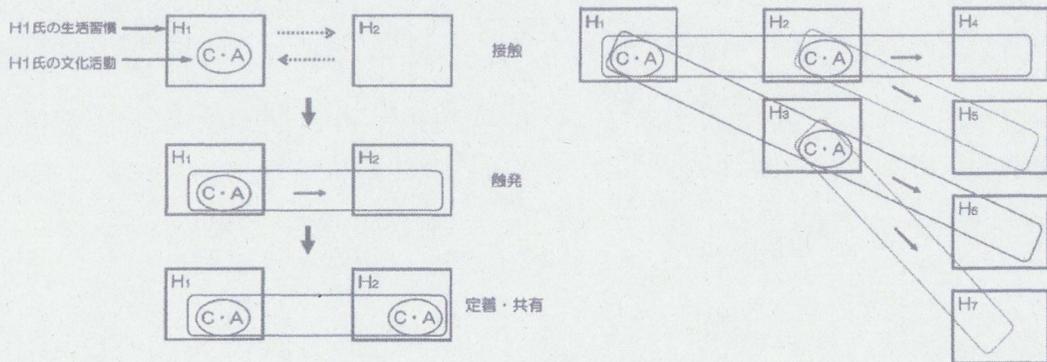


図2-3-1-2 施設利用による新たな関係性の生産

(出典：株式会社久米設計)

2-3-2 自主事業とCSの利用

【自主事業】表2-3-2-1に、調査対象施設で展開されている自主事業について示す。尚、表2-3-2-1においては、シリーズものの自主事業のみ記述している。自主事業の内容は、県レベル・市レベルの事業内容であり事業の規模は異なるが、鑑賞型の「観る」、創造型の「つくる」、体験型やコンクール等の「交流する」に大別することができる。

三重県文化会館では、特にコンサート関連の鑑賞型自主事業が充実している。新日本フィルハーモニー交響楽団と地方拠点契約を結び、それに関連した自主事業がある。また、2008年以降「Mゲキ!!!!セレクション」「トリプル3」等、演劇関連の特色ある自主事業が新たに加わっている。

北上市文化交流センターでは、竣工してから7年であり、シリーズものではない単発の公演が多く、鑑賞型の自主事業が中心である。北上市では「神楽」や「鬼剣舞」等の伝統芸能が根ざしており、それに関連して30年以上の歴史を持つ「北上市民劇場」、「冬のみちのく 芸能まつり」の自主事業がある。

表 2-3-2-1 展開されている自主事業

	三重県文化会館	北上市文化交流センター
観る	・新日本フィルハーモニー交響楽団 ・ワンコインコンサート ・Mゲキ!!!!セレクション	・さくらホールファイナルライブ ・さくらホール落語 ・きたかみサロン音楽会
つくる	・トリプル3 ・三重音楽発信	・北上市民劇場
交流する	・新日本フィル演奏クリニック ・三重ジュニア管弦楽団 ・三重文化芸術祭	・さくらホールキッズパラダイス ・さくらホール・アート・フェスタ ・冬のみちのく 芸能まつり

【自主事業時の室の使われ方】

三重県文化会館では、演劇のレジデンス企画が増えている。「トリプル3」は、公演に向けて、ワークショップ室、リハーサル室、レセプションルーム、小ホールへと、稽古の段階に合わせて広い室に移行している。「Mゲキ!!!!セレクション」は、一定の稽古期間に、小ホール、小ホール裏のワークショップ室、楽屋が一体的に利用されている。小ホール、小ホール裏のワークショップ室、楽屋、第1・2リハーサル室等、一部の諸室と諸室まわりのCSを特定の団体が一体的に使うことがあることを把握した。

北上市文化交流センターでは、練習室群を一体的に使った自主事業が見られる。「さくらホールキッズパラダイス」は、子ども向けの体験型プロジェクトであり、大・中・小ホール他、12の練習室、一部のCSが会場に使われている。各諸室やCSで行われている複数の体験教室の中から、体験したいものを選択できるようになっており、一体的な空間が有効に使われている。

2-4 第2章のまとめ

三重県文化会館は県レベル、北上市文化交流センターは市レベルの施設であるため、施設の規模、ホール規模、複合機能、自主事業の内容等に違いが見られることを確認した。

また時代背景から、調査対象の2施設が、施設計画やその中のCS計画、施設の管理運営の意向が異なることを確認した。三重県文化会館はホール機能を充実させており、観賞型の公演において2000年以降実績を残している(図2-4-1)。ホールやリハーサル室での活動を優先させるため、文化会館内では一般開放されるCSの面積は狭く、それぞれが分離的な配置であることを把握した。(本論文では対象としないが、複合施設であるため、三重県総合文化センターというくくりで見ると、CSは充実している可能性がある。)北上市文化交流センターは、施設計画時から、活動者を中心として一般利用者にも焦点をあてたCSが計画され、物的要素の充実した一体的なCSを持つ。比較的新しく、CS内は前例にないような空間となっており、特徴的な事例であるといえる。

本章の情報をもとに、第3章、第4章、第5章では、CSの利用実態について記述する。



図2-4-1 文化事業推移 (出典：三重県文化振興事業団HP)

表2-4-1 主要指標推移 (出典：三重県文化振興事業団HP)

	単位	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
公演収支比率	%			85.0	83.0	81.0	93.8	86.2	94.7	103.8	74.2
公演入場率	%	79.3	83.0	84.0	85.0	82.3	85.6	80.7	84.3	90.6	76.1
友の会会員数	人	2,021	2,796	2,837	3,226	3,234	3,112	3,163	3,166	3,233	3,284

第3章 ホワイエの利用実態と満足度

3-1 本章の目的・方法

3-2 三重県文化会館大ホールホワイエ利用実態と満足度

3-3 三重県文化会館小ホールホワイエ利用実態

3-4 北上市文化交流センター中ホールホワイエ利用実態

3-5 第3章のまとめ

3-1 本章の目的・方法

3-1-1 目的・方法

本章では、公演時の大ホールホワイエを対象とする。アンケート調査により、鑑賞者の属性、公演前後と休憩時間の過ごし方、ホワイエの満足度について把握する。マッピング調査や観察調査により、鑑賞者の属性、滞在行為、滞在行為に関係するホワイエ内の物的要素を把握する。以上によって、鑑賞者の特性、ホワイエにおける場の特性を分析・考察することを目的とする。

3-1-2 調査対象の公演

調査対象の公演概要を以下に示す。表3-1-2-1により、公演名を定義する。

表3-1-2-1 調査対象の公演概要

公演名	公演日程	調査場所	演目
公演1	2009.01.25. 14:00開場 14:30開演	三重県文化会館 大ホール	三重大学管弦楽団 「第45回記念定期演奏会」
公演2	2010.07.17. 14:00開場 14:30開演	三重県文化会館 大ホール	三重大学管弦楽団 「2010サマーコンサート」
公演3	2010.12.11. 18:15開場 19:00開演 2010.12.12. 13:15開場 14:00開演	三重県文化会館 小ホール	第七劇場 「かもめ」
公演4	2009.08.28. 19:00開場 19:30開演	北上市文化交流センター 大ホール	コンソナンス 「韓国楽器のための伝統・ 現代音楽コンサート」

公演1・2に関して、三重大学管弦楽団は年2回の公演を行っており、それが定期演奏会とサマーコンサートである。過去3年間の入場者数を表3-1-2-2に示す。赤で示した数字が公演1・2である。

表3-1-2-2 過去3年間入場者数

	定期演奏会	サマーコンサート
2010	1394	782
2009	1075	717
2008	927	783

公演3に関して、三重県総合文化センターの「Mゲキ!!!!セレクション」という自主事業の一環である。「Mゲキ!!!!セレクション」は、全国的に注目されつつある若手団体や若手劇作家・演出家を、三重県文化会館が独自にセレクトして県民に勧めるという企画である。2009年11月から始まり、「かもめ」を含め、計6回開催されている。「かもめ」公演の留意点として、第一に公演日を含め6日間劇団が滞在したアーティストインレジデンス企画であったこと、第二に三重大学人文学部や三重アクターズ養成所とワークショップを行っていたこと、第三に若手劇作家・演出家や演劇批評家を交え、プレトークとアフタートークを行っていたことがあげられる。

公演4に関して、出演者は、韓国楽器奏者やカリフォルニア州立大学サンタクルズ校の学生、卒業生で構成されており、国際色豊かである。曲目は、韓国の伝統曲の他、出演者によって作曲された現代音楽が中心である。チケットは韓国ウォンでも購入可能。

3-2 三重県文化会館大ホールホワイエ利用実態と満足度

3-2-1 調査の概要

【調査対象範囲】三重県文化会館大ホールのホワイエである。調査対象範囲について、図3-2-1-1、表3-2-1-2に示す。1階ホワイエは、レベル差によりゾーンAとゾーンBに大別される。ホワイエの1人あたりの面積は、0.40 (m²/人) である。ホールの1・2階席と、1階ホワイエのみ利用の場合、0.37 (m²/人) である。

【調査対象公演】三重大学管弦楽団の定期演奏会 (以下、公演1) とサマーコンサート (以下、公演2) である。

【調査方法】両公演を通じてアンケート調査、公演2でマッピング調査を行った。アンケートの回収率について、表3-2-1-1に示す。アンケートは、事前にパンフレットに挟み、公演前に配布、公演後に回収した。アンケート内容は、鑑賞者の属性、公演前後と休憩時間の過ごし方、CSにおける満足度の3部構成になっている。マッピング調査は、1セット15分間として、公演前2回 (以下、公演前I、公演前II)、休憩時間1回、公演後1回行い、鑑賞者の属性、滞在行為、滞在位置、行為に影響を及ぼす物的要素について、調査票に記録した。尚、屋外テラスの利用実態は、第4章で記述する。

【留意点】公演2において、ホール3階席は使用されず、ホワイエの1階のみ使用可能であった。また、喫茶店は営業していなかった。

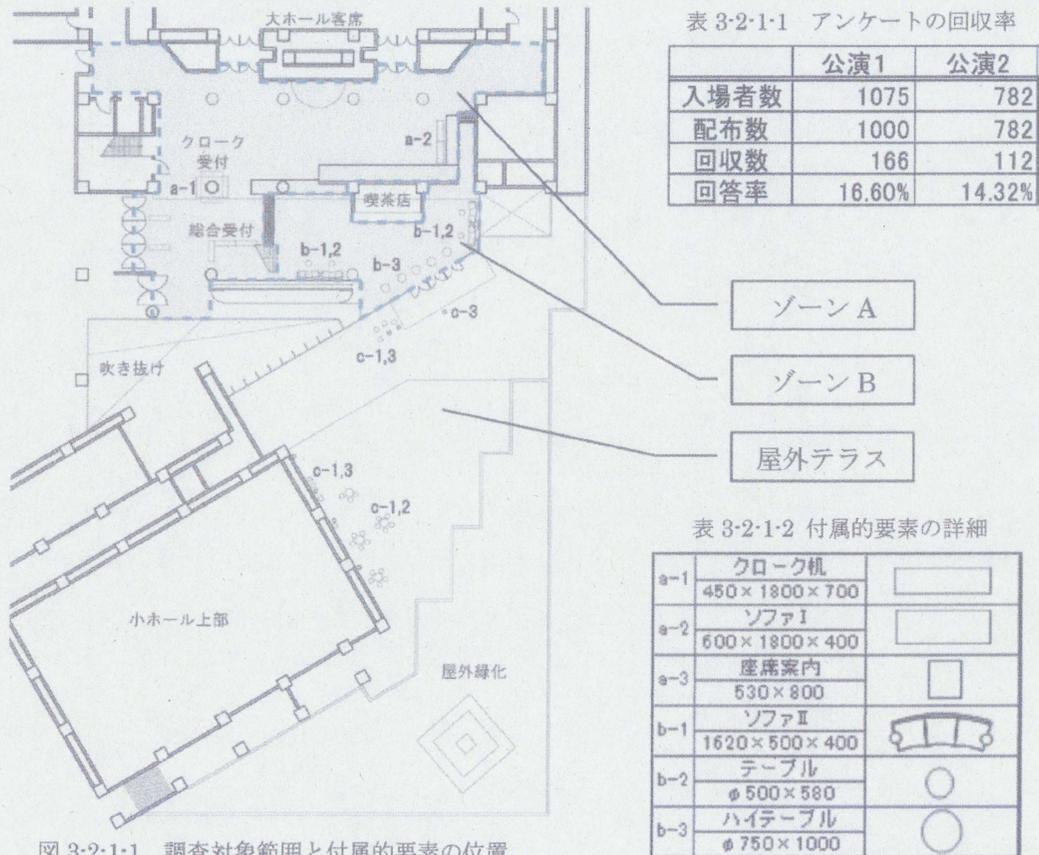


図 3-2-1-1 調査対象範囲と付属的要素の位置

3-2-2 鑑賞者の属性

アンケート調査により得られた、鑑賞者の性別、年齢、大学関係者、来館人数、付随者、居住地、来館手段、来館頻度について、分析考察を行う。以下の図の母数は、特に記入していない場合、公演1は166、公演2は112である。

【性別】公演1では女性の方が多く、公演2では男女比率にほぼ偏りない(図3-2-2-1)。

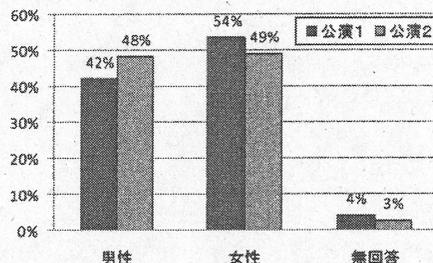


図3-2-2-1 鑑賞者の性別

【年齢層】両公演を通じて10、20代の学生と考えられる年齢層と40から60代の比率が高い(図3-2-2-2)。公演1では、50代次いで20代の比率が高い。公演1の50代鑑賞者の特徴として、来館人数が2人で、夫婦で来ているパターンが多い傾向にあることがあげられる(図3-2-2-3)。公演2では、10代鑑賞者の比率が高い。公演2の10代鑑賞者の中で、来館人数が2人以上の比率は90%であり(図3-2-2-4)、そのうち67%が友人と来ていると回答しており、単独ではなく大学生同士での来館が目立つ。

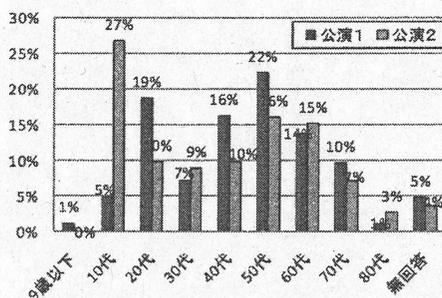


図3-2-2-2 鑑賞者の年齢層

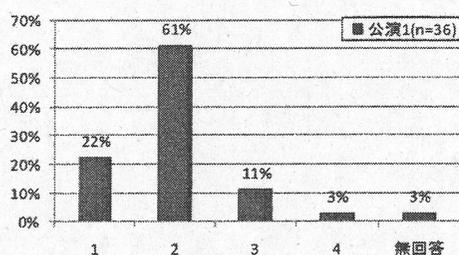


図3-2-2-3 50代鑑賞者の来館人数(公演1)

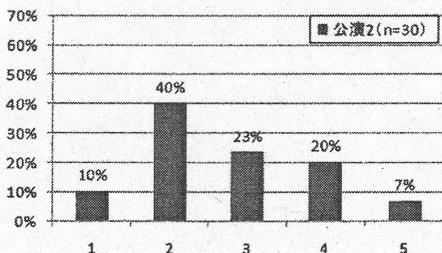


図3-2-2-4 10代鑑賞者の来館人数(公演2)

【大学関係者】公演1と公演2で比率が大きく異なっている。公演1では、大学関係者が26%、非大学関係者が71%であり、大学関係者の人数を2.5倍以上上回っている。公演2では、非大学関係者の方が多いものの、公演1と比較して大学関係者の比率は38%と高い(図3-2-2-5)。公演2は公演1より、内輪な公演であったと予測できる。尚、10代20代という学生が多い年齢層の中で大学関係者比率を調べたところ、公演1では非大学関係者が10代で63%、20代で45%となっており、他大学の学生や中高生の鑑賞者がいたと考えられる(図3-2-2-6)。

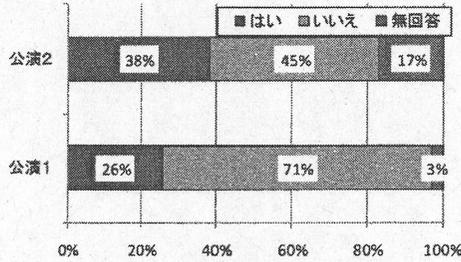


図3-2-2-5 大学関係者比率

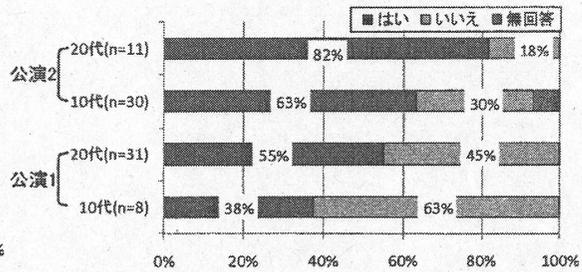


図3-2-2-6 10・20代鑑賞者の男女別大学関係者比率

【来館人数と付随者】両公演を通じて、2人での来館が40%程度と最も多く、2人以上での来館が全体の70%以上であることが分かる(図3-2-2-4)。2人以上で来館した鑑賞者の付随者は、友人が40%程度と最も多く、夫婦・子ども・親・兄弟といった家族での来館比率も高い。原因として、学生や、管弦楽団の保護者である鑑賞者が多かったためと考える。

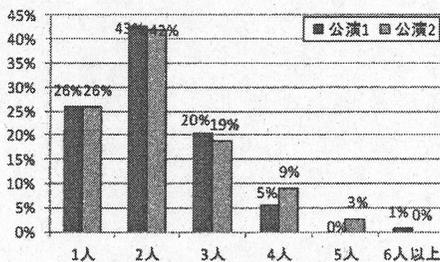


図3-2-2-7 来館人数

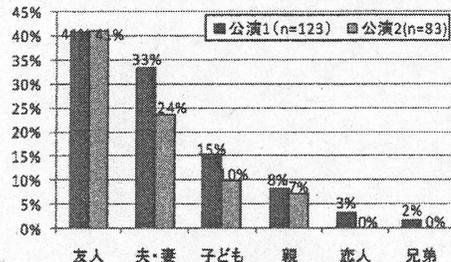


図3-2-2-8 付随者(複数回答可)

【居住地】両公演を通じて、津市内が50%以上であり、75%以上が県内である(図3-2-2-9)。また、三重県外の居住地は多い順に、愛知、静岡、岐阜となっている(図3-2-2-10)。三重大学生の居住地や出身地との関連が考えられる。

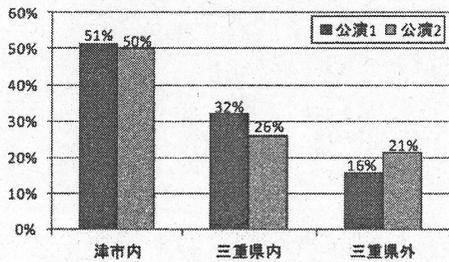


図3-2-2-9 居住地

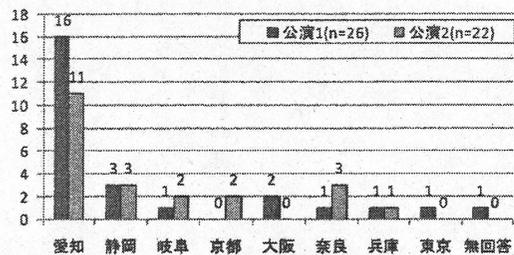


図3-2-2-10 三重県外の居住地

【来館手段】第2章で述べたとおり駅から遠い立地上の問題から、両公演を通じて、車での来館が最も多い結果となった(図3-2-2-11)。公演1と比較し、公演2ではバスや自転車・バイクの利用比率が高く、津市内や近隣の市から訪れる鑑賞者が多かったことが分かる。

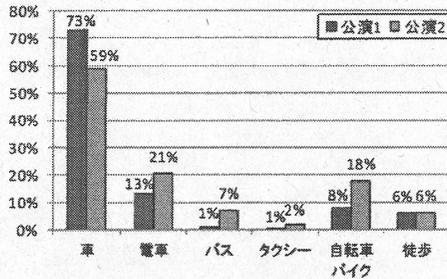


図3-2-2-11 来館手段(複数回答可)

【来館頻度】来館頻度は、公演時が初来館であった比率は、公演1では8%、公演2では15%であり、これは年間でサマーコンサートと定期演奏会をセットで鑑賞する鑑賞者がいる影響と考えられる。三重大学管弦楽団の公演鑑賞以外を目的に、三重県文化会館に来館したことがあるのは、両公演を通じて60%前後である。

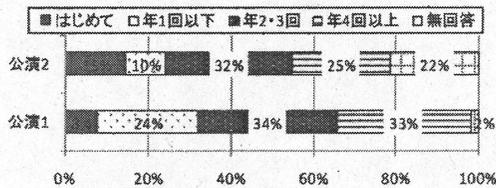


図3-2-2-13 来館頻度

3-2-3 過ごし方

アンケート調査により得られた、公演前、休憩時間、公演後の過ごし方について、分析考察を行う。その後、ホワイエにおけるマッピング調査により得られた、行為、行為と物的要素の関係性、エリア別滞在人数、エリア別鑑賞者の属性について、分析考察を行う。

【来館時間】公演1では72%、公演2では62%の鑑賞者が開場時間に余裕をもって、もしくは開場時間に合わせて来館している。公演1と公演2で異なるのは、45分以上前に来館した鑑賞者の比率であり、入場者数が異なるため、座席確保や、開場までの待ち時間に余裕をもった鑑賞者が公演1に多かったと予測する

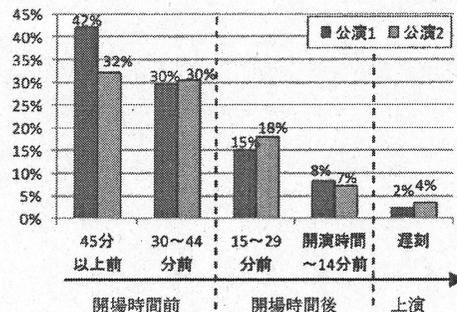


図3-2-3-1 来館時間

【場所選択】公演前の場所選択は、両公演を通じて、ホール内の座席が60%前後である(図3-2-3-2)。座席確保の理由の他に、パンフレット確認は着座の姿勢が望まれることが影響しているとも考えられる。各公演の選択率の差は、公演1の方が公演2と比較し、鑑賞者が多く座席確保の必要があったため、ホワイエ内の混み具合が異なったためと考えられる。休憩時間の場所選択は、両公演を通じて、ホール内に留まるとした回答者が70%を超え、休憩時間にはホール外へ移動しない傾向にある(図3-2-3-3)。公演後の場所選択は、両公演を通じて約半分の鑑賞者が「直帰する」と回答している(図3-2-3-4)。公演前から公演後を通して、屋外テラスの利用は少ないことが分かる。センター内の他施設は、公演後は公演前の半分以下の利用となっており、公演終了時間が影響していると考えられる。屋外テラスやセンター内の他施設での行為に関しては、第4章で分析考察を行う。

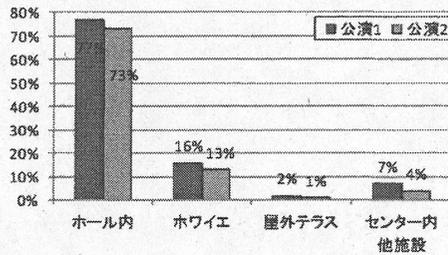
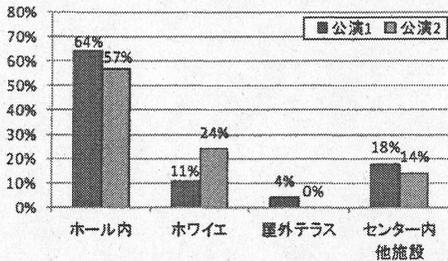


図3-2-3-2 公演前の場所選択 (複数回答可)

図3-2-3-3 休憩時間の場所選択 (複数回答可)

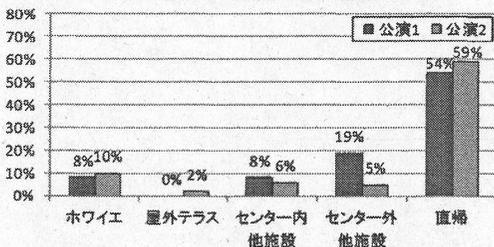


図3-2-3-4 公演後の場所選択 (複数回答可)

【行為】ホワイエおよびホール内で回答された14行為について、表3-2-3-1で定義する。

表3-2-3-1 行為の定義

行為	内容
パンフレット確認	配られたもしくは購入したパンフレットを確認する行為。
会話	2人以上で話をする行為。
アンケート回答	配られたアンケートを読み、回答する行為。
読書	パンフレットやピラ以外の書籍を読む行為。
飲食	食べ物や飲み物を摂取する行為。
イベント情報確認	ピラやポスター等を確認する行為。
クローク利用	荷物を預ける行為。プレゼント贈呈の手続きをする行為。
特になし	意図的に何もせず、滞在する状態。
待機	ある時間まで所定の場所で、会う予定の人を待つ行為。
ゲーム	小型のゲーム機を持ち込み、使用する行為。
携帯電話使用	携帯電話を用いて、通話、メールの確認や作成、付属しているカメラ機能等を使用する行為。
睡眠	仮眠をとる行為。
座席確保	座る座席を選択し、着座や荷物置きにより確保する行為。
音楽鑑賞	BGM以外の音楽を聴く行為。

【ホワイエ内行為】回答されたホワイエ内行為は、全部で11行為あった。「パンフレット確認」、「会話」、「アンケート回答」、「読書」、「飲食」、「イベント情報確認」、「クローク利用」、「特になし」、「待機」、「ゲーム」、「携帯電話使用」である。公演前に9行為、休憩時間に7行為、公演後に3行為の回答が得られており、公演前と休憩時間に多様な過ごし方がなされている。

公演前、両公演を通じて会話の選択率が高いが、公演2では「読書」「イベント情報確認」「特になし」「待機」「ゲーム」と、より多様な行為の回答が得られた(図3-2-3-5)。休憩時間、両公演を通じて30%前後が会話である。また、「携帯電話使用」が特徴として挙げられる。公演1で「飲食」の選択率が高いのは、ホワイエ内の喫茶店が開いていたためと考えられる(図3-2-3-6)。公演後では、「アンケート回答」の選択率が高く、アンケートの内容から公演後の記入が望まれることが関係している(図3-2-3-7)。(※三重大学管弦楽団のアンケート内容に関しては、巻末資料に添付。)

「アンケート回答」はホワイエ内の机やソファを用いられる場合が多い。

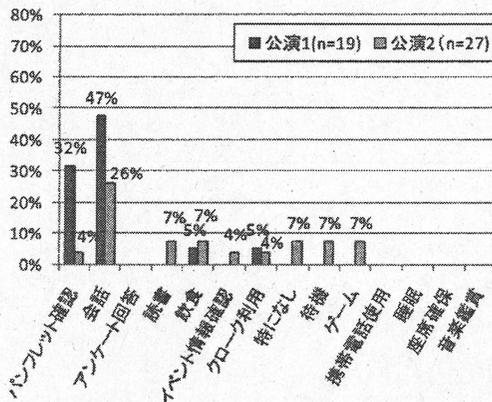


図3-2-3-5 公演前のホワイエ内行為(複数回答可)

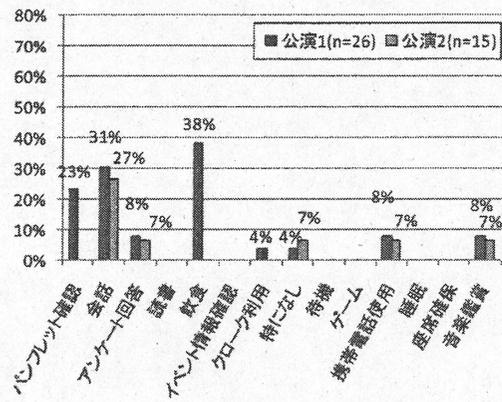


図3-2-3-6 休憩時間のホワイエ内行為

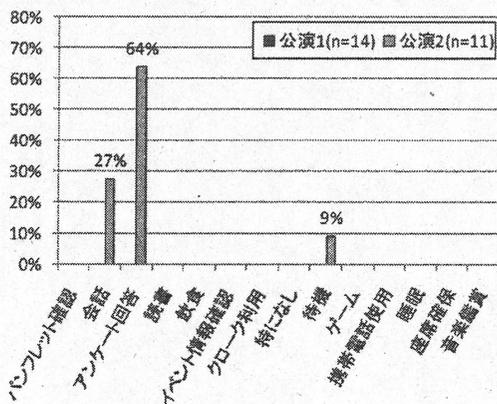


図3-2-3-7 公演後のホワイエ内行為

公演後に関して、公演1はアンケート内容、行為内容が得られていない。公演2でアンケート内容を変更し、行為内容の回答を得た。

【ホール内行為】場所選択の前述により、公演前と休憩時間に、ホワイエよりホールで滞在する鑑賞者が多いことが分かった。ホール内とホワイエ内の行為の比較分析を行い、それぞれの特徴を考察する。

回答されたホール内行為は、全部で9行為であった。「パンフレット確認」、「会話」、「アンケート回答」、「読書」、「イベント情報確認」、「特になし」、「睡眠」、「座席確保」、「音楽鑑賞」である。行為の種類で比較すると、ホワイエ内のみでの行為が「飲食」、「クロック利用」、「待機」、「ゲーム」、「携帯電話使用」であり、ホール内のみでの行為が「睡眠」「座席確保」である。

公演前のホール内行為は、両公演を通じて「パンフレット確認」「会話」の順で多い。座席確保後、公演までにパンフレット確認を行い、曲目や団員の配置について予習する習慣があると考えられる。パンフレットにアンケートとビラが挟まれて配布されているため、そちらに興味をもち、「パンフレット確認」に続き「アンケート回答」「イベント情報確認」に移行することがあり、特に公演2にその傾向がみられる。また、公演1では「座席確保」の選択率が公演2より高くなっており、鑑賞者数の差や2階席も使用可能であり座席選択の範囲が広がったことが影響していると考えられる。休憩時間のホール内行為は、両公演を通じて「パンフレット確認」「会話」「アンケート回答」が多い。

ホール内では、「座席確保」の他に、「パンフレット確認」「アンケート回答」「イベント情報確認」という、座位での読む・書くといった行為が主であることが特徴としてあげられる。ホワイエ内では、ホール内では行えない「飲食」「携帯電話使用」「ゲーム」等の行為が可能な他、公演前の「会話」比率が高いことが特徴としてあげられる。

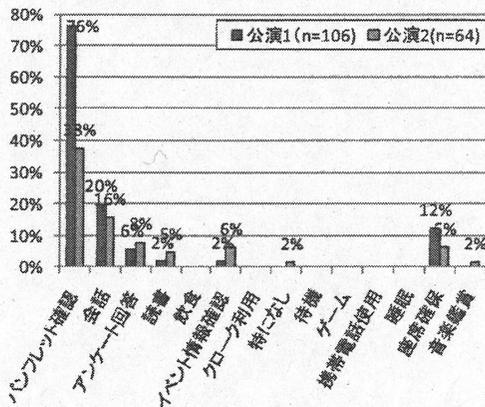


図 3-2-3-8 公演前のホール内行為

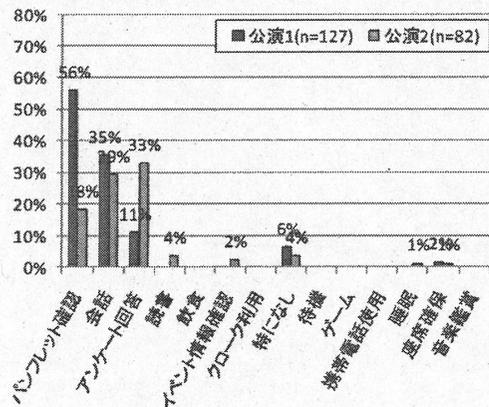


図 3-2-3-9 休憩時間のホール内行為

次に、マッピング調査により得られた、公演2のホワイエ利用実態について記述する。

【ホワイエ内行為】記録したホワイエ内行為は、全部で14行為であった。アンケートでは得られなかったがマッピングで記録されたホワイエ内行為は、「サイン確認」「ロッカー使用」「荷物整理」「着衣」である。マッピングでは記録されなかった行為は「イベント情報確認」「待機」「ゲーム」である。(※「イベント情報確認」はビラがパンフレットに挟まれているため、「パンフレット確認」と判断がつきにくい。「待機」は他の行為と並行している場合が多いため、判断がつきにくい。小型ゲーム機を所有していた鑑賞者は観察されなかったため、アンケートで得られた「ゲーム」は携帯電話でされたものと判断する。)

まず、公演Ⅰでは、「クローク利用」の比率が高いことが分かる。また、「ロッカー利用」や「サイン確認」等、座席確保前に済ませるであろう行為がなされており、気分転換や交流の要素がある滞在ではないことが分かる。次に、公演Ⅱでは「クローク利用」の混みあいが軽減され、「会話」「飲食」「眺める」「荷物整理」等の行為が増えている。休憩時間の滞在は、「会話」が中心であり、「アンケート回答」「特になし」「携帯電話使用」の比率が増えている。公演後は、鑑賞者同士や鑑賞者と楽団員の「会話」が増え、「アンケート回答」をクローク受付机やソファでする鑑賞者が増える。

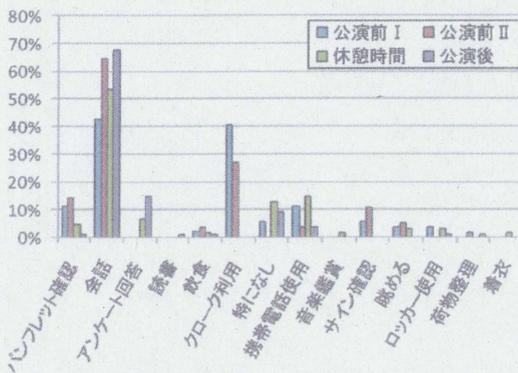


図 3-2-3-10 ホワイエ内行為

【滞在人数と滞在位置分布】

時間別の滞在人数に関して、ゾーンAは喫茶店が開いていなかったため、調査時は終始利用が少なかった。ゾーンBは、公演前と休憩時間では滞在人数が変わらないが、公演後に約2倍滞在人数が増えている(図3-2-3-11)。公演前I、公演前II、休憩時間、公演後の滞在位置分布図を図3-2-3-12から図3-2-3-15に示す。特に、鑑賞者が5人以上集中して滞在している位置を赤で示す。公演前はクロック受付机付近に滞在位置が集中しているのに対し、休憩時間はゾーンAで比較的分散している。公演後は滞在人数が多いため、さらに滞在分布がゾーンAの中で分散されている。

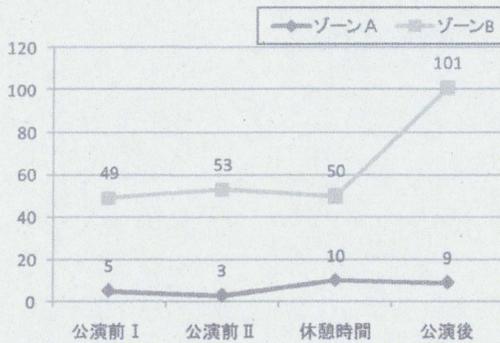


図3-2-3-11 時間別ゾーン別滞在人数(述べ人数)

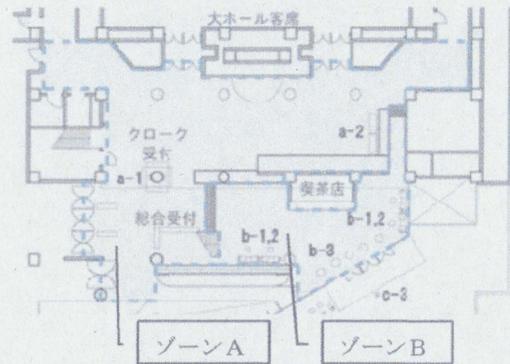


図3-2-3-1 調査対象範囲と付属的要素の位置(一部抜粋)

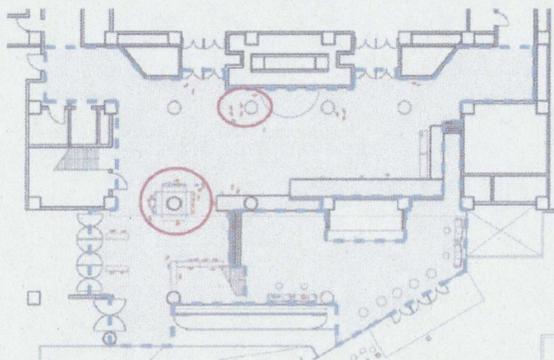


図3-2-3-12 公演前I滞在位置分布

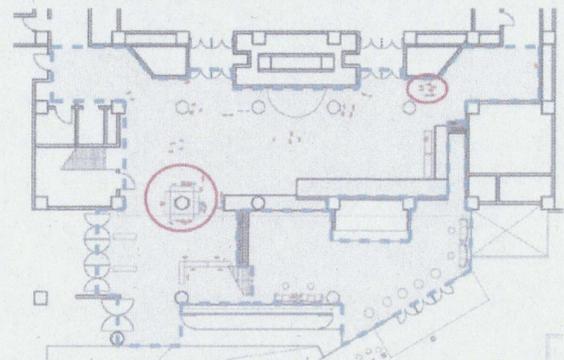


図3-2-3-13 公演前II滞在位置分布

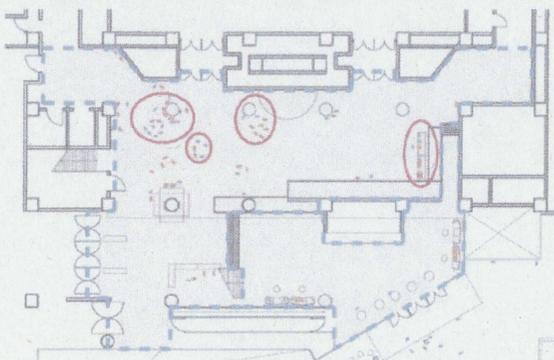


図3-2-3-14 休憩時間滞在位置分布

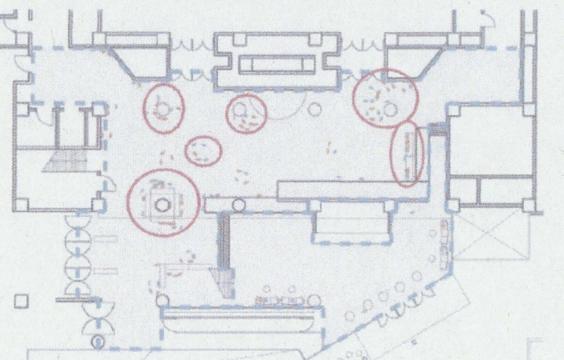


図3-2-3-15 公演後滞在位置分布

【滞在位置と物的要素と姿勢】

ゾーンBは、ソファを利用した座位での滞在がほとんどであることが分かる。ゾーンAは、クローク受付機を利用した前かがみや膝をつきながらの滞在、ホール扉側の柱まわりでの立位による滞在が集中している。ゾーンごとのレベル差を利用した石盤調の段や壁も、腰かけたりやもたれかかっの姿勢で、滞在されていた。

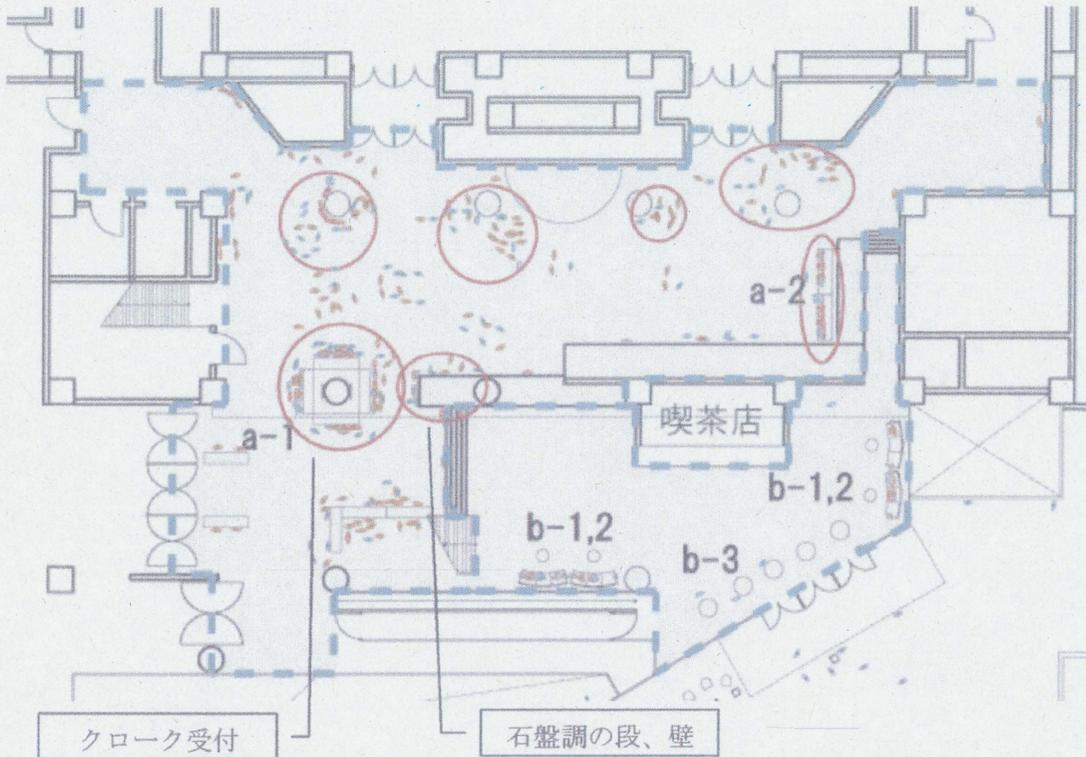


図 3-2-3-16 公演時のホワイエ内滞在位置分布

【ソファの利用】

マッピングで記録したソファの利用について、ゾーンAのソファⅠに関しては表3-2-3-2、ゾーンBのソファⅡに関しては表3-2-3-3に示す(図3-2-1-1参照)。ソファⅠ(a-2)は休憩時間、公演後に利用率高く、5分以内の短時間の利用が目立ち、利用者の入れ替えが頻繁である。公演後には、アンケート回答他多様な行為を記録した。ソファⅡ(b-1)は、ソファⅠと比較し合計の利用時間は少なく、1人で利用、もしくは2人での会話による利用が多い。ソファⅠとソファⅡでは、利用目的や利用時間に影響が出ている。

ソファⅠの利用者年齢層は、10代30代40代の利用が最も多く、50代以降の利用は少ない。ソファⅡの利用者年齢層は、30代40代50代が多くなっており、時間によってはソファが空いている状況が関係していると考えられる。どちらにも共通するのは、30代のソファ利用が多く、休憩時に座位が望まれるであろう60代以上のソファ利用は少ないことである。年齢層別のソファ数満足度に関しては、3-2-4満足度で示す。

表 3-2-3-2 ソファⅠの利用時間と行為内容

	公演前Ⅰ	公演前Ⅱ	休憩時間	公演後
パンフレット確認			1	
会話			9	3
アンケート回答				32
読書				3
飲食	1	3	1	11
特になし			14	1
携帯電話使用			14	3
音楽鑑賞				
眺める			10	
荷物整理				1
着衣			1	
合計時間(分)	1	3	50	54

表 3-2-3-3 ソファⅡの利用時間と行為内容

	公演前Ⅰ	公演前Ⅱ	休憩時間	公演後
パンフレット確認	8		2	
会話			23	16
アンケート回答				
読書				
飲食			3	
特になし	4	5	6	8
携帯電話使用			5	4
音楽鑑賞			5	
眺める				
荷物整理				
着衣				
合計時間(分)	12	5	44	28

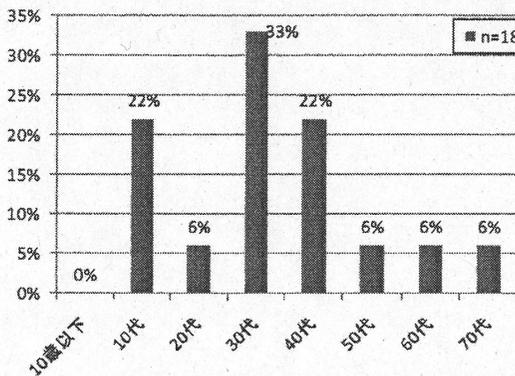


図 3-2-3-17 ソファⅠの利用者年齢層

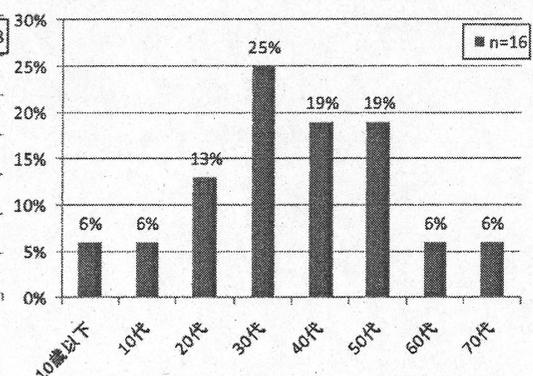


図 3-2-3-18 ソファⅡの利用者年齢層

3-2-4 満足度

アンケート調査により得られた、ホワイエの雰囲気、広さ、ソファ数の満足度について、分析考察を行う。

【ホワイエの雰囲気】両公演を通じて、「よくない」の回答はなく、60%前後の鑑賞者が「よい」「ややよい」という肯定的な評価をしていることが分かる。公演1と比較し公演2の方が評価がよいことから、ホワイエの混み具合が満足度に影響している可能性がある。

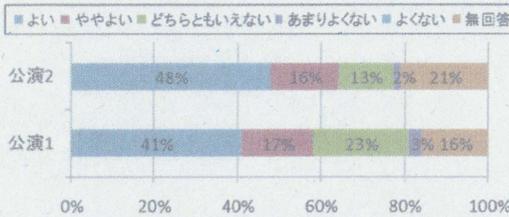


図3-2-4-1 ホワイエ満足度 (雰囲気)

【ホワイエの広さ】公演1では公演2と比較して、「広い」の比率が低く、「どちらともいえない」「やや狭い」「狭い」の比率が高くなっている。鑑賞者数の違いによる、ホワイエの混み具合が影響していると考えられる。また公演1では2階ホワイエも利用可能だったため、2階ホワイエの広さの評価が含まれていると考えられる。

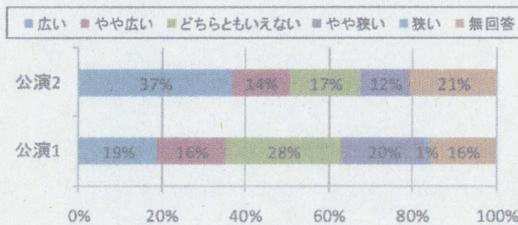


図3-2-4-2 ホワイエ満足度 (広さ)

【ホワイエのソファ数】ソファ数が「不十分」「やや不十分」と考える鑑賞者が、公演1では24%公演2では36%おり、現在のソファ数、ソファの種類(寸法、形状)、設置箇所、配置等に不満足である要因があると考えられ、検討が求められる。特に公演1では、否定的な回答比率が肯定的な回答比率を上回っており、鑑賞者数に対し、ソファを利用できなかった人が多かったと考えられる。

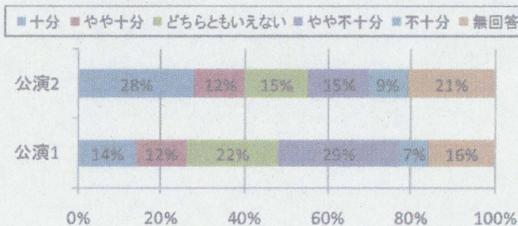


図3-2-4-3 ホワイエ満足度 (ソファ数)

3-2-5 相関

鑑賞者の属性間に相関が見られたものを以下に示す。

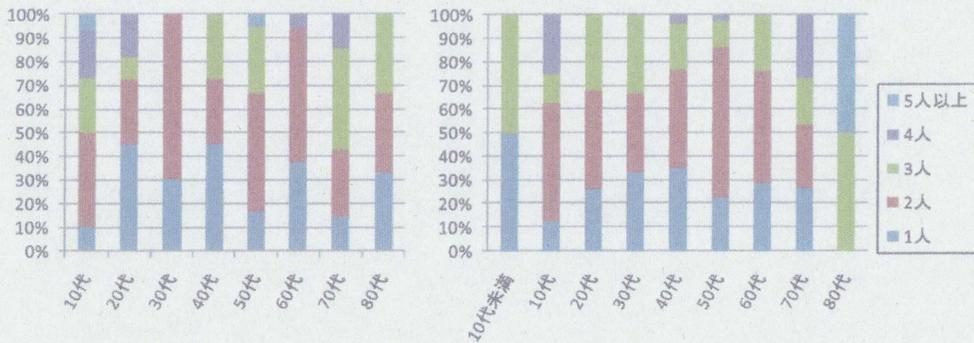
【年齢層と交通手段】公演2の場合 Pearson のカイ2乗漸近有意確率が0.028であり、双方に何らかの関係性が見られる。公演2では、10代20代において様々な交通手段が利用されているが、それ以外の年齢層では「車」、「電車」の利用が中心であることが分かる。公演1では、公演2と比較し、どの年齢層においても様々な交通手段が利用され、特に「自転車・バイク」「徒歩」で来た鑑賞者の年齢層が分散している。



左：公演1 (n=158) 右：公演2 (n=108)

図3-2-5-1 年齢層と交通手段のクロス図

【年齢層と来館人数】公演2の場合 Pearson のカイ2乗漸近有意確率が0.000であり、双方に何らかの関係性が見られる。公演2では、年齢層が若いにつれて、1人での来館が減り、3人以上での来館比率が高くなる傾向にある。50代に2人以上が多いのは、前述にもあるように、夫婦での来館が多いためである。公演2においては、40代から80代にかけて、3人以上の来館比率が高く、家族での来館が関係している。



右：公演1 (n=153) 左：公演2 (n=106)

図3-2-5-2 年齢層と来館人数のクロス図

今回の調査では、行為内容と鑑賞者の属性間に何らかの関係は見られなかった。公演2では、頻度と来館時間に強い相関があり、Pearsonの相関係数が0.739であった。来館頻度が高い程、来館時間が早い傾向にある。他の2変量の相関は、非常に弱い相関もしくはほぼ無相関のどちらかであった。

ホワイエの満足度と相関が見られた属性に、年齢層と来館頻度と来館人数があげられる。

【年齢層とホワイエの雰囲気満足度】公演1の場合 Pearson のカイ2乗漸近有意確率が0.035であり、双方に何らかの関係性が見られる。公演1では、どの年齢層においても「よい」の回答が4割を超えている。しかし、年齢層が高くなるにつれ、「ややよい」「どちらともいえない」の回答が増える傾向にある。公演2も、同様の傾向が見られ、「ややよくない」という否定的な回答を50代以上から得ている。

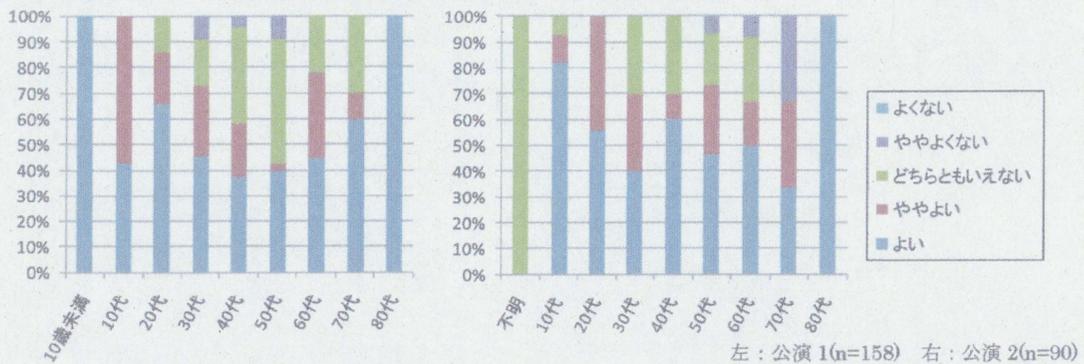


図3-2-5-3 年齢層とホワイエ満足度（雰囲気）のクロス図

【年齢層とホワイエの広さの満足度】公演2の場合 Pearson のカイ2乗漸近有意確率が0.010であり、双方に何らかの関係性が見られる。また、Pearsonの相関係数が0.335であり、非常に弱い相関が見られる。公演2では、年齢層が高くなるにつれ、「広い」の回答が減り、「やや狭い」の回答が増えている。公演1では、10・20・30代と60・70代はそれぞれ似た比率となっているが、40代50代では「やや狭い」の回答が多く、評価が低い年齢層となっている。

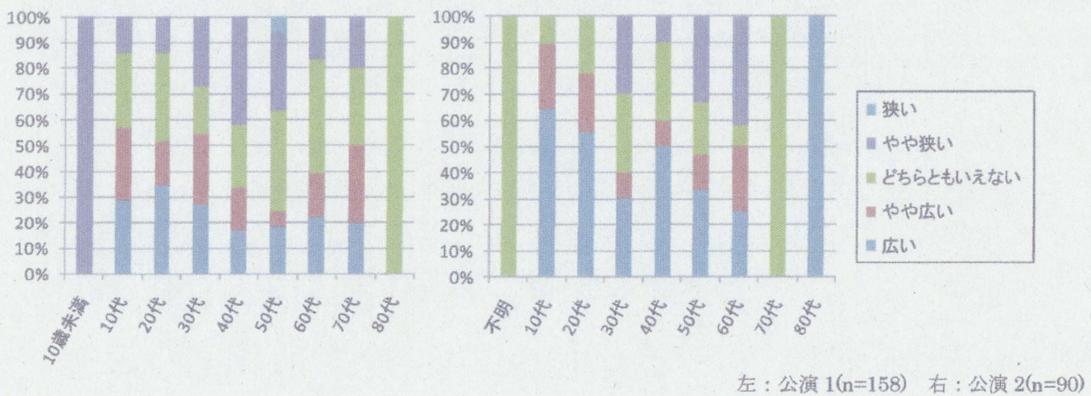


図3-2-5-6 年齢層とホワイエ満足度（広さ）のクロス図

【年齢層とホワイエ内のソファ数の満足度】公演2の場合 Pearson のカイ 2 乗漸近有意確率が 0.048 であり、双方に何らかの関係性が見られる。公演2では、年齢層が高くなるにつれて、「やや不十分」「不十分」といった否定的な回答が増える傾向にある。年齢層が高いほど着座が望まれることが影響していると考えられる。マッピング調査によると、60代以降の高齢者のソファ利用が少なく、「不十分」の回答比率が高くなっている。また、実際は30代40代によるソファ利用が多かったが、30代40代においても「やや不十分」「不十分」の回答比率が高い。ソファを利用したものの、混雑しており望ましくない利用状況であった可能性もある。公演1では、年齢層により比率に差があるが、10代を除き「やや不十分」「不十分」といった否定的な回答が3割以上見られる。

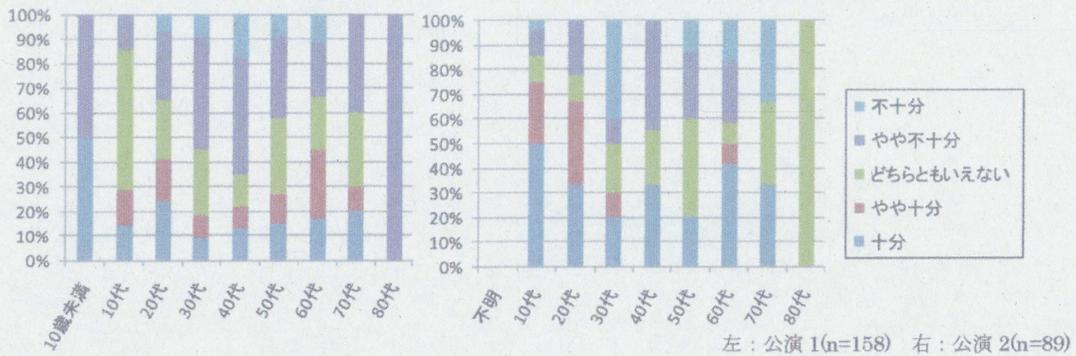


図 3-2-5-7 年齢層とホワイエ満足度 (ソファ数) のクロス図

【来館頻度とホワイエの雰囲気への満足度】公演2の場合 Pearson のカイ 2 乗漸近有意確率が 0.007 であり、双方に何らかの関係性が見られる。公演2では、来館が頻繁なりピーターにつれ、「よい」の比率が低く、「どちらともいえない」「ややよくない」の比率が高くなる傾向にある。公演1では、「よい」の比率は横ばいであるが、「ややよい」「どちらともいえない」「ややよくない」の比率が変化している。

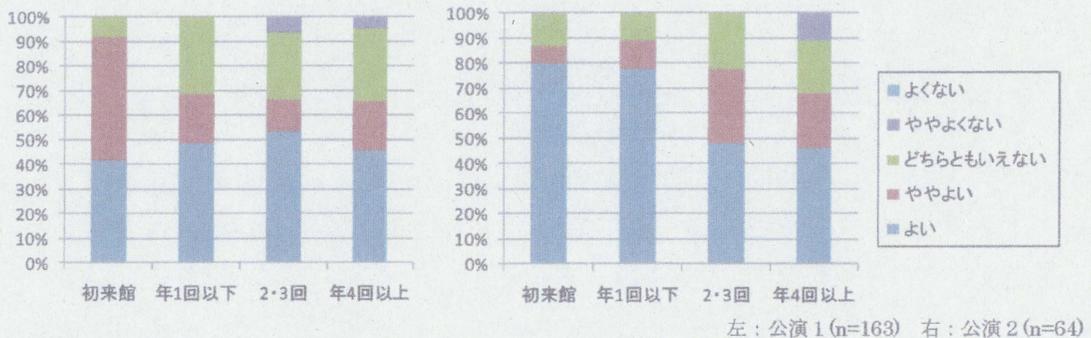


図 3-2-5-9 来館頻度とホワイエ満足度 (雰囲気) のクロス図

3-2-6 レイアウト

公演2のホワイエのレイアウトと、施設スタッフへのヒアリングにより得た他公演のレイアウトパターンを図3-2-6-1に示す。

公演2のホワイエのレイアウトは、三重大学管弦楽団によるものである。三重県文化会館のリピーターであるため施設利用に慣れており、レイアウトも固定化されていると推測される。

他公演のレイアウトでは、公演2の a-1 部分に同様に長机を配置し、ビラ採取等に用いられることが多い。公演2の総合受付部分は、同様に受付やクロークに利用されることが多い。また、パンフレット販売やグッズ販売は、段差前やロッカー前に長机を配置して行う場合が多い。ただし、ロッカー前に長机を配置する場合は、その部分のロッカーを使用しないことが前提となる。その他、鑑賞者が多い公演では、ホワイエ外に長机を配置してチケットもぎりを済ませることで、ホワイエ入口付近の混雑を防ぐ対処がなされている。

以上より、公演2は他公演のレイアウトパターンに沿ったレイアウトであることが分かる。ビラはパンフレット内に挟まれているため、ビラ採取の長机は配置されず、付属的要素の少ない公演であった。

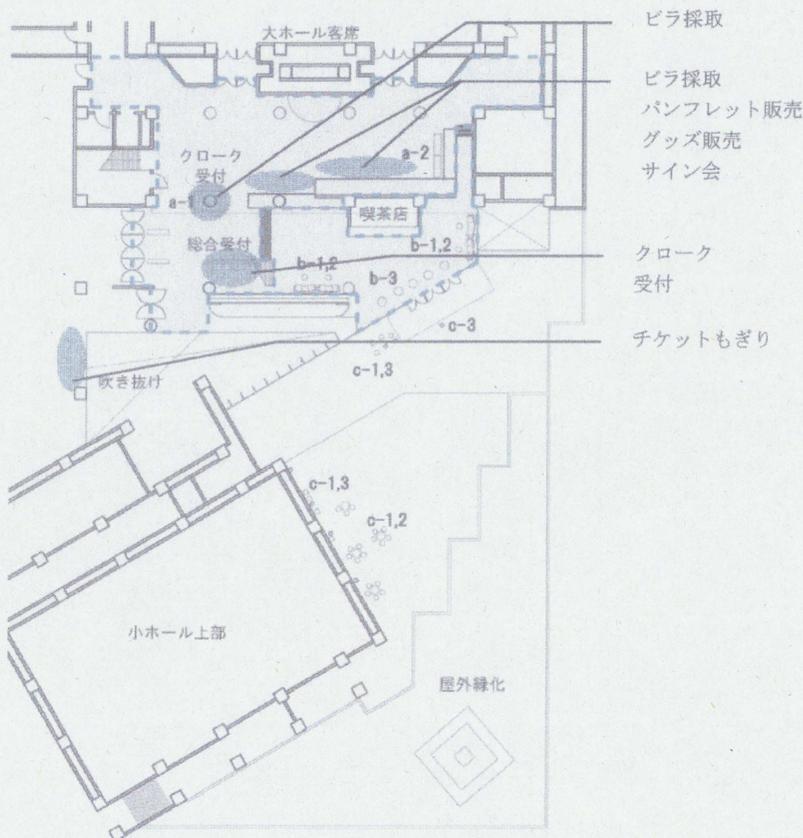


図3-2-6-1 公演2のレイアウトと他公演のレイアウトパターンとの対応

3-3 三重県文化会館小ホールホワイエ利用実態

3-3-1 調査の概要

【調査対象範囲】三重県文化会館小ホールのホワイエである。調査対象範囲について、図3-3-1-1に示す。常設の付属的要素は、ソファ、オブジェ、ピラの入ったカタログスタンド、簡単なカフェコーナーになりうるコの字型ハイテーブルである。

【CSの特徴】駐車場と隣接している点、ホワイエの面積が1人あたり1.00 (㎡/人)であることがあげられる。

【調査対象公演】第七劇場の「かもめ」(以下、公演3)である。公演3は2日間にわたって上演されている。初日は、2010年12月11日で18時15分にホワイエ開場、18時40分にホール開場、19時に開演である。2日目は、12月12日で13時15分にホワイエ開場、13時30分にホール開場、14時に開演である。

【調査方法】公演初日に観察調査、後日に三重県文化会館の担当スタッフに対してヒアリングを行った。観察調査は、公演前、休憩時間、公演後に行い、鑑賞者の属性、鑑賞者と劇団員の滞在位置分布、行為に影響を及ぼす物的要素について、観察した。ヒアリング調査の内容は、初日と2日目で家具レイアウトが変更されており、家具レイアウトの意図と変更の経緯についてである。

【留意点】第七劇場による「かもめ」公演は、初演を2007年に学習院女子大学、2回目を2010年に名古屋千種小劇場で行っており、調査時が3回目の公演である。鑑賞者の中にリピーターがいることが考えられる。また公演3は上演のみでなく、3日間ワークショップ→ワークショップ公演→プレトーク(後、ティーパーティー)→公演3(1日目)→アフタートークというスケジュールになっており、複数のイベントに参加する鑑賞者がいた。

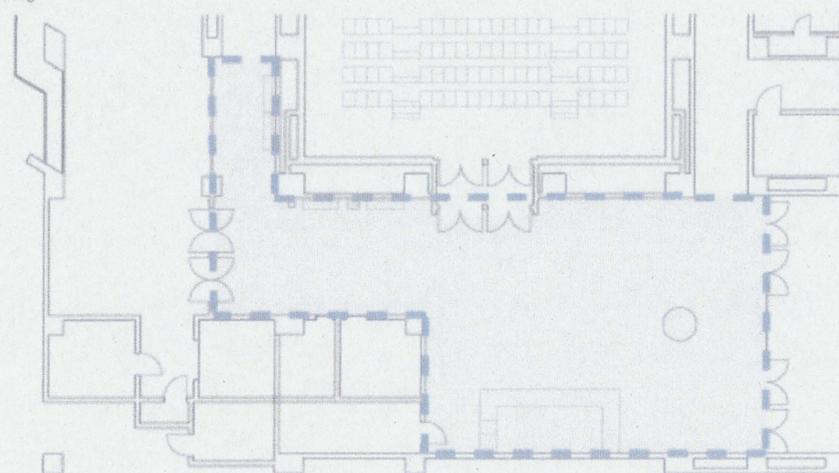


図3-3-1-1 調査対象範囲 (※常設家具のみ記載)

3-3-2 鑑賞者の属性

鑑賞者数は、1日目140人前後、2日目160人前後である。年齢層は幅広く、ワークショップに参加した学生、高校演劇連盟に所属する高校生等、10代20代も確認した。

3-3-3 過ごし方 (公演1日目)

【滞在人数と滞在位置分布】公演前、ホワイエ開場時間からホール開場時間まで25分あり、その間ホワイエが混雑した(写真3-3-3-1)。通常ホワイエ開場時間とホール開場時間の差は15分間だが、公演3では公演前にパフォーマンスがあったため、ホール開場を10分遅く設定していたことが影響している。休憩時間は、上演中にはなく、終演とアフタートークの間に5分程度あり、帰宅やトイレ等の休憩を目的にホールを出た鑑賞者は20人程度と少なかった。アフタートーク後は、出演者がクローク横に並んでおり(写真3-3-3-2)、出演者や主宰のまわりに鑑賞者の滞在位置分布が見られた。15分以上滞在した鑑賞者には、打ち上げの告知がされ、希望者は施設スタッフに誘導されて、小ホール裏のワークショップ室に移動した。

【ホワイエ内行為】公演前、「会話」、「挨拶」、「パンフレット確認」「展示物確認」、「ピラ採取」「携帯電話使用」の行為が見られ、「パンフレット確認」や「会話」が中心である。休憩時間は、「トイレ」、主宰に「挨拶」、「展示物確認」、途中で帰る「通過」の行為が見られた。この間、施設スタッフと主宰はUSTREAM配信の準備をしていた。アフタートーク後は、公演前の行為に加えて、「グッズ購入」、「アンケート回答」等の行為が見られた。



写真 3-3-3-1 公演前混雑時のホワイエ利用状況

写真 3-3-3-2 公演後のホワイエ利用状況

3-3-4 レイアウト

ホワイエのレイアウトが施設スタッフにより変更されることは、2日間公演のある演劇部門においてであり、自主事業に限定される。1日目と2日目のホワイエレイアウトを図3-3-4-1、図3-3-4-2に示す。両日を通じて、備え付け備品以外の貸出備品が利用されており、公演3は備品が多いケースだといえる(表3-3-4-1)。1日目から2日目の変更点として、入口付近に当日券売場の設置、クロークとショップの分離、受付の机配置、ポール設置、ハイテーブルエリア排除(中ホールに戻す)があげられる。変更理由には、前述の初日のホワイエの飽和状態があげられ、当日券をホワイエ外で販売する、最も混雑が見られた受付部分において、チケットもぎりと整理券・パンフレット配布を分ける、ポールを設置し列が作りやすいよう誘導する等の工夫がされている。まるいハイテーブルは普段中ホールに常設されているものであり、プレトーク後ティーパーティーがあった関係もあり、本公演では貸出されていた。

表 3-3-4-1 公演時の付属的要素

日程	備品	設置数	備え付け	貸出
1日目	長机	10	5	5
	折りたたみ椅子	5	5	-
	ハンガーラック	2	-	2
	ボード	3	-	3
	T字型看板	2	-	2
	ハイテーブル	3	-	3
2日目	長机	11	5	6
	折りたたみ椅子	5	5	-
	ハンガーラック	2	-	2
	ボード	3	-	3
	T字型看板	2	-	2
	ポール	10程度	-	10程度

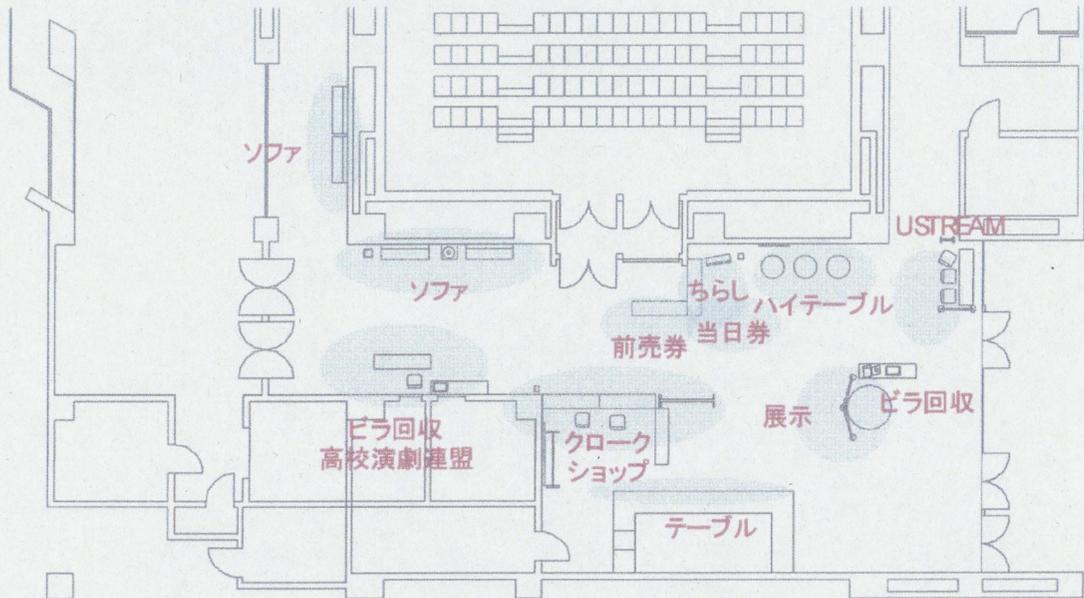


図 3-3-4-1 公演1日目のホワイエレイアウト

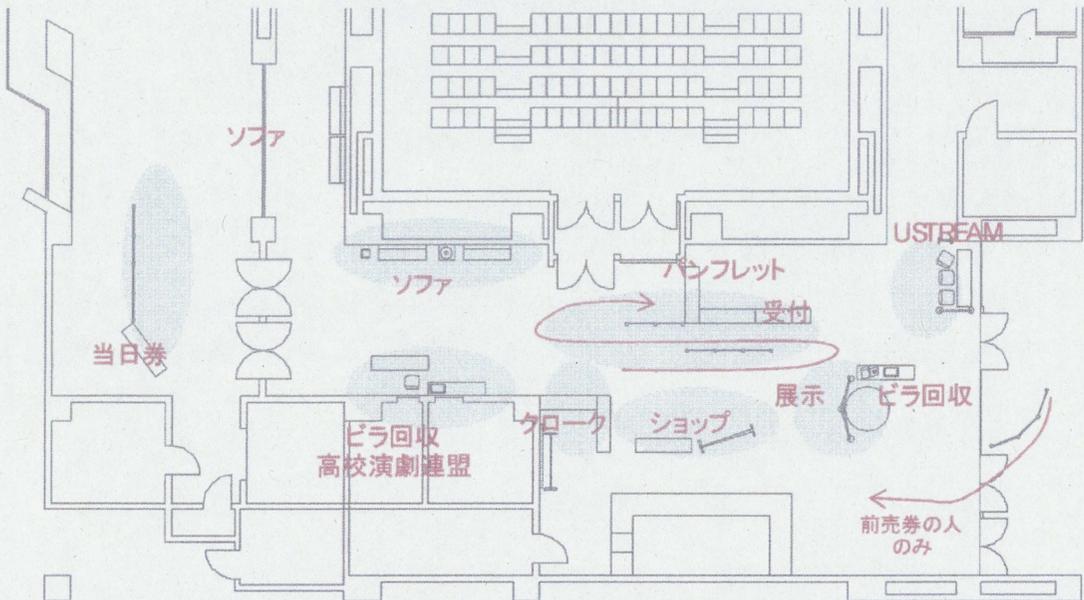


図 3-3-4-2 公演2日目のホワイエレイアウト

3-3-5 ホール備品の利用方法

施設利用の申し込みや備品の利用は、施設利用サービスセンターの管轄である。申し込みから施設利用までの流れは、①利用日の1年前にあたる月の初日から14日前までに、申し込みをする→②支払いを済ます→③予約時もしくは使用の1カ月前から2週間前に打合せを行う→④利用当日に、鍵の受け取り、となっている。①に関して、希望者が多い場合は、1年前にあたる月の初日にサービスセンターにおける抽選により決定する。また、国・県・市町村の公共機関が主催または共催する事業（施設の自主事業を含む）は、2年前からの先行受付が可能である。③に関して、打合せでの確認事項は、タイムスケジュール・舞台レイアウト・備品の利用、ロビー、楽屋の利用方法・入場方法・入場料・当日券等の確認・危険物等の禁止行為の有無である。備品の利用は、各ホールの主催者控室に備え付け備品がある説明を受けた後、さらに備品を希望する場合は備品台帳に記入を行う。備品は基本的に先着順であり、上限は机100本椅子300脚である。各ホールの備え付け備品のリストを表3-3-5-1に示す。大・小ホールの備え付け備品の説明に使われる資料を図3-3-5-1に示す。ホワイエやロビーの家具レイアウトに関して、全国大会等のリピーターではない公演の場合や希望があった場合のみアドバイスを行う。④に関して、利用当日に施設スタッフが避難経路として動線が確保されているか確認し、家具が動線の妨げになっている場合は、家具レイアウトのアドバイスをを行い、家具を移動する。

表3-3-5-1 備え付け備品

番号	備品	大ホール	小ホール
A	ピンクボード(大)	2	-
B	ピンクボード(小)	3	-
C	キャスター付 ホワイトボード	-	1
D	T字型看板	3	-
E	サインスタンド(小)	5	3
F	長机	8	5
G	折りたたみ椅子	10	5
H	台車	1	1

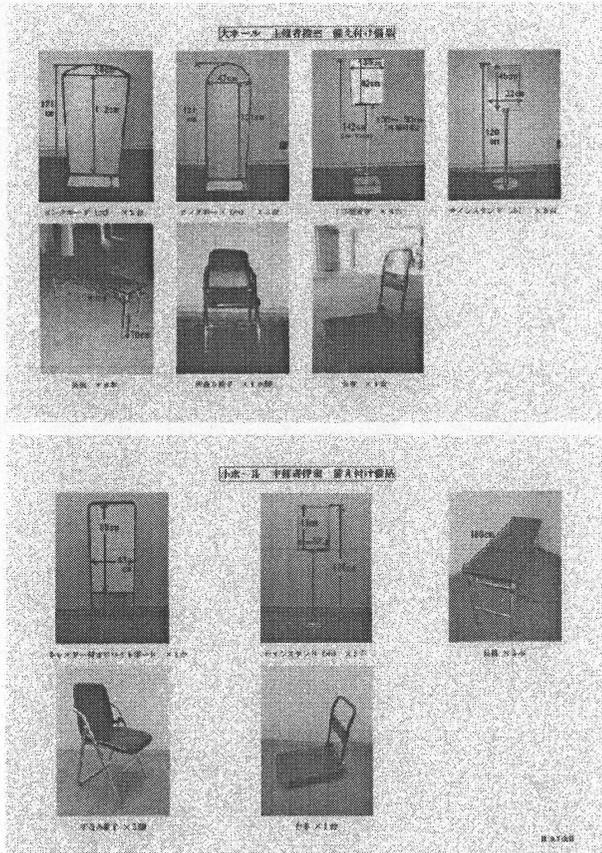


図3-3-5-1 備え付け備品説明用資料

上：大ホール 左上から A,B,D,E,F,G,H
下：小ホール 左上から C,E,F,G,H

3-4 北上市文化交流センター中ホールホワイエ利用実態

3-4-1 調査の概要

【調査対象範囲】北上市文化交流センター中ホールのホワイエである。調査対象範囲について、図3-4-1-1に示す。

【CSの特徴】日常的に一般開放されている点、ホワイエから練習室群に視界が開けており、見る見られるの関係がある点があげられる。特にアンサンブルルームⅠ、アンサンブルルームⅡはホワイエに面して配置されており、公演時も利用されていた。

【調査対象公演】コンソナンスの「韓国楽器のための伝統・現代音楽コンサート」(以下、公演4)である。

【調査方法】マッピング調査を行った。マッピング調査は、1セット15分間として、公演前2回(以下、公演前Ⅰ、公演前Ⅱ)、公演後1回行い、鑑賞者の属性、滞在行為、滞在位置、行為に影響を及ぼす物的要素について、調査票に記録した。

【留意点】公演4の鑑賞者数は30人前後であり、鑑賞者数が少ない公演の1事例である。

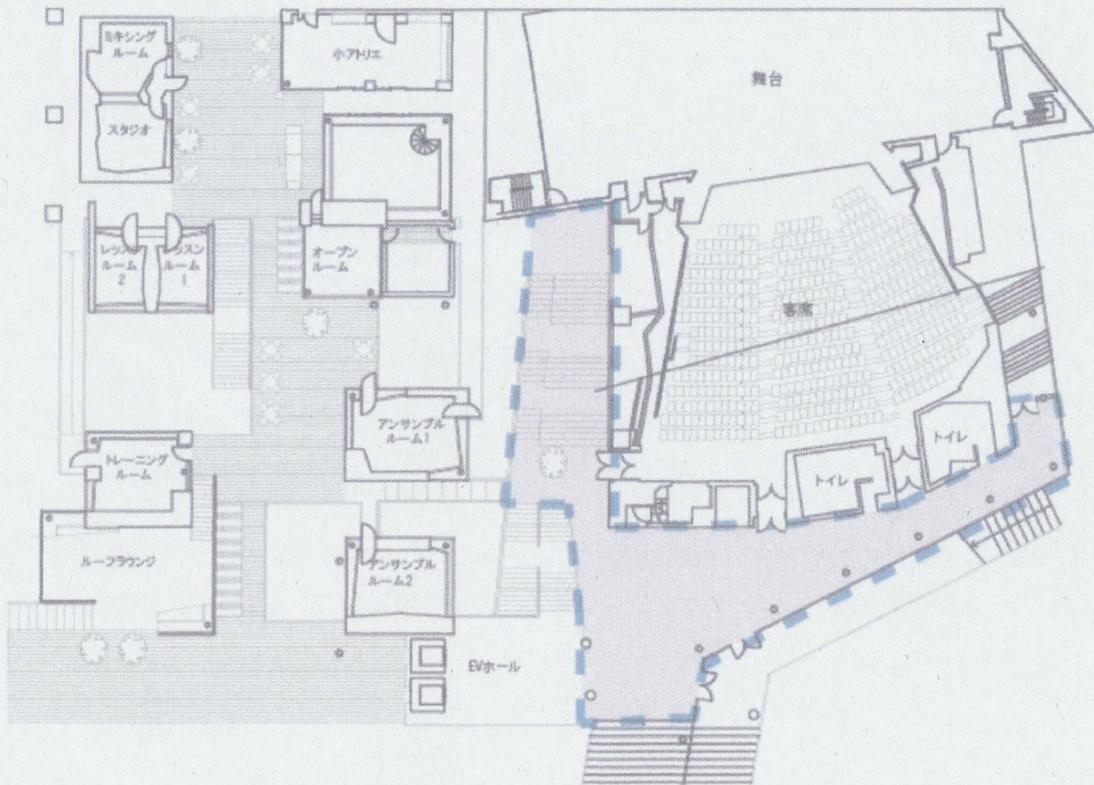


図3-4-1-1 調査対象範囲

3-4-2 鑑賞者の属性

マッピングにより、ホワイエにおける滞在者を29人確認した。性別は、女性の方がやや多い比率であった(表3-4-2-1)。年齢層は40代が最も多く、次いで20代30代となっている。20代30代に関しては、出演者の年齢層と近く、出演者の知り合いがいたと考えられる。また、公演内容から日本人以外の鑑賞者もあり、国際色豊かであった。

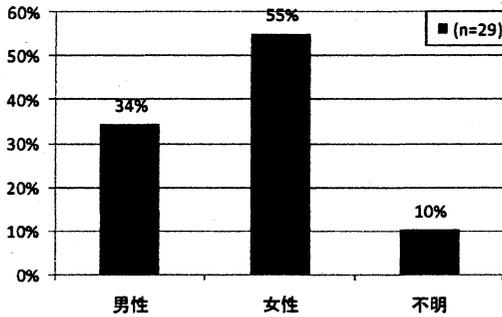


図 3-4-2-1 ホワイエ滞在者の性別 (述べ人数)

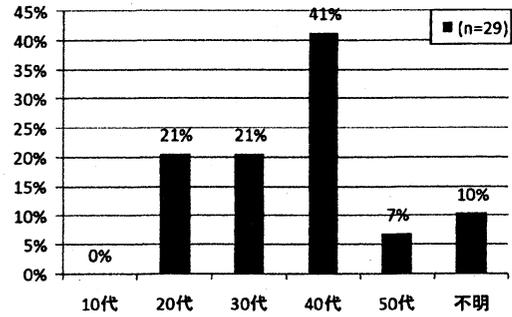


図 3-4-2-2 ホワイエ滞在者の年齢層 (述べ人数)

3-4-3 過ごし方

【ホワイエ内行為】「会話」、「案内板確認」、「パンフレット確認」を記録した。公演前のホワイエ滞在者は、公演前Ⅰで7人、公演前Ⅱで4人と少なく、受付を済ませてすぐホールに入る傾向があった。公演後には半分程度の鑑賞者がホワイエに滞在し、「会話」をしていた。また、出演者が鑑賞者の「会話」に加わり、積極的にコミュニケーションをとる場面が見られた。

【グループの滞在人数】2人グループ、3人グループをそれぞれ5組記録した。公演後には7人で輪になった滞人や、グループに出演者が加わった滞りが見られた。

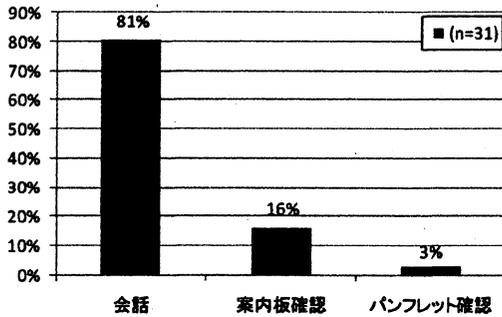


図 3-4-3-1 行為割合

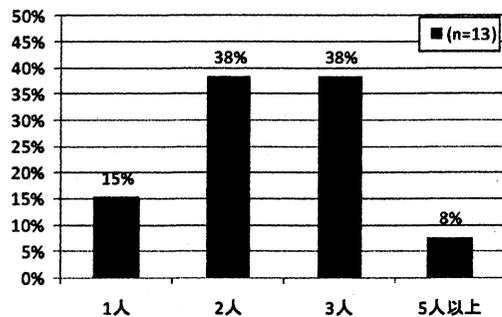


図 3-4-3-2 グループの滞在人数

【滞在行為と関係する物的要素】

ホールの出入口付近の壁面沿いや手すり付近での「会話」が見られ、ホワイエが混雑していない場合、壁面や手すりに近づいて会話していた。「通過」においても、ホワイエの中心ではなくやや壁面沿いを通る傾向にあった。その他に、案内板前での「案内板確認」が見られた。尚、ガラス面沿いのテーブルの利用はなく、掲示板のポスターを確認した鑑賞者はいなかった。

3-5 第3章のまとめ

2施設における、4公演について、公演時の場所選択、ホワイエ内行為、滞在位置分布、行為に関係する物的要素を分析考察したことで、4公演における共通点、相違点が見えた。以下に、それらをまとめ、本章のまとめとする。

【鑑賞者の属性】公演内容が、鑑賞者の属性に関係していた。

公演1	: 保護者、友人等の顔見知りの鑑賞者が多い。
公演2	: 公演2と同様に顔見知りの鑑賞者が多く、大学関係者の比率も高かった。
公演3	: 幅広い年齢層であり、高校生や大学生の鑑賞者も確認された。
公演4	: 鑑賞者数が30人前後と少なかった。20代から50代の鑑賞者であり、公演内容から外国人の鑑賞者もいた。

【場所選択】公演前は、ホールに入れる状況であれば、ホール内で過ごす鑑賞者が多い。公演後は、出演者や関係者がいる場合、ホワイエに残る傾向にある。

公演1・2	: 公演前後ホール内で過ごす鑑賞者が多く、ホワイエで過ごす鑑賞者は少ない結果となった。公演後は直帰する鑑賞者が多い。
公演3	: 公演前は、ホール開場までは、ホワイエ内で過ごす鑑賞者が多い。公演後はホワイエで出演者や主宰を囲む滞在看られた。
公演4	: 公演前はホール内で過ごす鑑賞者がほとんどである。公演後はホワイエで出演者を囲む滞在看られた。

【ホワイエ内行為】「会話」が中心である。公演前は「パンフレット確認」公演後は「アンケート回答」する流れがある。休憩時間は「携帯電話使用」「飲食」とホール内では行えない行為を目的として、ホワイエに移動する鑑賞者がいる。ボードによる展示やビラの入ったスタンド等、何か仕掛けがあると、それに反応する鑑賞者がおり、ホワイエ滞在が誘発される。

公演1・2	: 「会話」が中心である。公演前と休憩時間に多様な行為が確認された。公演前は開演15分前までは「クローカー利用」「ロッカー利用」「サイン確認」等を済ませる鑑賞者が多く、開演15分前から開演までは「会話」「飲食」等の休憩の要素がある行為が見られる。休憩時間は「携帯電話使用」「飲食」、公演後は「アンケート回答」が特徴としてあげられる。
公演3	: 公演前は多様な行為が確認され、「パンフレット確認」「会話」が中心であった。ボードの展示物に興味を示す鑑賞者もいた。公演後は公演前の行為に加えて、「アンケート回答」「グッズ購入」があった。
公演4	: 「会話」が中心であり、「パンフレット確認」はホール内でされていた。

【滞在位置分布】ホワイエが段差や形態でゾーンに分けられる場合、どちらかに滞在位置分布が偏る可能性がある。また、物的要素や公演前か後かといった時間に関係して、滞在位置分布は異なる。

公演2	: 喫茶店の営業がしていなかったことにより、ゾーンBに滞在者が少なく、ゾーンAに多かった。ゾーンBはソファ、ゾーンAではクロック受付机周辺とホール扉側の柱まわりに滞在位置の分布が見られた。時間ごとに、滞在位置分布に違いが見られた。
公演3	: ホワイエは長方形のシンプルな形態であり、全体的に飽和状態であった。
公演4	: ステップホワイエは利用されなかった。ホワイエ内に滞在グループが点々としているが、出入口付近の壁面沿いや手すりに近い場所に分布がやや偏っていた。

【行為に関係する物的要素】公演2公演3に共通して、ソファの利用は頻繁であり、「パンフレット確認」「アンケート回答」「荷物整理」等、座位が望まれる行為と関係している。公演3では、他の公演と比較して付属的要素が多く、それらに関連した行為による滞在が多い。公演4はテーブル等の付属的要素は利用されず、建築的要素のみが行為に関係しており、多様な行為は見られなかった。

公演2	: ソファとテーブル、クロック机、座席案内図、灰皿、柱、段差、ホール扉
公演3	: ボード、テーブル、カタログスタンド、ソファ、ハイテーブル
公演4	: 壁面、手すり

【ホワイエの満足度】年齢層や来館頻度と関係する。三重県文化会館大ホールの場合、ホール機能の充実により、ホワイエの面積は狭いが、ガラス面や吹抜け等の建築的要素によりカバーしていると考えられる。

公演1・2	: 雰囲気、広さに対する満足度が高い。大ホールのホワイエは、全階使用される場合0.40 (㎡/人)、公演2のように3階席とホワイエ2階が使用されない場合、0.37 (㎡/人)であり、狭いにも関わらず、肯定的な意見が多く、ガラス張りや吹抜けの開放感や明るさ感等が影響していると考えられる。ソファ数に関しては、不十分と感じる鑑賞者もあり、年齢層や来館人数と関係していた。
-------	---

第4章 練習室まわりのコモンスペースの利用実態

4-1 本章の目的・方法

4-2 三重県文化会館リハーサル室まわりのコモンスペース利用実態

4-3 北上市文化交流センター練習室まわりのコモンスペース利用実態

4-4 第4章のまとめ

4-1 本章の目的・方法

4-1-1 目的・方法

本章では、練習室及びリハーサル室まわりのCSを対象とする。マッピング調査や観察調査により、活動者や施設利用者の属性、滞在行為、滞在行為に関するCS内の物的要素を把握する。場合によっては、滞在行為に関する動線についても把握する。また空間的特性の異なる2施設間において、比較分析を行う。以上によって、活動者や施設利用者の特性、練習室まわりのCSにおける場の特性を分析・考察することを目的とする。

4-2 三重県文化会館リハーサル室まわりのコモンスペース利用実態

4-2-1 調査の概要

【調査対象範囲】三重県文化会館の第1・第2リハーサル室前のCSである。CSに調査対象範囲と物的要素について、図4-2-1-1、表4-2-1-1に示す。

【リハーサル室】第1リハーサル室はグランドピアノの備えやフローリング床により音楽利用、第2リハーサル室はリノリウム張り床によりバレエやダンスの練習に適している。

【CSの特徴】施設スタッフ、小ホール・ギャラリー等の利用者が通過するスロープが隣接している点(写真4-2-1-1)、リハーサル室活動者等が使用するトイレと自動販売機がある点、吹抜け空間であり見上げれば大ホールホワイエに視界が開けている点(写真4-2-1-2)があげられる。

【調査日程】リハーサル室利用と小ホールで講習会があった2011年1月20日(以下、調査1)、リハーサル室利用と大ホールで公演があった2011年1月23日(以下、調査2)である。調査日の施設全体の利用スケジュールを表4-2-1-2に示す。

【調査方法】調査1では9:00から22:00まで、調査2ではリハーサル室の利用が見られた9:00から19:00まで1セット15分間で、連続してマッピング調査を行った。記録内容は、利用者の属性、滞在行為、滞在位置、行為に影響を及ぼす物的要素、利用者間の接触、CS内の動線、CSに隣接するスロープの通過者人数についてである。



写真 4-1-2-1 CS と隣接するスロープ

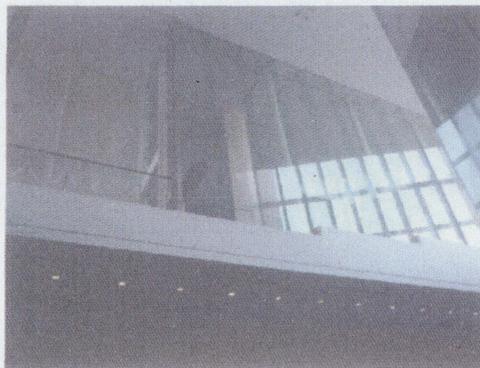


写真 4-1-2-2 CS から見る大ホールホワイエ

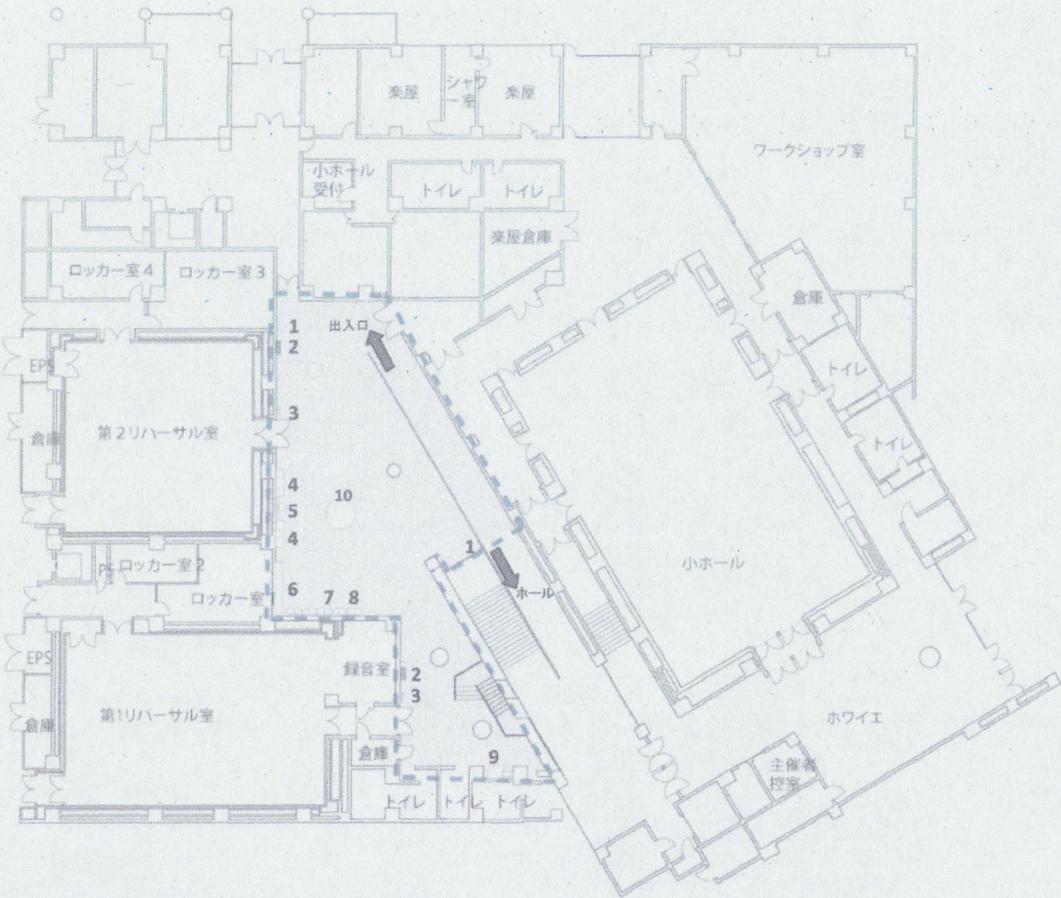


図 4-2-1-1 調査対象範囲と付属的要素の位置

表 4-2-1-1 付属的要素の詳細

1	施設案内図	
	560×800	
2	傘立て	
	870×300×500	
3	パネルスタンド	
	560×800	
4	ソファ	
	1800×600×420	
5	カタログスタンド	
	530×450×1350	
6	ロッカー	
	3600×510×1800	
7	椅子	
	480×480×410	
8	テーブル	
	φ500×590	
9	自動販売機	
	1150×800×1800	
10	オブジェ	
	φ2000	
11	絵画	



写真 4-2-1-3 第2リハーサル室前CS



写真 4-2-1-4 第1リハーサル室前CS

表4-2-1-2 施設全体の利用スケジュール

日程	時間	場所	活動内容・活動団体
1月20日 (調査1)	9:00-17:00	第1リハーサル室	社交ダンス練習 「木曜会ダンスサークル」
	9:00-12:00	第2リハーサル室	体操教室 「和久和久倶楽部」
	13:00-17:00		体操教室 「健康体操レモングラス」
	18:00-22:00		公演前日リハーサル 「津商工会議所青年部元気玉太鼓」
	9:00-17:00	小ホール	危険物取扱保安講習会 「(社)三重県危険物安全協会」
	9:00-17:00	第1・第2ギャラリー	展示作業 「(財)三重県公立学校教育互助会」
1月23日 (調査2)	13:00-17:00	第1リハーサル室	社交ダンス練習 「サンデーダンススクール」
	9:00-19:00	第2リハーサル室	楽器講習会 「新日本フィル演奏クリニック」
	9:00-22:00	大ホール	三重大学管弦楽団第47回定期演奏会 「三重大学管弦楽団」
	9:00-17:00	小ホール	定例練習 「三重ジュニア管弦楽団」
	9:00-17:00	第1・第2ギャラリー	第43回三重県教職員美術展 「(財)三重県公立学校教育互助会」

4-2-2 施設利用者の属性

【施設利用者の属性】CSにおいて見られた、施設利用者の属性について、性別を図4-2-2-1に、年齢層を図4-2-2-2に示す。性別に関して、調査1ではほぼ男女比に偏りは無い。小ホールで行われていた危険物取扱保安講習会受講者の男性比率が高かったことが影響していると考えられる。調査2では、女性の比率が高くなっており、大ホールで行われていた管弦楽団定期演奏会の鑑賞者の男女比率等が影響しているとも考えられる(去年の定期演奏会時の男女比率、図3-2-2-1公演1参考)。年齢層に関して、調査1では30代の比率が32%と高くなっており、体操教室の和久和久倶楽部の活動者の年齢層等が関係している。30代は、幼児の母親であることが多く、15分ごとにカウントされる回数が高くなっている。また、危険物取扱保安講習会を受講者の年齢層にも関係していると考えられる。調査2では、調査1と比較して10代から60代において年齢層に大きな偏りは見られない。

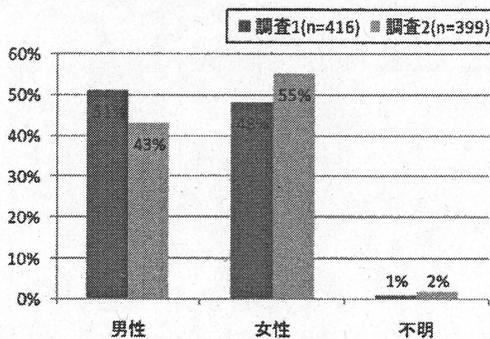


図4-2-2-1 施設利用者の性別 (述べ人数)

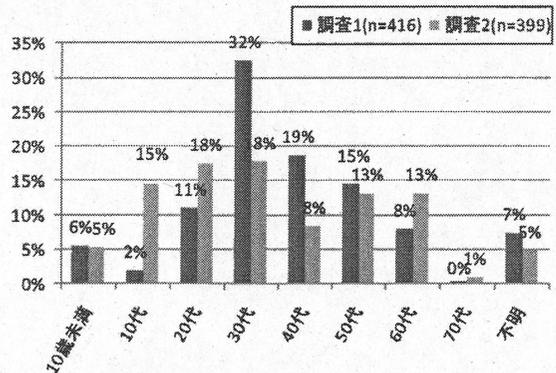


図4-2-2-2 施設利用者の年齢層 (述べ人数)

【活動者の属性】活動団体の概要について、表4-2-2-1に示す。三重県文化会館施設スタッフへのヒアリング、三重県文化会館のHP記載の情報等を参考にしている。活動者の性別に関して、和久和久倶楽部と健康体操レモングラスに関しては、ほぼ女性である。津商工会議所青年部元気玉太鼓は男性が中心である。

表 4-2-2-1 活動団体の概要

活動団体	人数	年齢層	頻度
木曜会ダンスサークル	30~50	50~60代	週1
和久和久倶楽部	20	30代	不定期(月2)
健康体操レモングラス	25	40代	週1(1月から3月、9月)
津商工会議所青年部元気玉太鼓	15	20~30代	不定期
サンデーダンススクール	30~50	50~60代	週1
新日本フィル演奏クリニック	1~5	10~20代	週2(1月から3月)

4-2-3 過ごし方

【行為】確認された行為内容は、調査1で22行為、調査2で19行為である。新たに用いる行為の名称について、表4-2-3-1で定義を行う。尚、「通過」行為は、「通過」「通過1」「通過2」に分けてカウントする。両調査を通じて見られた行為は、「通過」「通過1」「通過2」「会話」「トイレ」「イベント情報確認」「荷物整理」「遊ぶ」「読書」「目視」「更衣」「携帯電話使用」「自販機利用」「扉開閉」「ロッカー利用」「掃除」「特になし」「貼る」である。調査1のみ見られた行為は「飲食」「捨てる」「搬入出」、調査2のみ見られた行為は「待機」「睡眠」である。「飲食」に関して、調査1のみ昼食や夜食をとる行為が見られた。両調査を通じて「自販機利用」は見られたが、購入後すぐCS内で飲み物を飲む行為は見られなかった。「搬入出」に関しては、津商工会議所青年部の和太鼓の搬入出である。「待機」に関して、公演前にCS内のトイレを利用する鑑賞者が多く、付随者の「待機」行為が見られた。「睡眠」は、1人によるものであり、日常的に見られる行為であるかは定かでない。

表 4-2-3-1 行為の定義

行為	内容
通過	リハーサル室活動者以外の施設利用者がCS内を移動する行為。
通過1	リハーサル室1活動者のCS間を移動する行為。
通過2	リハーサル室2活動者のCS間を移動する行為。
荷物整理	荷物を整理整頓する行為。
遊ぶ	オブジェのハンドルを動かす、走りまわる、隠れる等の行為。
目視	施設案内図、スタンド、絵画、リハーサル室等を眺める行為。
更衣	服や靴を着衣、着脱する行為。
自販機利用	自動販売機で飲み物を購入する行為。
扉開閉	リハーサル室の扉を開閉する行為。
掃除	施設スタッフがトイレ及びリハーサル室内の掃除
捨てる	ごみ箱にものを捨てる行為。
搬入出	楽器、備品等を搬入、搬出する行為。
貼る	リハーサル室前のスタンドに紙を貼る行為。

【行為数】調査1では、13時間のマッピングの中で726行為が確認され、調査2では、10時間のマッピングの中で785行為が確認された。調査1と比較して、調査2は大ホールにおける定期演奏会の鑑賞者の「通過」「目視」等が多いことが影響していると考えられる。

両調査を通じて、「通過」による一時的なCS利用が多いことが分かる。「通過」による一時的なCS利用から、「会話」「目視」「イベント情報確認」「遊ぶ」「待機」といった短時間の滞在行為に移行する可能性がある。また「トイレ」「自販機利用」のように、予め利用目的をもって滞在している施設利用者が多い。

調査1では、危険物取扱保安講習の講習者による休憩時の「自販機利用」が多い結果となっている。調査1では、第2リハーサル室の利用が3団体であったため、「通過2」が多い結果となっている。

「会話」は、「通過」等他の行為と同時に進行することが多く、特にリハーサル室の活動前後、講習や公演前後に多く見られる。「イベント情報確認」は、一部の通過者がスタンド前で足をとめてピラを確認する様子が見られる。「荷物整理」「更衣」「ロッカー利用」は、活動者において見られる。「ロッカー利用」は一部の団体が、服等の荷物を入れており、利用が習慣化されているようである。「遊ぶ」は2～6歳程度の子どもの見られるものであり、ハンドルと連動してまわるオブジェを用いた遊びが最も多い。「目視」は、施設案内図を確認する施設利用者が最も多く、メインエントランスからの動線ではないため、大規模施設において迷いが生じるものと考えられる。また一部、リハーサル室の活動が書かれたスタンド、絵画、壁のパネル展示に興味を示す通過者が見られた。「扉開閉」は、活動団体の代表者の入室から30分前後、活動者がある程度そろうまで片方の扉を開けておくものであり、習慣化されていると考えられる。

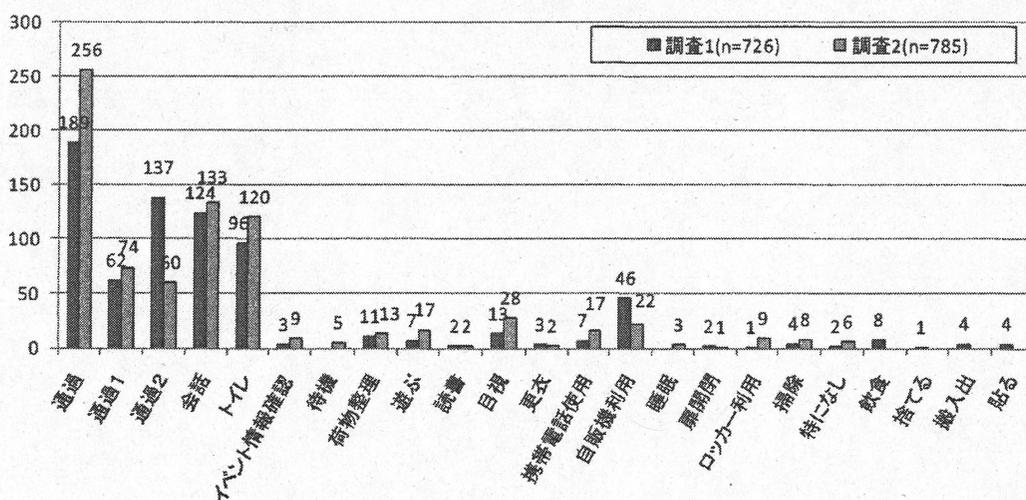


図4-2-3-1 CS内の行為内容

【行為と物的要素】

「会話」は、ソファや椅子を用いた座位での「会話」や、柱やリハーサル室前の壁面に沿った立位での「会話」、階段の踊り場における立位での「会話」が見られた。

連続して物的要素が使われる例として、カタログスタンドでビラを採取して、ソファにおける座位での「イベント情報確認」がある。また、ロッカーから荷物をとりだして、床に座っての「荷物整理」や、椅子・テーブルやソファを用いた座位での「荷物整理」「更衣」があげられる。

複数の物的要素が影響する行為として、「遊ぶ」「目視」があげられる。「遊ぶ」は、オブジェのハンドルをまわして「遊ぶ」、CS内やスロープを走って「遊ぶ」、手すりにぶらさがって「遊ぶ」、柱に隠れて「遊ぶ」の4種類が見られた。「目視」の対象物は、施設案内図、オブジェ、スタンド、リハーサル室内、絵画、パネル展示である。対象物の前での立位、階段の踊り場で手すりにもたれての立位での「目視」が見られた。

椅子やソファを用いた座位が望ましい行為に、「読書」「飲食」があげられる。

以上より、現状の評価すべき点として、カタログスタンドを挟んだソファの配置、ロッカーと椅子・テーブルやソファの近い配置が有効に利用されていること、「目視」する要素が多くあることがあげられる。

【滞在時間】

調査時に記録された施設利用者のCS滞在時間について、図4-2-3-3に示す。調査1、調査2でCS滞在時間に差はほぼ見られない。両調査時を通じて、「1分未満」が6割程度であり、これは通過するのみの滞在やトイレの利用による滞在によるものである。また15分以上の滞在者は、2調査に共通して2人しかおらず、15分以上滞在することはまれであることが分かる。「1分」「2分」「3分」は、トイレや自動販売機の利用による滞在が多い。「4分」以上になると、通過に加えて、会話等の複数の行為が見られる滞在である。「遊ぶ」「飲食」「会話」「携帯電話使用」の行為において、10分以上の滞在が得られた。滞在時間からも、施設側の指導に沿ったかたちで、活動者がCSを利用していることが分かる。

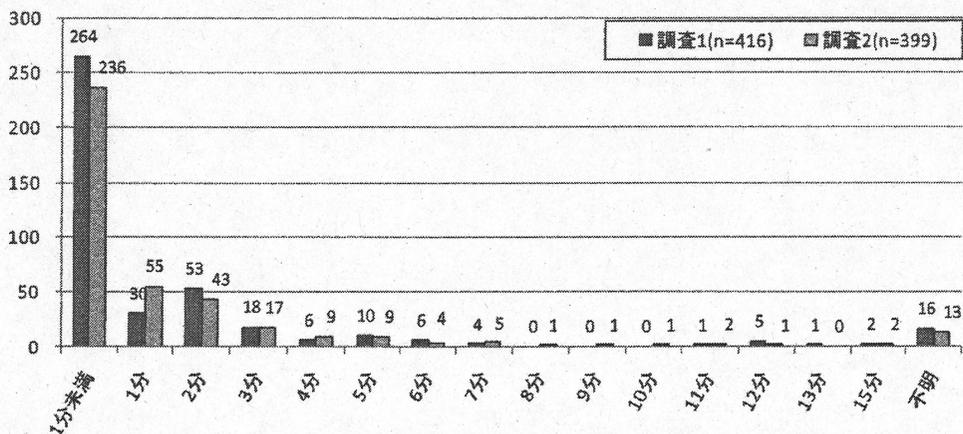


図4-2-3-3 施設利用者のCS滞在時間

【時間別行為数】両調査を通じて、比較的行為数が多くなっている時間帯は、10時30分から10時45分、12時から12時15分、16時45分から17時である。これらの時間帯は、リハーサル室の貸出時間と関係するため、どのような日においてもCSにおける行為がある程度ある時間帯と考えられる。リハーサル室を含む貸出室の貸出時間は9時から12時、13時から17時、18時から21時（ホールは22時）である。また、18時以降のCSの夜間利用が少ないことが分かる。これは、18時以降に1階の照明が落ち、CSにおいては照度の低い照明がされているため、薄暗くより寄り付きにくいものと考えられる。また、19時の閉館時間も影響している。よって、19時以降は活動者の行為数である。

調査1の14時30分から14時45分は、小ホールで行われていた危険物取扱保安講習会の休憩時間であり、「通過」「自販機利用」「トイレ」等の行為数が含まれたものである。調査2の13時30分から13時45分、16時から16時15分は、三重大学管弦楽団定期演奏会の開演30分前から15分前と公演後であり、「通過」「トイレ」短時間の「待機」「会話」等の行為数が含まれたものである。以上より、ホールにおける催し物がCS行為数に大きく影響していることが分かる。また、催し物や利用時間が関係しない時間帯は、15分間で20行為程度しか確認されず、滞在が少ないことが分かる。

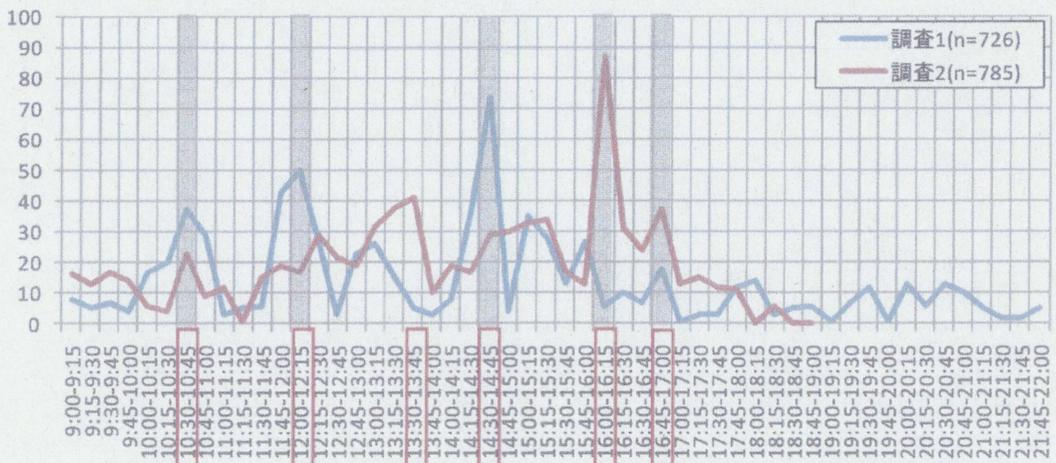


図 4-2-3-4 時間別CS内行為数

4-2-4 通過

20日のスロープ通過者を図4-2-4-2に示す。グレーの着色部分は、小ホールで行われていた危険物取扱保安講習会の講習前、休憩時間、講習後であり、通過者が増えている。危険物取扱保安講習会は、13時から16時に行われており、1時間半程度の講習が2セットという構成になっている。それ以外の時間帯としては、昼時の11時45分から12時に向かう通過者が多く、昼休憩や昼食の影響が考えられる。また、9時から10時の間にホール等に向かう通過者が多く、9時の開館時間や貸出室の利用時間が影響していると考えられる。

23日のスロープ通過者を図4-2-4-3に示す。グレーの着色部分は、大ホールで行われていた三重大学管弦楽団定期演奏会の開演30分前から開演、休憩時間、公演後である。開演前は花束等の差し入れのため、正面エントランスからホールに向かう動線(図4-2-4-1)ではなく、比較的ホールに近い地下1階からの動線を選択していた。休憩時間は、休憩時間での気分転換、喫煙、途中で帰る観賞者の通過と考えられる。公演後は、公演30分前から開演の通過者より出入口に向かう通過者が多く、公演の30分以上前に来館する観賞者がいたと考えられる。また、20日と同様、開館時間後の1時間、昼休憩時に通過者が多い。19時の閉館時間、17時の利用終了時間も影響し、出入口に向かう通過者が多い結果となっている。

次に、20日と23日で比較する。ホール催し物の影響が大きいグレー着色部分の時間帯を除いた15分間の通過者平均が、20日のホール側の通過者が3.17人、出入口側の通過者が3.06人である。23日のホール側の通過者が7.35人、出入口側の通過者が5.15人である。23日の通過者が多い原因として、平日と土日祝日の施設利用者数の差、ギャラリーでの三重県教職員美術展の影響が考えられる。

以上より、18時以降の夜間利用時間を除き、コモンスペース横は常に通過者がいる状態であることが分かった。

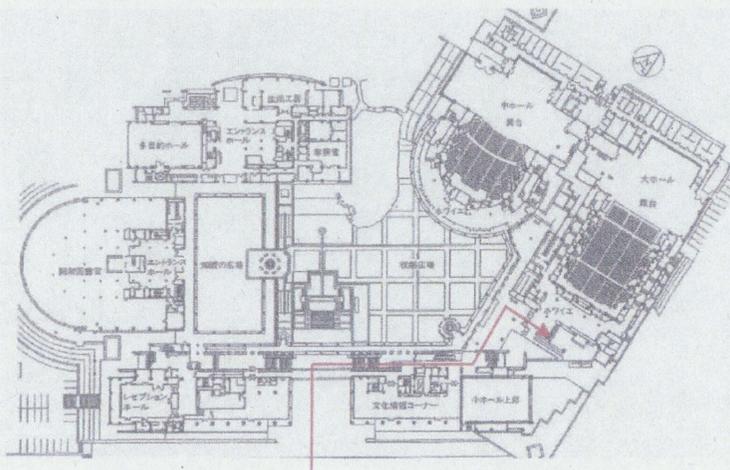


図4-2-4-1 正面エントランスからホールへ向かう動線

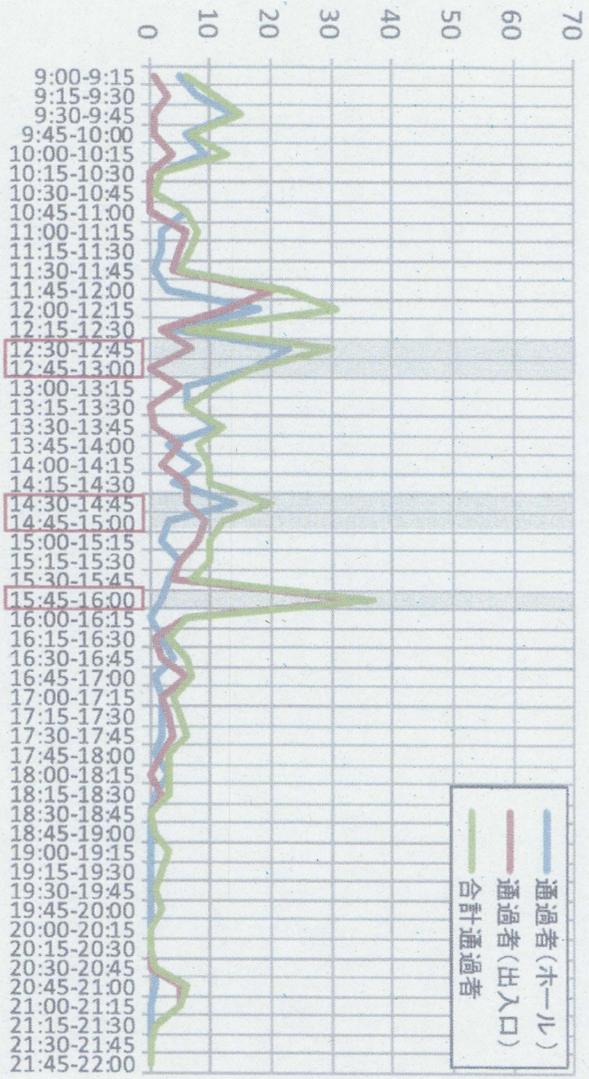


図4-2-4-2 20日のスロープ通過者

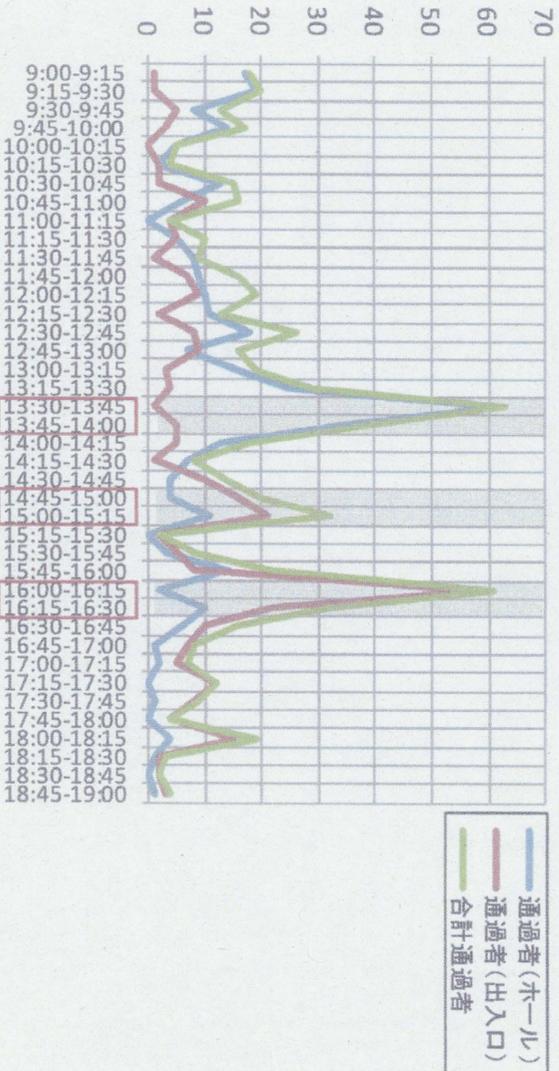


図4-2-4-3 23日のスロープ通過者

※通過者の方向（ホール、出入口）については、図4-2-1-1に示す。

【CS内の動線】CSにおいて見られた動線の種類について、図4-2-4-4に示す。青色の一般利用者の動線は、入口から、スロープを通過する動線、第2リハーサル室の壁面沿いを通る動線、CSの真ん中を突っ切る動線に大きく分かれ、向かう先はスロープ・トイレ・自販機・階段のいずれかである。スロープを通過する動線の場合、入口付近の施設案内図で足を止める場合以外、迷わず通過するのみであり、CS内の付属的要素に興味を示すことはほとんどない。スロープ以外の動線を選択した場合、まずオブジェに目がいく、足をとめるといった一般利用者が多い。また、CS内に何があるのか、目的地にはどのように行ったらよいか迷い、立ち止まりながらのながらの通過が見られた。これは、前方の階段やトイレ等が見えにくいことが影響していると考えられる。第2リハーサル室前の動線を選択した一般利用者は、活動内容が書かれたスタンド、リハーサル室内部、ピラのスタンド、絵等、興味を示し、比較的ゆっくりと歩く人が確認でき、短時間の滞在につながる可能性が高い。活動者の動線は、スロープ・トイレ・自販機・階段といった向かう動線の他、ソファ・椅子・ロッカーに向かう動線が加わる。第1リハーサル室の活動者は、出入口とリハーサル室間の行き来、第2リハーサル室の活動者は階段とリハーサル室間の行き来が頻繁であった。

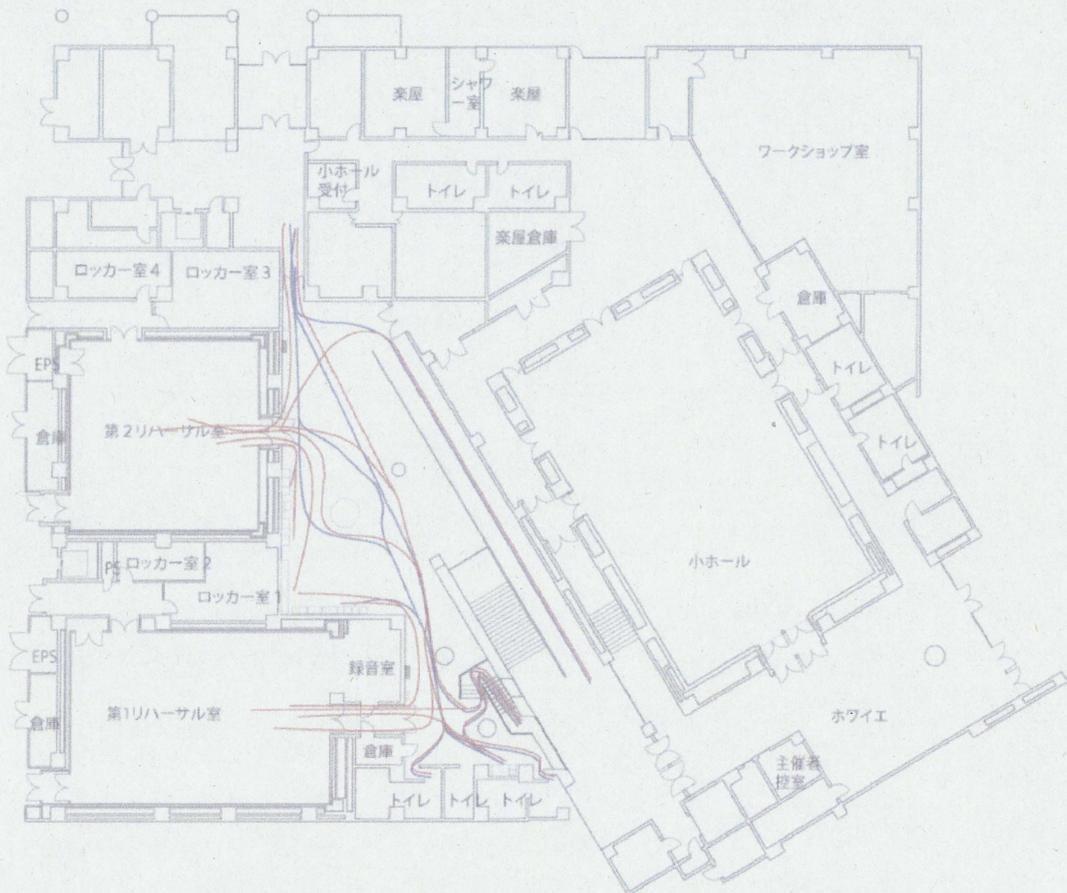


図4-2-4-4 CSにおいて見られた動線 (赤：活動者 青：一般利用者)

4-3 北上市文化交流センター練習室まわりのコモンスペース利用実態

4-3-1 調査の概要

【調査対象範囲】北上市文化交流センター練習室まわりのCSであり、アートファクトリーと呼ばれている練習室群内のCSである。調査対象範囲と物的要素について、図4-3-1-1に示す。

【CSの特徴】テラス、植栽、トップライトによる半屋外化した空間であり、公園のような一般開放性がある点（写真4-3-1-1）、練習室のガラス張りの設えにより練習室での活動がCSにおいても可視化されている点、椅子4個机1個で形成されたソシオペタルな家具配置があげられる（写真4-3-1-2）。

【調査日程】8月28日19:30から21:00にかけて、中ホールにて「韓国楽器のための伝統・現代音楽コンサート」が行われており、公演前後の19:00から19:30、21:15から22:00である。調査日の練習室の利用スケジュールを表4-3-1-1に示す。

【調査方法】1セット15分間で、連続してマッピング調査を行った。記録内容は、利用者の属性、滞在行為、滞在位置、行為に影響を及ぼす物的要素、利用者間や出演者の接触についてである。また、練習室活動者とCS利用者に対して、ヒアリングにより意識調査を行った。ヒアリング項目は、利用頻度・施設選定理由・他の施設と併用の有無・練習室のカーテンの開閉と視線に関する意識・他のグループとの接触の有無・施設利用全般に関する自由意見である。



写真 4-3-1-1 半屋外化したCS



写真 4-3-1-2 CSにおける家具配置

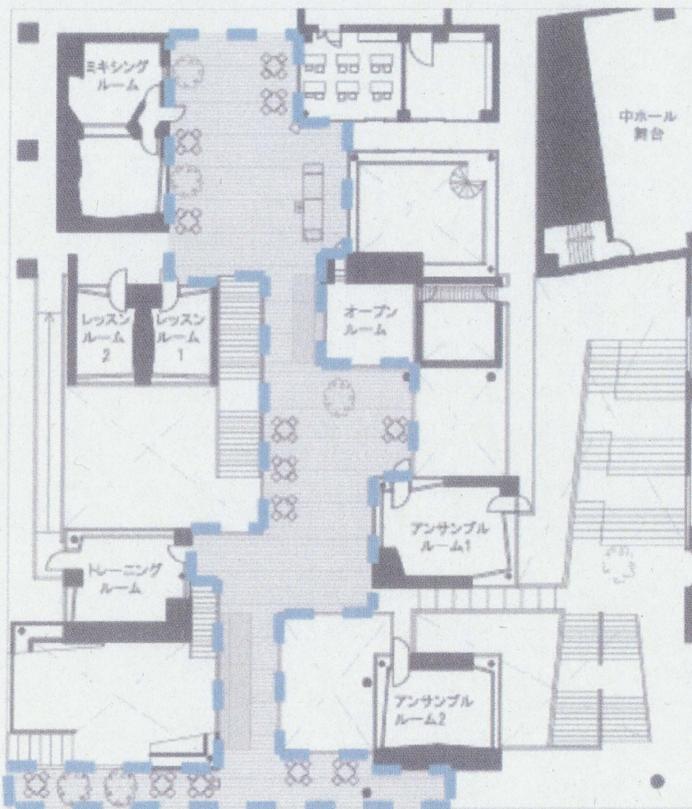
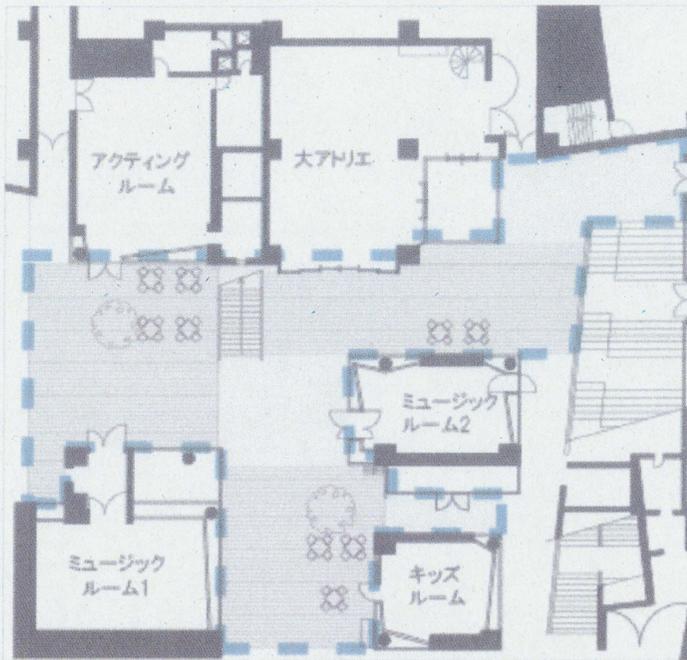


図 4-3-1-1 調査対象範囲と付属的要素の位置
(上図：1階CS 下図：2階CS)

表 4-3-1-1 付属的要素の詳細

テーブル		
800×800×720		
椅子		
400×400×450		

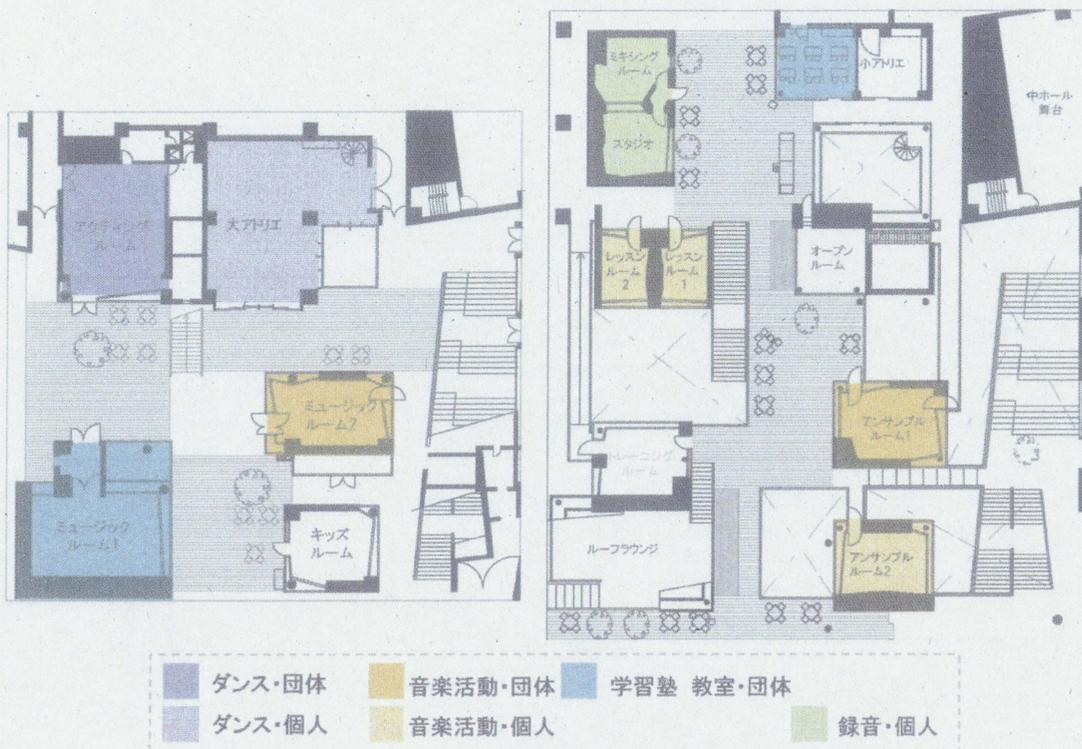


図 4-3-1-2 調査時の練習室活動概要

表 4-3-1-1 練習室の利用スケジュール

時間	階	場所	活動内容・活動団体
19:00-21:00	1階	ミュージックルーム1	「自力整体整食法」 カルチャー教室
19:00-20:00		ミュージックルーム2	バンド練習 個人(学生)
20:00-21:00		ミュージックルーム2	バンド練習 個人(社会人)
19:00-21:00		アクティブルーム	「ファイブワン」 体操教室
21:00-22:00		アクティブルーム	「controller dance company」 ダンス教室
20:00-21:00		大アトリエ	「controller dance company」 ダンス教室
21:00-22:00		大アトリエ	社交ダンス練習 個人
19:00-21:00	2階	アンサンブルルーム1	「井上ミュージックコーラス隊」 小・中学校の合唱サークル
19:00-20:00		アンサンブルルーム2	ドラム練習 個人
20:00-22:00		アンサンブルルーム2	ドラム練習 個人
18:00-22:00		レッスンルーム1	練習 個人
19:00-22:00		レッスンルーム2	バンド練習 個人
20:00-22:00		レッスンルーム2	練習 個人
17:00-22:00		小アトリエ1、2	「個別指導塾まつがく」 個別学習塾
12:00-22:00		スタジオ&ミキシングルーム	録音 個人

4-3-2 施設利用者の属性

【各階の滞在人数】15分間のマッピングを5セット行った中で、記録した述べ人数は1階練習室群では112のうちCSにおいて47、2階練習室群では148のうちCSにおいて89である。2階CSの方が1階CSより利用者を多く記録した原因として、調査範囲のテーブルセット数の違い（1階に9セット、2階に13セット）、面積の違い、天井高や視界の開きによる開放感の違い等が考えられる。

【各階の男女比】男女比は、各階の練習室群において大きな差は見られず、全体では男女50%ずつという比率になっている。しかし、CSにおいては、両階を通じて女性の比率が高くなっており、活動者の保護者に女性が多いことが影響していると考えられる。

【各階の年齢層】年齢層は、両階を通じて、10代20代の児童や学生の比率が高い。1階練習室群で10代の比率が高いのは、1階CSにおける10代の比率の高さと関係しており、施設周辺の高校の文化祭準備期間であることが影響している。また、学習塾や小中学校合唱サークル等の練習室利用とも関係している。2階練習室群においては、1階と比較すると年齢層が幅広く、社会人バンドや社交ダンス等の活動者の年齢層が関係している。

【利用者同士の関係】親と子、教師と学生、親同士の友人、学生同士の友人、バンドメンバー、ダンスメンバー等の関係が見られた。

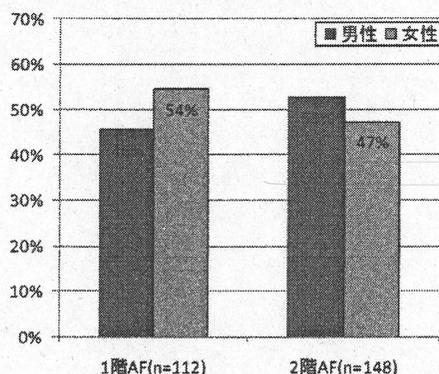


図 4-3-2-1 階別・施設利用者の性別 (述べ人数)

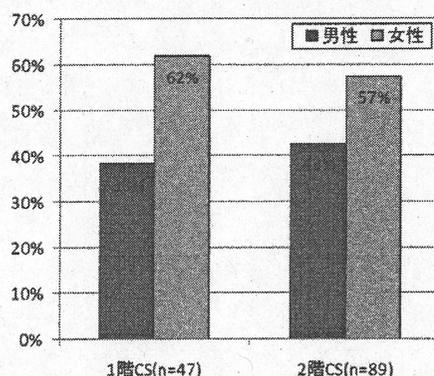


図 4-3-2-2 階別・一般利用者の性別 (述べ人数)

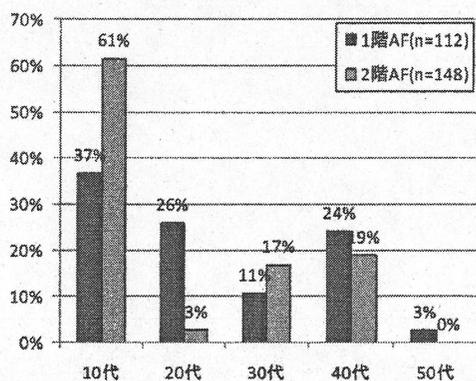


図 4-3-2-3 階別・施設利用者の年齢層 (述べ人数)

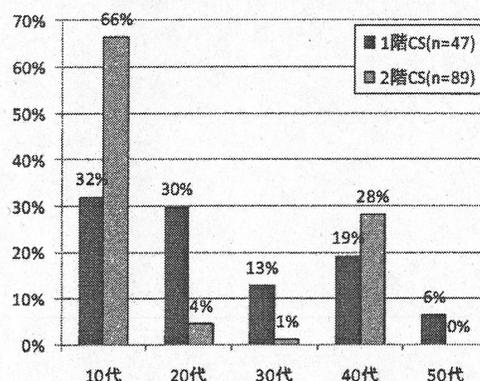


図 4-3-2-4 階別・一般利用者の年齢層 (述べ人数)

4-3-3 過ごし方

【CS内行為】

15分のマッピングを5セット行った中で確認された行為は、1階CSで59行為、2階CSで118行為であった。それぞれのCS内行為割合を図4-3-3-1、図4-3-3-2で示す。両階を通じて、「会話」が中心であることが分かる。1階CSでは「目視」「ダンス」の行為が見られ、1階練習室での「ダンス」による利用が影響していると考えられる。また、2階CSでは楽器練習等の「音楽活動」が見られ、2階練習室での「音楽活動」による利用が影響していると考えられる。また「学習」は両階CSで確認されているが、1階CSと比較し2階CSでは継続的な「学習」が見られるため、2階練習室での「学習」による利用が、CSにおける学習しやすい環境を形成している可能性がある。各階を行為割合で比較すると、CS内行為は、練習室内の行為と何らかの関係性があると考えられる。「巡回」に関しては、当施設が放課後以降に学校に代わる学生の文化活動の場となっているため、学校教師が施設内をまわって利用を見守る行為で、特に文化祭前であったため強化されていたと考えられる。「携帯電話使用」「特になし」「ゲーム」に関しては、待機や知り合いとの待ち合わせと考えられるが、特に利用目的がなく滞在しているとも考えられ、CSにおける一般開放性が影響していると考えられる。

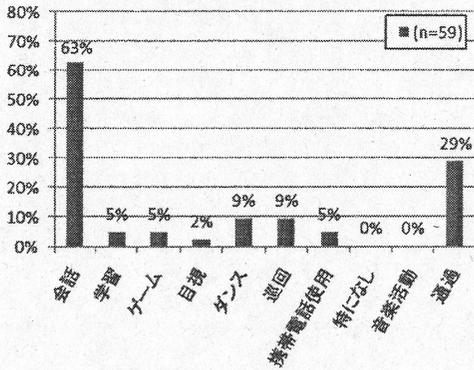


図4-3-3-1 1階CS内行為割合

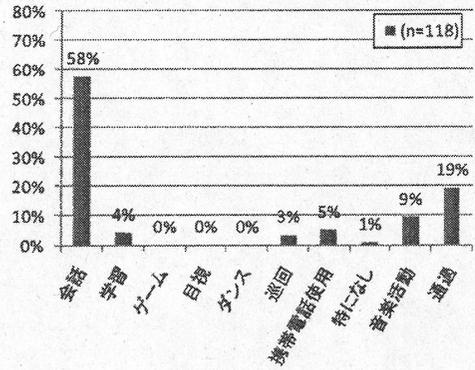


図4-3-3-2 2階CS内行為割合

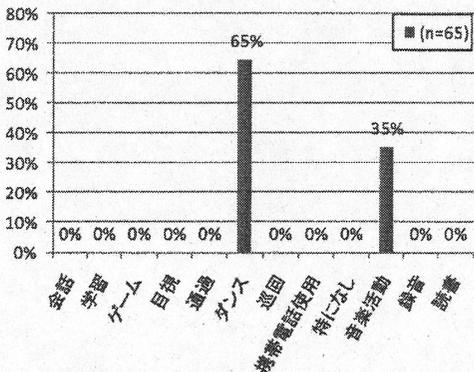


図4-3-3-3 1階練習室内の行為割合

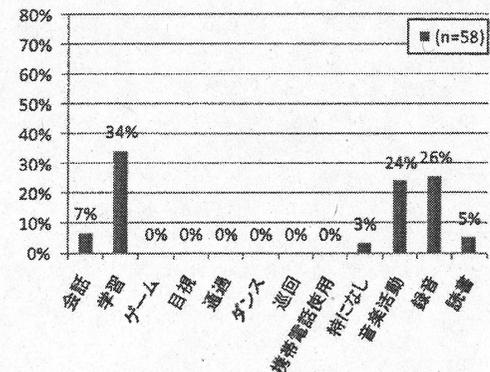


図4-3-3-4 2階練習室内の行為割合

【行為と関係するCSの物的要素】

各階CSで見られた行為に関係する、物的要素の選択率を図4-3-3-5に示す。テーブルセットの利用が見られた場面は「テーブルセット」、ガラス面に体を近づけて目視する場面やもたれていた場面は「ガラス面」、階段での滞在が見られた場面は「階段」、手すりにもたれての滞在が見られた場面は「手すり」、柱にもたれていた場面や柱まわりに輪になっての滞在が見られた場面は「柱」、床に座っていた場面は「床」、どれにもあてはまらない場面「特になし」とカウントした。

1階CSにおいて、「テーブルセット」を利用する行為と「特になし」が同程度であり、CSにおける通過が多いことが影響している。ダンススクールやバンド練習による利用があり、カーテンが開いていたため、「ガラス面」に体を近づけて目視する行為が見られた。2階CSにおいて、テーブルセットの利用が約8割であり、テーブルセットの配置を中心とした滞在位置分布となる。2階CSのみ、床に座っての会話行為が見られ、10代の利用が多かったことが影響している。

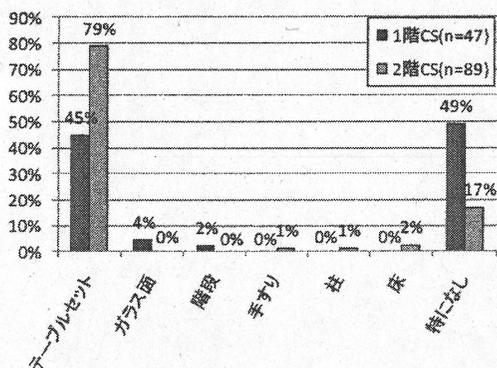


図4-3-3-5 階別・物的要素の選択率

【CSにおける滞在位置分布】

CSと練習室内における滞在位置分布を図4-3-3-6、図4-3-3-7に示す。2人以上の滞行為（「通過」は除く）を黒丸で囲む。男性が青、女性が赤表記である。

まず、両階を通じて、テーブルセットの配置や練習室前を中心とした滞在位置分布であることが分かる。2階CSにおいては、5人以上のグループもおり、1グループ2テーブルといった使い方や椅子の移動により、対応していた（図中1）。アクティಂಗルーム前やアンサンブルルーム前は、活動者の保護者の滞在が見られ、活動が可視化されていることから、その練習室付近のテーブルを選択している（図中2）。「学習」ではロールブラインドや壁により視界の正面が閉じられた椅子、他の座席と距離がある椅子を選択しやすい傾向にある。荷物等での場所とりも見られ、各自がより集中できる学習空間を形成していた（図中3）。

利用者の属性によって滞在位置が偏ることは特になく、CSは男女や幅広い年齢層が入り混じった空間となっている。

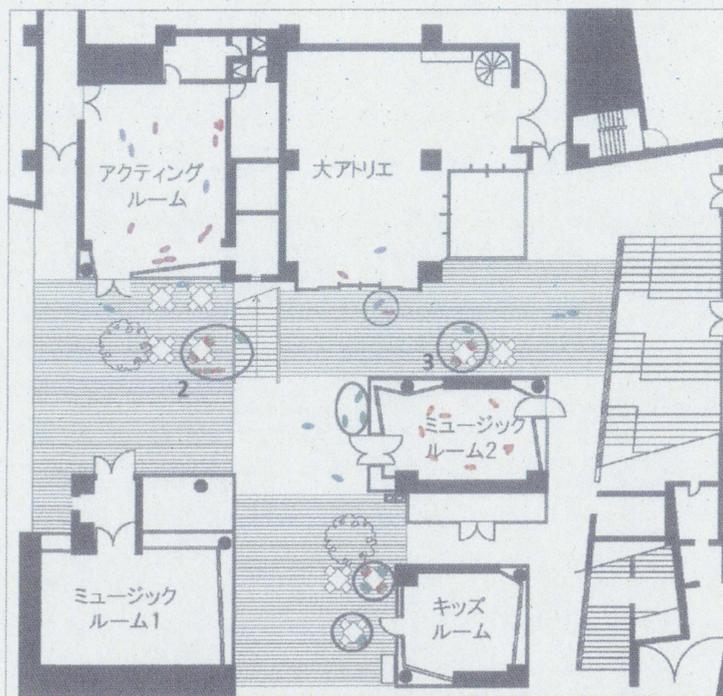


図 4-3-3-6 1階CS滞在位置分布

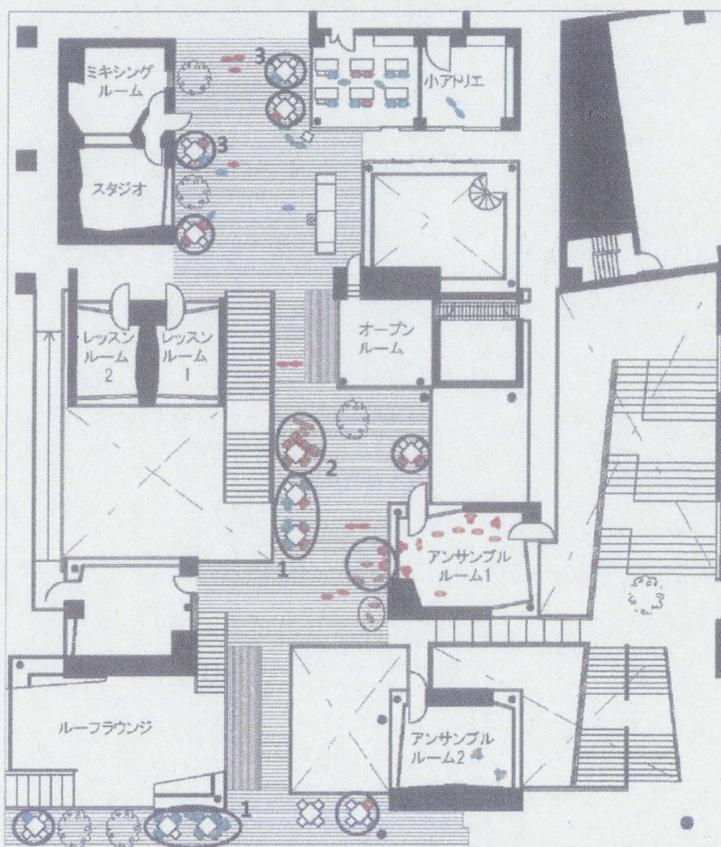


図 4-3-3-7 2階CS滞在位置分布

【時間によるCS滞在人数】

練習室とCSにおいて夜間利用が日常的にある。2階CSにおいて練習室使用後も、22時の閉館時間近くまで、CSに滞在する利用者を確認した。また19時半以降にCSに集合したグループもあり、夕食後の集合と考えられる。

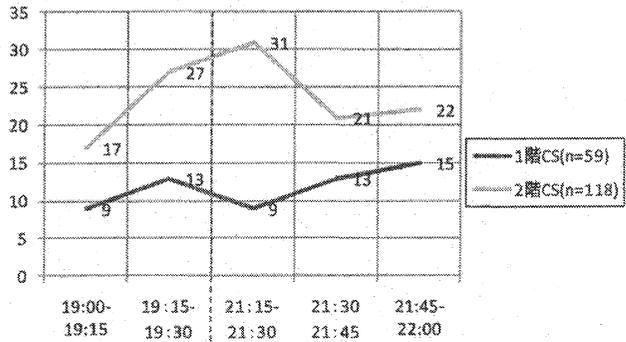


図 4-3-3-8 階別・CS滞在人数 (述べ人数)

4-3-4 利用者の意識

ヒアリングで得られた、施設利用に伴う利用者の意識について記述する。ヒアリングは9団体に対して行った。ヒアリング対象となった団体の概要について、表4-3-4-1に示す。小・中学生、高校生、社会人と、年齢層に偏りなく、ヒアリング対象を選定した。

表 4-3-4-1 ヒアリング対象団体の概要

室名		活動組織名	活動内容	調査日 活動時間	利用頻度
1階 練習室	ミュージックルーム2	個人5名(社会人)	バンド練習	20:00~22:00	週1回
	アクティブルーム	controller dance company	HIP HOP ダンス教室	21:00~22:00	週3(キッズ対象教室も含め) キッズ3クラス 大人2クラス
	大アトリエ	個人2名	社交ダンス練習	21:00~22:00	週3~4回
2階 練習室	トレーニングルーム	個人2名(高校生)	ダンス練習	不明	週4.5回
	アンサンブルルームⅠ	井上ミュージックコーラス隊	小中学校の合唱サークル	19:00~21:00	週1回
	アンサンブルルームⅡ	個人	ドラム練習	20:00~22:00	週2回
	スタジオ&ミキシングルーム	個人3名	レコーディング	12:00~22:00	月1回
2階CS	南テラス	個人(高校生8名)	文化祭のダンスやバンド練習、打ち合わせ	~22:00	8月後半~9月前半までは毎日
	小アトリエ前	個人(社会人)	資格試験の自主学习	仕事帰り~22:00	週5回

他の活動グループとの交流に関して、高校生にとって「出会いの場である」という回答が得られ、文化活動を通じた高校生同士の交流が盛んに行われている。ダンサーから、「一緒にダンスをしたい友人が増える」「同じイベントに参加したことのある人との交流がある」との回答が得られ、活動の可視化がダンサー同士の交流に影響していると考えられる。その他は「特になし」との回答を得た。

当施設の選択理由に関して、立地との回答が最も多い。他に得られた回答には、年1回の公演のため、機材の充実、床材、空調設備の充実、コスト面、の回答が得られた。

他施設に関しては、大半が利用しておらず、HIPHOPダンス教室のみ、「近隣の花巻や盛岡の体育館を利用することがある」との回答を得た。

視線に関して得た回答を、表4-3-4-2に示す。練習室のガラス張りの設えによる活動の可視化に関し、大半の団体が「視線が気にならない」と回答しており、カーテンを開けて活動している。活動の可視化の利点として、活動団体の宣伝、スペース確保、活動の主張等があげられる。尚、「最初は視線が少し気になったが、今は気にならない」といった慣れによって解消された回答も得た。ただ、1団体においては「視線が気になる」「作業に集中したい」との回答が得られ、視線に関する意識には個人差がある。年齢層によっても視線に関する意識に差が見られ、例えば小学生を対象とした学習塾において、時間によってはカーテンを閉める対策がとられている。

表 4-3-4-2 視線に関するヒアリング結果

室名		カーテン 開閉	視線に関する 意識	視線に関する自由意見
1階 練習室	ミュージックルーム2	閉める	気になる	作業に集中したいため、閉めている。
	アクティングルーム	開ける	気にならない	新規の生徒に興味をもってもらえるため、開けている。
	大アトリエ	開ける	気にならない	カーテンも扉も開けて、スペースを確保したい。
2階 練習室	トレーニングルーム	開ける	気にならない	ダンサーなので、視線を気にするのではなく、人に見せようという意識をもたなければならない。
	アンサンブルルームⅠ	開ける	気にならない	練習中ほとんど視線は気にならないようだが、たまに気が散っている場合、カーテンを閉めることもある。
	アンサンブルルームⅡ	開ける	気にならない	自己顕示欲が強い。練習中ときどき外を見る。
	スタジオ&ミキシング ルーム	開ける	気にならない	人に見てもらうために活動しているので、むしろ見てほしい。

自由意見では、必ずしもCSでの学習に集中できる空間を形成できないこと、ステップホワイエでのダンス練習が管理上の問題で禁止になったこと、屋外のガラス面を利用してダンス練習していること、練習室によって予約の混み具合が異なり希望の練習室以外を利用する場合があること、施設スタッフとの日常的な交流に関しての意見が得られた。

4-5 第4章のまとめ

閉じられたCSを有する三重県文化会館と開かれたCSを有する北上市文化交流センターにおいて、利用に大きな違いが見られた。また、CSを利用する施設利用者間の関係も異なった。以下に相違点をまとめ、本章のまとめとする。

【一般利用者と活動者の属性】CSにおける一般利用者は、三重県文化会館は年齢層に偏りは見られず、北上市文化交流センターでは学生が中心であった。CSの一般利用者は、練習室及びリハーサル室の活動者の属性と関係しているようである。

三重CS	: 10歳未満から70代と幅広い年齢層であり、ホールの催し物の影響を除けば、年齢層の偏りはないものと考えられる。
三重リハーサル室	: 10代から60代と幅広い年齢層であった。
北上CS	: 10代から50代が確認され、学生が中心であった。
北上練習室	: 10代20代が中心であった。

【一般利用者と活動者の関係】三重県文化会館の場合、親と子の関係が見られた。北上市文化交流センターの場合、親と子の他、教師と学生の関係があった。

【施設側の意向と一般利用者の対応】施設側の意向により、CSにおいて15分以上の長期滞在か短期滞在かという違いが出た。北上の場合、練習室がガラス張りであるため、目視による見守りが可能であり、安全面の確保に親や教師が貢献していたといえる。

三重CS	: 「室内でできることは室内で」という方針で、安全面や文化活動を優先するものである。施設スタッフの指導のとおり、特定の団体が長期滞在することはなかった。施設内を警備員が定期的に巡回していた。
北上CS	: 一部の学習禁止箇所を除き、「自由に使ってもらってよい」という方針であり、多様な行為が見られ、15分以上の長期滞在が目立った。施設内を警備員や教師が定期的に巡回する他、親が子を見守っていた。

【CS内行為】「通過」が中心、「会話」による滞在が中心という、大きな違いが確認された。三重県文化会館CSにおける一般利用者の多様な行為は、CS内の付属的要素から引き出されたものもあった。北上市文化交流センターCSは、「学習」や練習室の活動の延長となるような行為も見られ、一般利用者の滞在が根付いていると思われる。

三重CS	: 一般利用者や活動者による「通過」が中心である。「トイレ」「自販機利用」といったCS内の機能の利用が多かった。「通過」する中で、何か付属的要素に興味を示し、別の行為に移行することはあった。
北上CS	: 一般利用者の「会話」が中心である。「学習」の他、「音楽活動」や「ダンス」といった練習室の活動の延長となるような行為も見られた。

【練習室の設え】壁面で視界が閉じられたリハーサル室での活動は、CSにおいて聴覚のみの刺激であり、一般利用者が活動に興味を示したとしても活動者は気づきにくい環境にある。ガラス張りの練習室では、透過性の壁面により活動内容がオープンになり、一般利用者がガラス面越しの「目視」等で興味を示した場合、活動者が気づき、対応することができる。特にダンスにおいて、有効である。CSにおける新たな接触を仕掛けようとする場合、どのように活動内容を一般利用者に示すかが、検討事項としてあげられる。

三重CS：活動に興味を示し、活動内容が書かれたスタンド、片扉の開いたリハーサル室内を覗き込む一般利用者がいた。

北上CS：カーテンの開閉選択はでき、開けていた場合、活動が見える環境にある。特にダンスにおいては、見られるという意識よりはパフォーマンスを見せようという意識がはたらいており、ダンス技術の触発や出会いの場、活動の宣伝となる。

第5章 施設全体のコモンスペースと複合施設の付帯機能の利用実態

5-1 本章の目的・方法

5-2 常設の広告展示空間の利用実態

5-3 屋外テラスの利用実態

5-4 複合施設の付帯機能の利用実態

5-5 第5章のまとめ

5-1 本章の目的・方法

5-1-1 目的・方法

本章では、三重県文化会館内のCSと付帯機能を対象とする。施設内のCSの中で、第3章ではホワイエに着目し、第4章では練習室まわりのCSに着目したが、本章ではそれ以外のCSに焦点をあてる。具体的には、屋外テラス、エントランスロビー等の常設展示空間である。また三重県文化会館に複合されている付帯機能として、レストラン、文化情報コーナー、図書館について取り上げる。(※図書館は三重県生涯学習センター内であり、三重県文化会館内ではないが、公演時の利用が見られるため、本章で取り上げる。)

施設スタッフへのヒアリングや観察調査により、施設全体におけるCSや付帯機能の種類や配置、日常の利用実態について把握する。また、アンケート調査により、公演時のCS利用実態について把握する。以上を通じて、現状の問題点を抽出することを目的とする。

5-1-2 複合施設の付帯機能

三重県文化会館は、三重県総合文化センター内で最も面積が広く、ホール関係と文化振興ゾーンの2軸で構成されている(図5-1-2-1)。各階の諸室について、以下に示す。以下に示す諸室及び2軸をつなぐ役割を、回廊やCSが担っている。

【各階の諸室】

地下1階：メインエントランス・総合案内所・小ホール・第1リハーサル室・

第2リハーサル室

1階：大ホール・中ホール・施設利用サービスセンター・文化情報コーナー(カフェ、ショップ含む)・レストラン・レセプションルーム

2階：第1ギャラリー、第2ギャラリー、大会議室、中会議室、小会議室

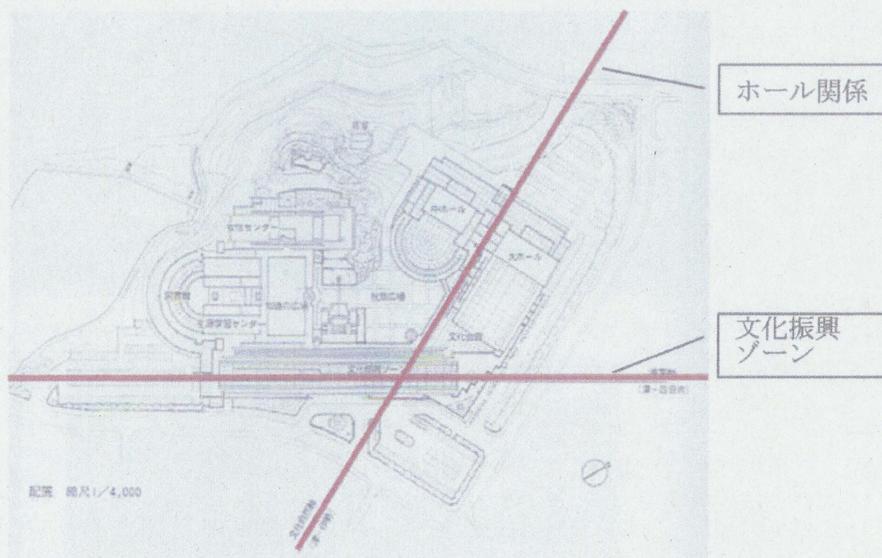


図 5-1-2-1 三重県文化会館内の2つの軸

(出典：新建築 1994年12月号)

5-2 常設の広告展示空間の利用実態

常設の広告展示は、三重県文化会館内で16箇所ある。広告は、ポスターと持ち帰り可能なビラの2種類に大別される。さらに、ポスターは、展示ケース、ポスターパネル、パネルスタンドを用いた展示に分かれ、ビラはカタログスタンド、アルコーブ・受付を用いた展示に分かれる。1階にポスター7箇所とビラ4箇所、2階にポスター2箇所、地下1階にポスター1箇所とビラ2箇所が設置されている。広告展示の概要について表5-2-1に、広告展示箇所について、図5-2-1から図5-2-3に示す。

【2階】施設案内図とギャラリーでの自主事業のポスター1枚がセットで展示されており、エレベーター横(2-P1)や廊下(2-P2)に設置され、ギャラリーや会議室の利用者、通過者に目が行くように計画されている。

【1階】ビラは文化情報コーナー付近、レストラン前、大・中ホールと小ホールに向かう分岐点に設置されている。レストラン前に設置されているビラ(1-H1)は、レストラン利用前や利用後の客に利用されている。サービスセンター付近のビラ(1-H3)は、最もビラの種類が豊富であり、県外の施設の催し物が3スタンド、松坂・南勢・伊勢の催し物、中勢・北勢の催し物、映画のビラが1スタンドずつ設置されている。大・中ホールと小ホールに向かう分岐点に設置されているビラ(1-H4)は、アルコーブに自主事業のラインナップが分かるよう展示されており、ホール催し物後の鑑賞者の利用が見られる。ポスターは、正面入口、扉付近、エスカレーター付近に設置されている。展示ケースを用いたポスター展示は、正面入口に8枚(1-P1)、サービスセンター付近に4枚(1-P6、1-P7)ポスターが貼られ、展示内容は自主事業についてである。正面入口は三重県総合文化センターの自主事業についてであり、三重県文化会館以外の内容も含まれる。パネルスタンドを用いたポスター展示は、扉(1-P2)、エスカレーター横(1-P3)エスカレーター下(1-P4)大ホールエントランス前(1-P5)に設置され、通過者に目が行くように計画されている。

【地下1階】受付に並べられたビラ(B1-H1)は、出入口前でまず目が行くように計画されており、足をとめて催し物を確認する利用が見られる。同じく出入り口付近に設置されているポスター(B1-P1)は、施設案内図と小ホールでの自主事業のポスター1枚がセットで展示されている。第2リハーサル室前のビラ(B1-H2)は、リハーサル室の活動者や第1リハーサル室前の階段を使う通過者の利用が見られる。

ビラ設置箇所は、立ち止まって興味のあるビラを採取したり、自主事業のラインナップの確認をしたり、催し物内容について人と会話したりと、滞在行為につながりやすい。B1-H1、B1-H2、1-H4は、CSに設置されており、CS内の滞在行為に影響する付属的要素であると考えられる。また1-H1、1-H3は廊下のガラス面に沿って設置されており、どこにいても目が行くよう工夫がされている。ポスターは一時的な滞在が見込め、特に展示ケースを用いたポスター展示は自主事業のラインナップについて容易に確認できる。

現状をふまえ、各階の改善点について述べる。2階においては、2階の自主事業の情報しか得られないため、滞在者が比較的多いとされる会議室前にビラのスタンドを設置する、ホールの自主事業ポスターを展示する等の検討が求められる。1階においては、1-P4～P7が比較的近い空間に密集しており、ポスター内容もほぼ変わらないことから、最適な箇所について検討が求められる。地下1階においては、施設の日常的な活動者の利用が多いため催し物情報に関心が高く、近隣施設の催し物等、当施設の自主事業以外のより広い情報が求められる。

表 5-2-1 広告展示の概要

ポスター	1-P1	1-P6	1-P7	
展示ケース				
ポスター	2-P1	2-P2	B1-P1	
ポスターパネル				
ポスター	1-P2	1-P3	1-P4	1-P5
パネルスタンド				
ビラ	1-H1	1-H3	B1-H2	
カタログスタンド				
ビラ	1-H2	1-H4	B1-H1	
アルコール 受付				

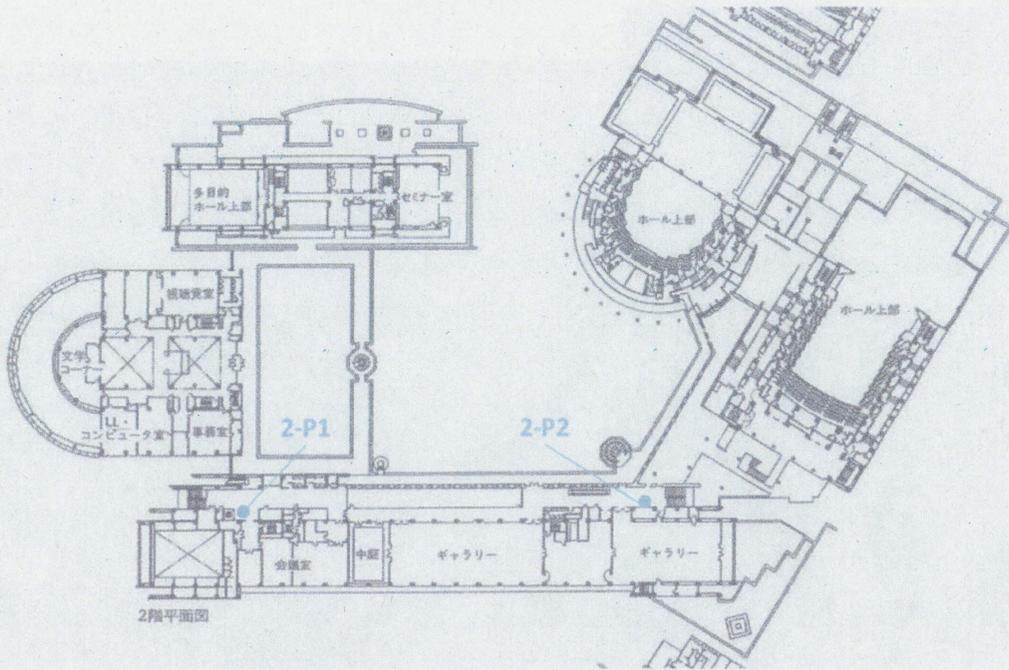


図 5-2-1 2階の広告展示箇所

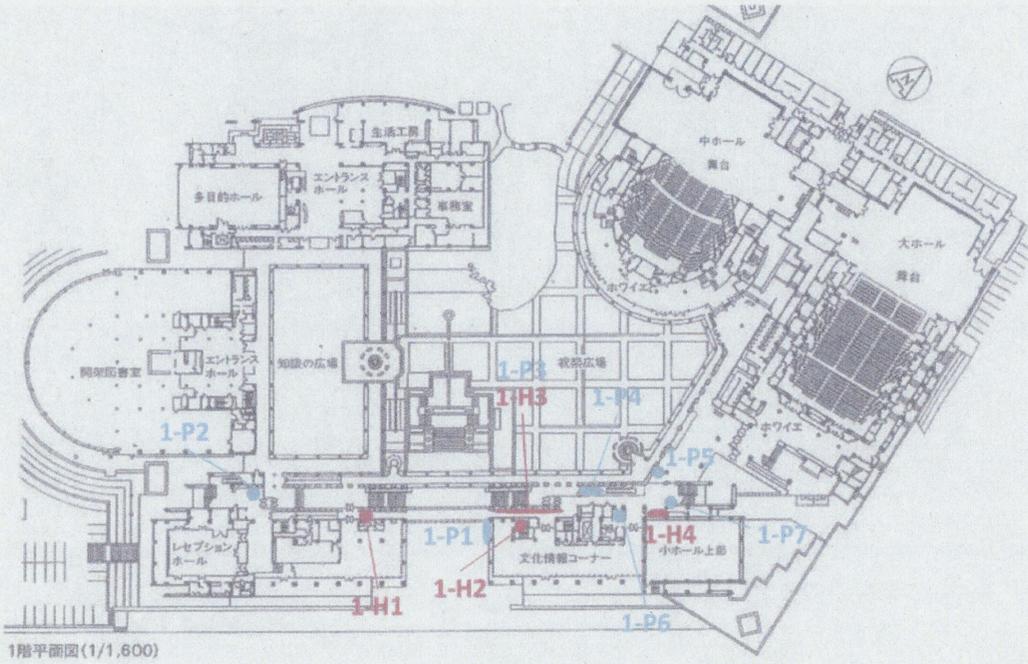


図 5-2-2 1階の広告展示箇所

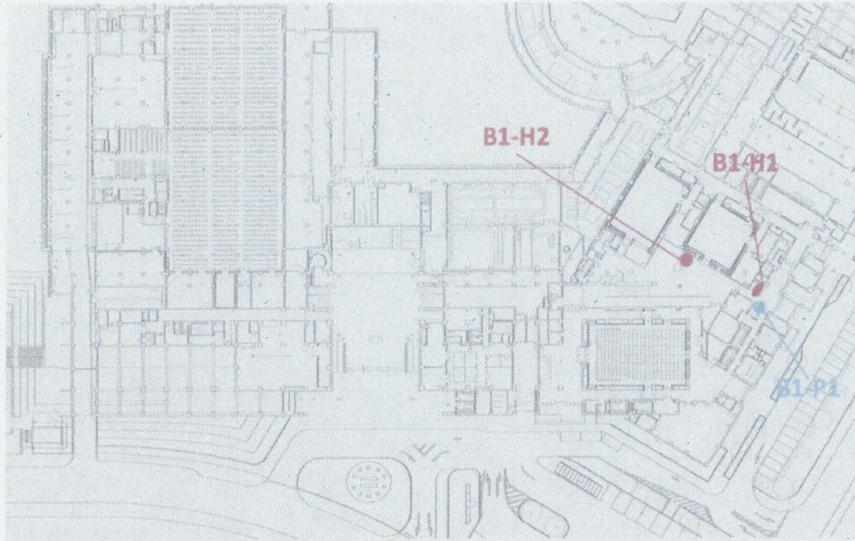


図 5-2-3 地下1階の広告展示箇所

5-3 屋外テラスの利用実態

屋外テラスは、ホワイエと接している空間であり、公演時に開放されている。付属的要素はテーブルセットと灰皿である。

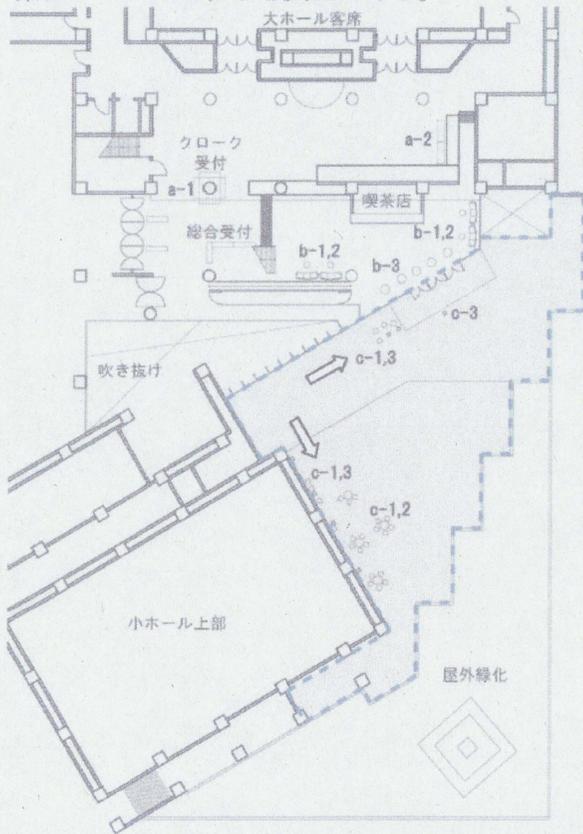


図 5-3-1-1 屋外テラスの範囲と付属的要素の位置



写真 5-3-1-1, 5-3-1-2 屋外テラスの外観
(※図 5-3-1-1 に矢印で写真撮影の視点を示す)

表 5-3-1-1 付属的要素の詳細

c-1	屋外イス 400×400×410	□
c-2	屋外テーブル φ700×700	○
c-3	灰皿	□

第3章で述べた公演1と公演2のアンケート調査により、「屋外テラス」の場所選択率は、両公演を通じて、公演前、休憩時間、公演後と0～4%であり、利用が終始少なかった。

マッピング調査により得た屋外テラスの利用実態について、以下記述する。屋外テラスの滞在者を公演前に1人、休憩時間に13人記録した。性別は、男性92%女性8%であり、喫煙者に男性が多いことが影響している。行為では、滞在者の77%が「喫煙」による利用である。手すりから景色を「眺める」行為は5人において見られ、そのうち「喫煙」「眺める」を両方行った鑑賞者は2人いた。今回の調査では、屋外テラスにおいて2行為のみであり、多様な滞在行為を確認できなかった。原因として、出入口付近に灰皿と喫煙者の滞在位置が偏り、喫煙以外の目的で利用しにくかったと考えられる。また、調査時は夏であり晴天であったため、気温や日差しの関係で利用が少なかったとも予測される。

アンケート調査により得られた、屋外テラスの雰囲気、広さ、テーブルセット数の満足度について、利用実態をふまえ分析考察を行う。

【屋外テラスの雰囲気】「よい」「ややよい」の回答比率が50%、否定的な回答は4%と少なかった。公演時、屋外テラスの利用は喫煙者がほとんどであり、その他の滞在は少なかったが、屋外テラス自体の雰囲気が関係している可能性は低いと予測される。

【屋外テラスの広さ】雰囲気の満足度と同様、肯定的な回答が50%前後、否定的な回答は4%と少なかった。ただ、「狭い」と評価した鑑賞者もあり、出入口の灰皿付近に滞在位置分布が偏っていたため、ホワイエからの見通しが悪く、狭い印象を受けた可能性がある。

【屋外テラスのテーブルセット数】「やや不十分」「不十分」の回答比率が14%と肯定的な回答比率の半分程度であり、雰囲気や広さの満足度と比較して、否定的な回答比率が高くなっている。公演時、テーブルセットや椅子の利用は見られなかったため、実際に利用できなかった状況が原因ではない。家具の配置場所が屋外テラスの中で分散されていないため、面積に対してのテーブルセット数が少ない印象を受けた可能性がある。

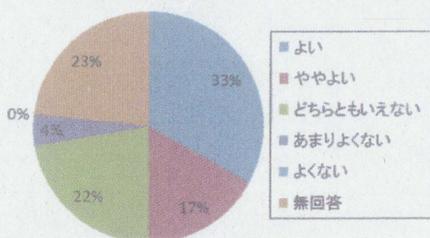


図 5-3-1-1 屋外テラスの満足度（雰囲気）

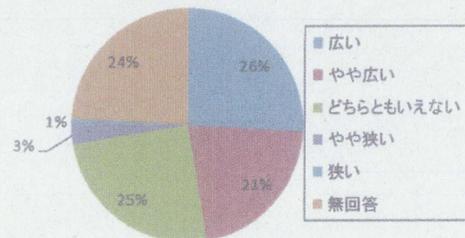


図 5-3-1-2 屋外テラスの満足度（広さ）

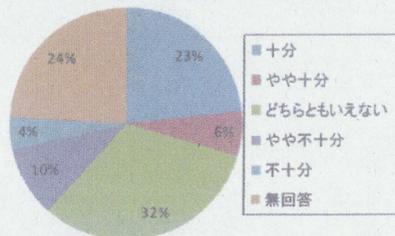


図 5-3-1-3 屋外テラスの満足度（テーブルセット数）

5-4 複合施設の付帯機能の利用実態

取り上げる諸室は、第3章で述べた公演1と公演2のアンケート調査により、公演前、休憩時間、公演後の場所選択において、「センター内の他施設」との回答を得た付帯機能である。具体的には、文化情報コーナー、レストラン、図書館の利用についてである。文化情報コーナーは、売店とカフェコーナー（以下、カフェ）、アートミュージアムショップ（以下、ショップ）、チケットカウンターが含まれる。

「センター内の他施設」の選択率は、公演1は公演前18%休憩時間7%公演後8%であり、公演2では公演前14%休憩時間4%公演後6%である。両公演を通じて、公演前の利用は15%前後あり、休憩時間や公演後の選択率は公演前の選択率の半分以下となっている。

【センター内での場所選択】センター内の他施設の中での場所選択について、図5-4-1から図5-4-3に示す。公演前は、他の諸室と比べ「カフェ」、「レストラン」、「図書館」の利用が目立つ。休憩時間は全体として利用が少ないが、「レストラン」「図書館」とホールから距離のある諸室を利用する観覧者がいることが分かる。公演後は、「図書館」の利用が最も多い。文化情報コーナーやレストランの利用は、公演前より減っている。以上より、場所選択はホールからの距離の近さではなく、「飲食」「読書」等の諸室の機能により選択されている可能性が高い。「中ホール」や「第2ギャラリー」と回答した鑑賞者は、公演日に公演以外の催し物にも参加しており、調査時においては特別なケースであった。

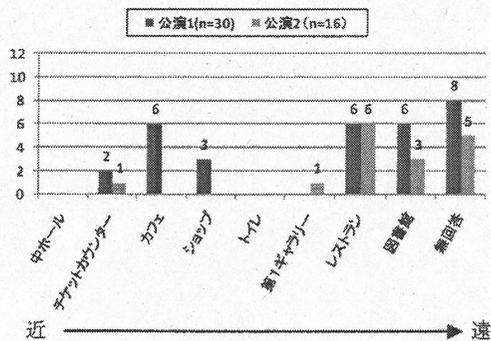


図 5-4-1 公演前のセンター内他施設場所選択

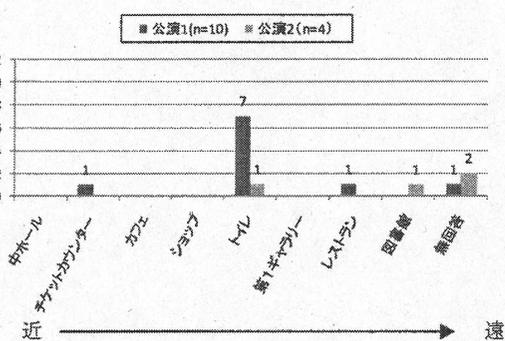


図 5-4-2 休憩時間のセンター内他施設場所選択

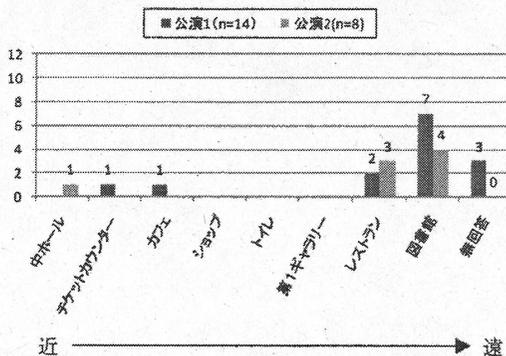


図 5-4-3 公演後のセンター内他施設場所選択

【センター内の行為】センター内の他施設で見られる行為を図5-4-4から図5-4-6に示す。ホール内やホワイエ内に見られなかった行為として、「買い物」「ビデオ鑑賞」「出演者挨拶」がある。公演前は「飲食」「パンフレット確認」「読書」が多い。公演前の「パンフレット確認」は、ホワイエで受付を済ました後他施設に移動したと考えられ、ホワイエの混雑や公演前のホワイエの雰囲気等が影響している可能性がある。「パンフレット確認」は、カフェやレストランでされており、「飲食」しながら「パンフレット確認」をする鑑賞者がいることが分かる。また図書館での「パンフレット確認」もあり、公演に関して書籍を通じて何らかの予習をしていた可能性もある。休憩時間は母数が少ないが、「トイレ」の利用が多く、ホールのトイレの混雑をさけて移動したと考えられる。公演後は、公演前と比較して行為の種類が少なく、「読書」「飲食」がほとんどである。特に公演後において、センター内にとどまり余韻を楽しむ鑑賞者が少ないという問題点が見えた。尚、公演2と比較して、公演1の方が多様な行為が確認されており、公演1の方がより来館頻度の高いリピーターがいたことが影響していると予測される。

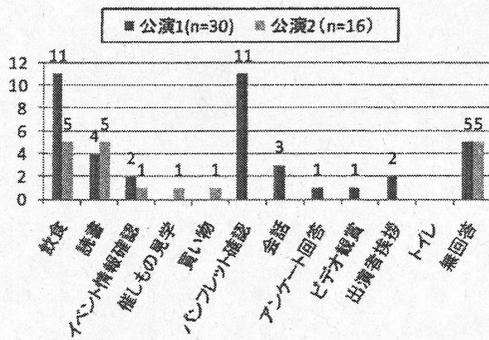


図 5-4-4 公演前のセンター内他施設行為

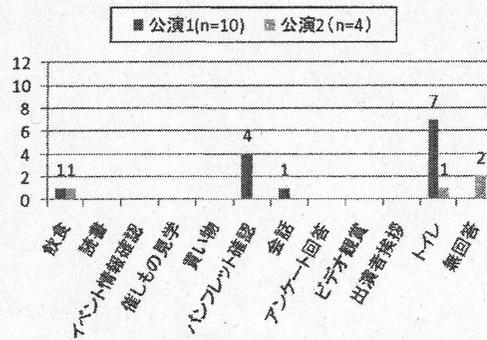


図 5-4-5 休憩時間のセンター内他施設行為

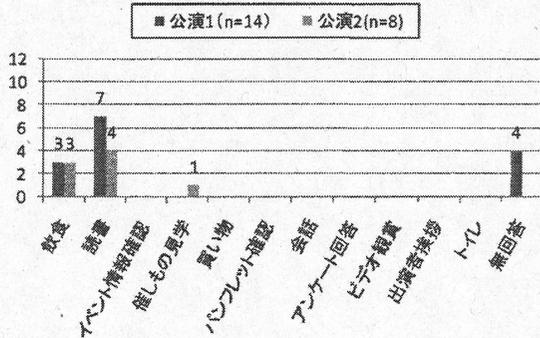


図 5-4-6 公演前のセンター内他施設行為

※公演後の場所選択と行為に関してはアンケートで得たものであり、公演後にホール出入口で回収したため、「センター内の他施設」の回答は利用を予定している人に限定される。特に予定していなかったが公演後立ち寄った等のケースは含まれていないことが、本調査の課題としてあげられる。

【望まれる機能】公演後の場所選択で、「センター外その他施設」を選択した鑑賞者がおり、センター外での行為は「買い物」3人、「飲食」が1人、「スポーツ」が1人であった。「買い物」に関しては、センター内ではショップで売られている雑貨とカフェで売られている軽食に限定される。「飲食」に関しては、センター内にレストランとカフェがあるが、営業時間やメニュー等の理由により、他の飲食店を選択した可能性がある。「スポーツ」に関しては、スポーツジムとの回答であり、公演後の行為というよりは日ごろの習慣であると予測される。以上より、「買い物」「飲食」に関してはセンター内に機能が備わっており、新たに望まれる機能については把握できなかった。

以下に、「センター内の他施設」として、文化情報コーナー、レストラン、図書館の利用について、それぞれ記述する。

5-4-1 文化情報コーナー

文化情報コーナーは、カフェ、ショップ、チケットカウンター、常設展示空間、貸館受付が一体的であるため、気軽に立ち寄ることができる計画がされている。貸館受付前には、椅子とテーブルが置かれており、施設利用者のCSとなっている（写真5-4-4-1）。営業時間は、カフェが8時50分から18時30分、ショップが10時から19時、チケットカウンター10時から19時、貸館受付が9時から21時である。公演1、公演2のような昼公演は営業時間内であるが、



写真5-4-1-1 貸館受付前のCS
(出典：三重県総合文化センターHP)

公演3のような夜公演では休憩時間や公演後に貸館受付以外は営業時間外である。図5-4-1から図5-4-3によると、公演前はチケットカウンター・カフェ・ショップの利用があるが、休憩時間・公演後は公演前ほど利用が見られない。文化情報コーナーは、「飲食」「購入」「イベント情報確認」「会話」等多様な行為が可能であり、特に公演後は余韻を楽しむ空間となりうるため、今後文化情報コーナー内の付帯機能の、より盛んな利用、併用が求められる。

5-4-2 レストラン

レストランは、メインエントランスから距離が近く、文化会館を含む施設利用者の利用がしやすい場所に位置する。営業時間は、10時から19時であり、夜公演には対応していない。図5-4-1から図5-4-3によると公演前後に利用があり、調査時のような昼公演の場合、センター内の諸室の中では比較的利用が多いといえる。



写真5-4-1-2 レストラン内観
(出典：三重県総合文化センターHP)

5-4-3 図書館

三重県総合文化センター内で複合されている機能として、図書館がある。図書館は南西側に位置し、文化会館から距離がある。図書館は、「読書」、本の「貸出・返却」が主要な利用目的としてあげられる。公演と全く無関係の図書館利用である可能性が高いが、公演内容の予習復習等で、利用される場合もあると予測する。公演内容とリンクした書籍情報の展示等、何らかのかたちで鑑賞者や図書館利用者が公演に興味を持つ、より情報を得るような図書館側の仕掛けが検討される。

図書館は、図5-4-1から図5-4-3によると、両公演を通じて利用が最も多いことが分かる。図書館利用者の属性として、文化会館のリピーターであることがあげられ、「年4回以上」の回答が最も高い比率となっている(図5-4-1-1)。実際の場所選択のみならず、ホワイエ内においても「読書」の行為が見られ、図書館の複合が公演時の過ごし方に影響を与えることを今回把握した。

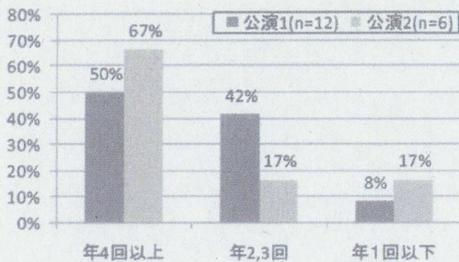


図 5-4-1-1 図書館利用者の来館頻度



写真 5-4-1-3 図書館の内観

(出典：三重県総合文化センターHP)

5-5 第5章のまとめ

本章では、施設全体のCSとして、常設展示空間、屋外テラスを取り上げた。また、公演時の利用がある複合施設の付帯機能として、文化情報コーナー、レストラン、図書館を取り上げた。利用実態から得られた今後の検討事項について、以下に簡潔にまとめ、本章のまとめとする。

【常設展示空間】各階のポスター内容についての見直し、地下1階のピラ内容の見直し、1階の集中している展示箇所の見直し等の提案が考えられる。

利用実態：地下1階は活動者、1階は鑑賞者や一般利用者、2階は一般利用者や会議室ギャラリーの利用者の情報収集の場となっている。動線や施設利用者の立場を考慮した配置と展示内容になっている。

【屋外テラス】喫煙者の滞在位置分布の偏りの是正が求められる。出入口付近の灰皿位置の変更等、テーブルセットを利用しやすい環境をつくる提案が考えられる。

利用実態：喫煙者の利用がほとんどであり、入口付近の灰皿に滞在位置分布が偏っている。利用されていないにも関わらず、テーブルセット数を不十分と考える鑑賞者がいる。

【文化情報コーナー】夜公演に対応していない営業時間であることを確認した。カフェ、ショップ、チケットカウンターは一体的に計画されており、併用により、公演前後に多様な行為が可能であると考えられる。

利用実態：公演前はチケットカウンター・カフェ・ショップの利用があるが、休憩時間・公演後は公演前ほど利用が見られない。

【レストラン】夜公演に対応していない営業時間である。

利用実態：昼公演の場合、公演前後に少なからず利用がある。

【図書館】公演内容と関連した書籍情報の展示等、鑑賞者や一般利用者に対して、公演への情報収集や興味を誘う仕掛けの提案が考えられる。

利用実態：公演時に、他の付帯機能と比較して最も利用があり、リピーターによるものである。

第6章 まとめ

6-1 まとめ

6-2 コモンスペースにおける提案

6-1 まとめ

本章では、3・4・5章で得た3つのCSにおける利用実態から、空間的特性が施設利用者間に与える影響についてまとめる。観賞者・活動者・一般利用者の立場にたった、望ましいコモンスペースの在り方について言及、提言し、全体の総括とする。

第2章より、空間的な特性の違いとして、諸室が壁か透過性の壁かという違い、施設全体のCSが分散されているか、一体的に計画されているかの違いを把握した。各諸室と各CSの空間的な特性について図6-1-1に示す。加えて、施設規模、時代背景や設計コンセプト、CS利用における施設側の意向の違いを把握した。

第3・4・5章では、利用実態調査を通して、施設側の意向に沿ったがたちで施設利用者がCSを利用していることを立証した。2施設間で、CSにおける滞在時間や行為内容が異なっており、施設側の管理運営方針が影響して、施設利用者にとってのCSの場の特性が異なっていると考えられる。

また、空間的な特性の違いにより、施設利用者間の関係性が異なることを分析した。

第一に、CSの空間的な特性の違いが与える影響について、練習室とCSが壁で隔てられている場合、施設利用者が活動に興味を示していても気づきにくい環境にあるが、活動に集中できる環境をつくりやすい。一方、練習室がガラス張りである場合、活動者同士や一般利用者と活動者間に新たな接触がoccurしやすい。活動者は一般利用者に対して活動を見せる意識をはたらかせており、活動の宣伝効果につながる。

第二に、施設全体の空間的な特性の違いが与える影響について、CSが施設内に分散されている場合、各々の立場内での接触にとどまる傾向があった。一方、CSが一体的に計画されている場合、施設利用者間で相互に関係ができ、出会いの場、サードスペース*1となりうることを確認した。

以上より、施設のコンセプトや管理運営方針とリンクさせて、各諸室とCSのつながり、CSとCSのつながりについて、施設計画時に検討する必要性があると考えられる。

*1サードスペース：第三の憩いと交流の場、インフォーマルな集まりの場。

サードスペースの特徴として、中間的領域(Neutral ground)、平等(Is a Leveler)、会話が主要な行為(Conversation is the Main Activity)、アクセスしやすく親切(Accessible and accommodating)、常連(The Regulars)、陽気な雰囲気(The Mood is Playful)、家から離れた家(A Home away from Home)等をあげている。

(出典「THE GREAT GOOD PLACE」RAY OLDENBURG)

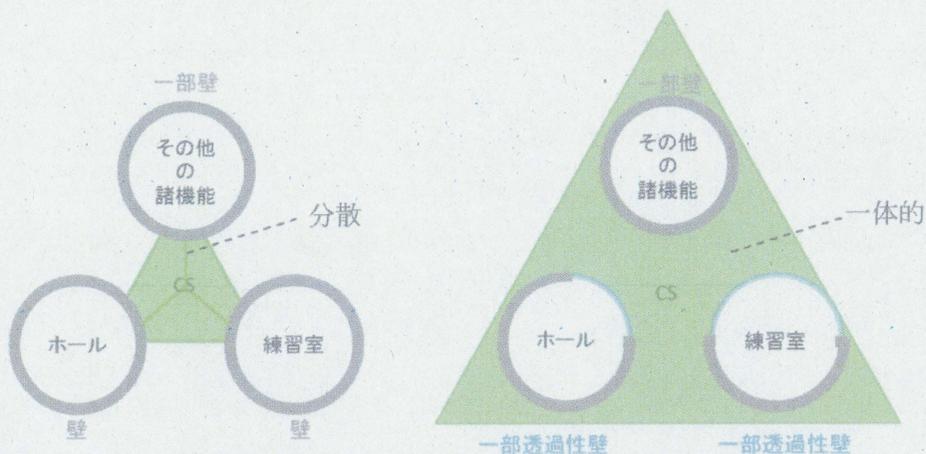


図 6-1-1 各諸室と各CSの空間的特性 (左：三重県文化会館、右：北上市文化交流センター)

6-2 コモンスペースにおける提案

利用実態を踏まえ、施設利用者のそれぞれの立場から、調査対象施設のCSにおける提案を述べる。

【三重県文化会館】

一般利用者について、CSは付属的要素が充実しており、付属的要素から多様な滞在行為が確認されたが、施設利用者間の接触は少ない。長時間滞在できるようなCSを一部計画する検討が求められる。その際、活動団体や催し物についてビラやボードを用いた情報展示やソシオペタルな家具配置が有効であると考えられる。

鑑賞者について、特定の公演ではあるが、CSにおける多様な過ごし方を確認した。ただし、ホール内にとどまる鑑賞者が多い傾向にあり、ホワイエでの滞在を誘発する環境について、機能性や快適性を検討する必要がある。具体的には、「パンフレット確認」「アンケート回答」「荷物整理」がしやすいコーナー等の設置、ソファの形態や配置の検討が求められる。屋外テラスにおいても、灰皿を含めた家具配置の検討が求められる。

活動者については、催し物や他の活動団体への興味が高く、それに見合った情報提供が求められる。また、他の施設利用者が活動を知るきっかけとして、練習室とCSを一体的に使った発表会や参加型イベントの開催が期待される。

【北上市文化交流センター】

一般利用者、活動者については、多様な行為が確認され、接触が多いことが分かった。CSにおける多様な行為や双方の接触が、施設を活気づけていた。ただ、テーブルセットは、1テーブルと4脚の椅子という1パターンであり、10人以上のグループや、1人の利用者に対応した様々なバリエーションのテーブルセットの導入について検討が求められる。

鑑賞者については、今回出演者と鑑賞者の接触は多く見られたが、多様な行為は確認されなかった。調査対象とした公演が一般的な利用実態とはいえ、付属的要素やCSにおける空間的特性の影響について、他の公演を通して把握する必要がある。

謝辞

研究を進めるにあたり終始ご指導いただいた加藤彰一教授には、深く感謝致します。特に、国際インターンシップでは、6都市をまわる貴重な体験をさせていただき、心に残りました。

大月淳准教授、毛利志保助教授には、ご指導を重ねていただき、深く感謝致します。

加藤研究室の先輩である辻千代英氏、川島亜由美氏、原郭二氏には、多くの面でサポートをしていただき、いつも温かい励ましの言葉をいただきました。深く感謝致します。

同期の古川恵里さん、北澤美奈さん、中山裕章さんには、ゼミ前後多くの相談に乗っていただき、多くの議論を共にすることができました。こうして研究を続けられたのは、相談しあえ尊敬できる仲間がいるおかげです。接するなかで、私には学ぶことがたくさんありました。自分には何ができていないか、今やこれから何ができるか考えるきっかけになりました。研究活動以外でも公演を鑑賞しに行く等、公私ともにお付き合いしていただき、深く感謝致します。

修士1年の竹原弥里さん、柴山依子さん、山本梨加さん、学部4年の馬込慶太さん、原玲子さんには、いろいろとご意見を下さり、また調査にご協力いただき、深く感謝致します。

調査にご協力いただきました、三重県総合文化センターの施設スタッフの方々、北上市文化交流センターの施設スタッフの方々、久米設計の野口秀世氏、兒玉謙一郎氏、三重大学管弦楽団の顧問兼重直文教授をはじめ団員のみなさま、第七劇場の主宰鳴海康平氏をはじめ劇団のみなさま、施設利用者のみなさまに、厚く感謝致します。

最後に、以前から支えていただいている仲間に、学ぶ機会を与えてくれた両親に、深くお礼申し上げます。

小塚智世

卷末資料

アンケート
論文

アンケートのお願い

現在、研究室では、劇場における鑑賞者の公演前後・幕間の過ごし方についての研究を行っています。近年、公演の楽しみ方も多様になっており、ホール周辺や劇場周辺の環境が求められています。そこで今回、鑑賞者の行動や要求を明らかにすることを目的としたアンケート調査を実施することになりました。つきましては、アンケートにご協力いただきたく思います。この研究結果は、研究以外には使用しないことを申し添えます。

何かご不明の点、ご意見等ありましたら下記連絡先までご連絡下さるようお願い申し上げます。

三重大学工学部建築学科 加藤研究室 担当 4年 小塚 智世

〒514-8507 三重県津市栗間町屋町 1577

TEL 090-9700-2584 E-mail 405715@m.mie-u.ac.jp

公演前後、幕間の過ごし方に関するアンケート

性別 (男性・女性) **年齢** (歳) **三重大学関係者** (はい いいえ)

1. どちらから来られましたか。

A. 県内 (市) B. 県外 (県・府・都・道)

2. どのような交通手段で来られましたか。

A. 電車 (下車駅) B. 車 C. バス D. タクシー
E. 自転車・バイク F. 徒歩 G. その他 ()

3. 何人で来られましたか。また、誰と来られましたか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

(人)
A. 友人 B. 子ども C. 親 D. 夫・妻 E. 恋人

4. 管弦楽団の定期演奏会には、よく来られますか。

A. はじめて B. 2・3回 C. いつも D. 久しぶり

5. 文化センターのイベントには、よく来られますか。

A. はじめて B. 2・3回 C. いつも D. 久しぶり

----- 公演前の過ごし方についてお聞きます。 -----

6. いつ文化会館に着きましたか。

A. 開場時間に余裕をみて B. 開場時間にあわせて C. 開演時間に余裕をみて
D. 開演時間に少し余裕をみて E. 開演時間に遅れた

7. 開演時間まで、主にどこで過ごされましたか。

A. ホール内の座席 B. 大ホールのロビー C. 屋外
D. 文化会館内の他の場所 (場所:)

8. 開演時間まで、何をして過ごされましたか。(例：パンフレット確認、会話、座席確保、施設見学 等)

幕間の過ごし方についてお聞きます。

9. 幕間は、何人で過ごされましたか。

_____人

10. 幕間は、主にどこで過ごされましたか。以下から1つお選びください。

- A. ホール内の座席 B. 大ホールのロビー C. 屋外
D. その他（場所： _____）

11. 幕間は、主に何をして過ごされましたか。

- A. 会話 B. パンフレット確認 C. 座席確保 D. 飲食 E. 携帯使用
F. トイレ G. 特になし F. その他（ _____）

12. 大ホールのロビー（ホワイエ）について、お聞きます。

12-1. ホワイエの雰囲気について、どう思われますか。

- A. よい B. まあよい C. どちらともいえない
D. あまりよくない E. よくない

12-2. ホワイエの広さについて、どう思われますか。

- A. 広い B. やや広い C. どちらともいえない
D. やや狭い E. 狭い

12-3. ホワイエのベンチ数について、どう思われますか。

- A. 十分 B. まあ十分 C. どちらともいえない
D. やや不十分 E. 不十分

13. 幕間を、ホール内の座席で過ごされた方にお聞きます。それはなぜですか。

（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

- A. 座っていたかったから B. ホワイエが混んでいるから C. 座席確保のため
D. 移動する目的がなかったから F. パンフレットを見たかったから
G. その他（ _____）

公演後の過ごし方についてお聞きます。

14. 公演後はどのように過ごされますか。

- A. ホワイエに残る B. 直帰する C. センターを出て、別の場所に向かう
D. センター内の他の施設を利用する（場所： _____）

15. 劇場周辺の環境について、公演の余韻を楽しめると思われますか。

- A. 楽しめる B. まあ楽しめる C. どちらともいえない
D. やや楽しめない E. 楽しめない

16. 質問15で、やや楽しめない・楽しめないと答えられた方にお聞きます。それはなぜですか。

（ _____）

17. ホール周辺や劇場周辺の環境について、ご要望・ご意見がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

公演前後、休憩時間の過ごし方に関するアンケート

このアンケートは、劇場における人々の行動や要求を把握し、今後の施設に活かすことを目的とするものです。集めたデータについては研究以外には使用しませんので、是非ご回答下さい。ご不明の点、ご意見等ありましたら、下記連絡先までご連絡下さるようお願い申し上げます。

三重大学大学院工学研究科建築学専攻 加藤研究室 博士前期課程2年 小塚 智世
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 TEL 090-9700-2584 E-mail 409M408@m.mie-u.ac.jp

以下の設問について、お答えください。選択肢があるものについては、口にチェックをつけてください。
■まず、ご記入いただいている方ご自身についてお尋ねします。

性別（男性・女性）	年齢（代）	三重大学関係者（はい・いいえ）
1. どちらから来られましたか。	<input type="checkbox"/> 津市内（町村名 町・村） <input type="checkbox"/> 県内（市・郡） <input type="checkbox"/> 県外（県・府・都・道）	
2. どのような交通手段で来られましたか。	<input type="checkbox"/> 電車（下車駅： ） <input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> 自転車・バイク <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
3. 何人で来られましたか。 また、どなたと来られましたか。（複数回答可）	（ ）人 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 子ども <input type="checkbox"/> 親 <input type="checkbox"/> 夫・妻 <input type="checkbox"/> 恋人	
4. 当劇場に来られるのははじめてですか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
5. 質問4でいいえと答えられた方にお聞きます。 当劇場に来られる頻度はどれくらいですか。	週（ ）回程度、月（ ）回程度、年（ ）回程度	

■以下、公演前、休憩時間、公演後の過ごし方についてお尋ねします。

公演前	6. いつ当劇場に着きましたか。	（ 時 分頃）
	7. 開演時間まで、どこで、何を 過ごされましたか。（複数回答可） ※<何を>の回答例 パンフレット確認、会話、座席確保、飲食、 イベント情報確認、携帯電話使用、喫煙、 施設見学など	<どこで> <何を> <input type="checkbox"/> ホール内の座席 ----->() <input type="checkbox"/> ホールのロビー ----->() <input type="checkbox"/> 屋外テラス ----->() <input type="checkbox"/> センター内の他施設（場所）----->()
休憩時間	8. 休憩時間は何人で過ごされましたか。	（ 人）
	9. 休憩時間はどこで、何を 過ごされましたか。（複数回答可） ※<何を>の回答例 パンフレット確認、会話、座席確保、飲食、 イベント情報確認、携帯電話使用、アンケート、 喫煙、施設見学など	<どこで> <何を> <input type="checkbox"/> ホール内の座席 ----->() <input type="checkbox"/> ホールのロビー ----->() <input type="checkbox"/> 屋外テラス ----->() <input type="checkbox"/> センター内の他施設（場所）----->()
公演後	10. 公演後はどこで、何を 過ごされますか。（複数回答可） ※<何を>の回答例 管弦楽団出待ち、パンフレット確認、会話、 飲食、イベント情報確認、携帯電話使用、 アンケート、喫煙、施設見学など	<どこで> <何を> <input type="checkbox"/> ホールのロビー ----->() <input type="checkbox"/> 屋外テラス ----->() <input type="checkbox"/> センター内の他施設（場所）----->() <input type="checkbox"/> センター外の別の場所 ----->() <input type="checkbox"/> すぐ帰宅する

■最後に、当劇場の大ホールの共有スペースの満足度についてお尋ねします。

11. ロビーの雰囲気について	<input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よくない
12. ロビーの広さについて	<input type="checkbox"/> 広い <input type="checkbox"/> やや広い <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> やや狭い <input type="checkbox"/> 狭い
13. ロビーのソファ数について	<input type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> やや十分 <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分
14. 屋外テラスの雰囲気について	<input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よくない
15. 屋外テラスの広さについて	<input type="checkbox"/> 広い <input type="checkbox"/> やや広い <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> やや狭い <input type="checkbox"/> 狭い
16. 屋外テラスのテーブルセット数について	<input type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> やや十分 <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分
17. 劇場環境について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入下さい。	三重大学大学院 工学研究科

ご協力ありがとうございました。

☆アンケート☆

本日はお忙しいところ、三重大学管弦楽団 " Summer Concert 2010" へ御来場下さいましてまことにありがとうございます。今後の活動の参考させていただきたいと思いますので、お手数とは存じますが、以下のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

- ♪ 性別 (男・女) ♪ 年齢 () 歳 ♪ ご職業 ()
♪ 楽器経験 (有・無) 有…楽器名 ()
♪ 音楽団体の所属 (有・無) 有…団体名 ()

♪ この演奏会を何でお知りになりましたか。

- a. 当楽団員から b. 招待状で c. チラシ・ポスターで
d. 新聞・雑誌で (出版物名) e. プレイガイド・楽器店で
f. その他 ()

♪ チケットはどのようにして入手されましたか。

- a. 当楽団員から b. 招待券・招待状 c. 楽器店で
d. プレイガイドで e. 当日券
f. その他 ()

♪ 今日の演奏についてご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲

チャイコフスキー／幻想序曲「ロメオとジュリエット」

(うらにつづく)

♪ポスター・チラシ・チケット・プログラムについてご意見をお聞かせ下さい。

♪今日の受付・クロークについてご意見をお聞かせ下さい。

♪その他お気づきの点がございましたら、お聞かせ下さい。

ご協力ありがとうございました。
お帰りに出口に設置してございますアンケート回収箱にお入れ下さい。
またお会いできる日を楽しみにしています。

なお、差し支えなければ御名前・御住所などご記入ください。次の演奏会のお知らせ等送らせていただく予定です。

御名前

御住所 〒

E-mail アドレス

劇場におけるコモンスペースに関する研究

—鑑賞者の滞在行動に着目して—

三重大学工学部建築学科 加藤研究室 小塚智世

第1章 序論

■研究の背景

近年、様々な劇場が計画され、それに伴い公演前後や幕間の過ごし方も多様になっている。公演前は公演内容の予習やこれからの鑑賞行為の準備時間、幕間は次の鑑賞行為のための気分転換の時間、公演後は公演の余韻を楽しむ時間であるが、各時間共通して劇場内の環境や劇場の周辺環境を直接感じる時間である。鑑賞者が劇場に足を運ぶ目的には、一種の「ハレ」の感覚があり、「ハレ」の感覚や多様な過ごし方に対応する劇場環境及び劇場周辺環境が求められていると考える。

■研究の目的

気分転換に歩き回ったり、十分に吟味された飲食のサービスを受けたり、コモンスペースで過ごす時間に魅力があれば、観客は自分の席を立ててコモンスペースに出てくるはずである。

本研究では、ホワイエを主とする劇場のコモンスペースに見られる滞在行動に着目し、コモンスペースの利用行為から、それらの行為に影響を与えている要因を示し、鑑賞者の求める劇場の環境をデザインするための方向性を示すことを目標とする。

■研究の方法

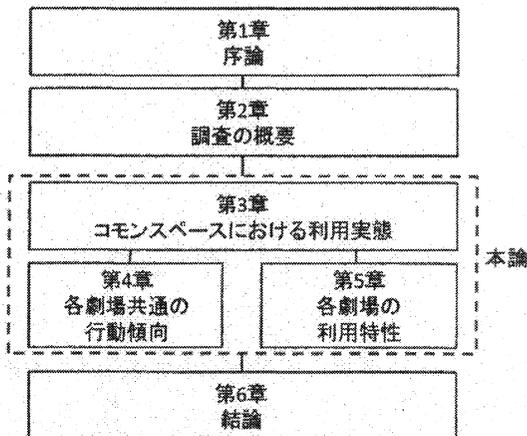


図 1-1 研究フロー

1. 国内の注目すべき劇場を抽出する。
2. ホワイエを主とする劇場のコモンスペースにおける利用実態を観察調査し、コモンスペースに見られる行為の種類と内容を把握、また各劇場に共通する行動傾向、各劇場の利用特性を明らかにする。

3. 調査で抽出した各劇場に共通する行動傾向に関して、なぜ共通した行動傾向が見られたのか、利用場面から行為と物的要素との関係を考察する。
4. 調査で抽出した各劇場の利用特性を比較し、観客層やコモンスペースの特徴がどのように行動発生に影響を与えているのか考察する。
5. 以上より劇場のコモンスペースに見られる行為に影響を与えている要因から、鑑賞者の求める劇場の環境をデザインするための方向性を示すことを目標とする。

■用語の定義

コモンスペース：幕間と公演前後、鑑賞者によって共有される空間。ホワイエ、ホワイエと接している屋外の共有空間。

第2章 調査の概要

■研究対象

本稿では、2000 席程度の客席数をもつ劇場である、東海地方の愛知芸術文化センター、三重県総合文化センター及び、関西地方の京都会館、尼崎市総合文化センター、兵庫県立芸術文化センターを研究対象とする。

■調査の方法

表 2-1 に示した各公演時に、客層・鑑賞者の行動に着目してコモンスペースを観察し、利用実態を把握する。鑑賞者の行為に関しては場面抽出調査を行い、行為内容、人数、年齢層、行為に関係している物的要素を記録する。「くるみ割り人形」の公演時のみ、2分おきの定点観察調査をホワイエで行い、場面抽出調査により把握した行為内容が、どれほど見られるのか量的な面で捉える。

表 2-1 観察調査演目

公演日	開演時間	劇場・演目
2008.11.13.	18:30	愛知芸術文化センター 大ホール ポーランド国立ワルシャワ室内歌劇団オペラ「フィガロの結婚」
2008.11.17.	18:15	尼崎市総合文化センター アルカイックホール 團田学園中学校高等学校吹奏楽部 第20回定期演奏会
2008.11.30.	14:00	京都会館 第2ホール 第20回京都留学生音楽祭
2008.12.13.	15:00	兵庫県立芸術文化センター 大ホール PAOクリスマスコンサート
2008.12.18.	19:00	兵庫県立芸術文化センター 小ホール 関西歌劇団 歌の花束 クリスマスコンサート
2008.12.21.	18:00	尼崎市総合文化センター アルカイックホール 法村友井バレエ団「くるみ割り人形」
2009.01.10.	18:00	愛知芸術文化センター コンサートホール 名古屋二期会ニューイヤーオペラコンサート
2009.01.11.	14:30	三重県総合文化センター 大ホール ウイナー・ワルツ オーケストラ

第3章 コモンスペースにおける利用実態

■観察調査分析結果

8公演の場面抽出調査により、10行為とその行為傾向が得られた。各公演の特徴的行為を以下にあげる。

- ① 2008.11.13.「フィガロの結婚」
幕間、ガラス面にロールブラインドがされており、もたれる場所が少ないため扉間の狭い壁スペースにもたれての〔携帯電話使用〕が見られた。
- ② 2008.11.17.「第28回定期演奏会」
幕間、その時間帯やソファ・ハイテーブルエリアがあることにより、〔飲食〕行為が多く見られた。
- ③ 2008.11.30.「第20回京都留学生音楽祭」
公演中、出演者が出演前後に出演衣装のまま上下階を階段で移動し、移動に伴い観客との〔あいさつ〕や〔写真撮影〕の様子が、各演目が終わるごとに確認できた。
- ④ 2008.12.13.「PACクリスマスコンサート」
幕間、ガラスごしの〔景色を見る〕行為や、ビューフェ利用者によるベンチやハイテーブルを利用して、ガラス面に沿っての〔飲食〕や〔会話〕が多い。
- ⑤ 2008.12.18.「歌の花束 クリスマスコンサート」
公演後、ロビー前で出演者と接する機会があり、出演者への〔あいさつ〕や記念〔写真撮影〕が10分続いた。
- ⑥ 2008.12.21.「くるみ割り人形」
公演後、劇場スタッフに手渡されたシール・カードが見せあいなどの〔会話〕につながり、一時観客はホワイエに留まる傾向にあった。
- ⑦ 2008.01.10.「ニューイヤーオペラコンサート」
幕間、全体としてホワイエに出る人が少ない。各階のホワイエでは、壁沿いなど各場所で輪になって〔会話〕をする人がいた。
- ⑧ 2009.01.11.「ウィンナー・ワルツ・オーケストラ」
〔飲食〕行為は、ハイテーブルを2・3組で共有、屋外テラスのテーブルを使用、段差に腰かける、立体通路に立つなど、様々な場所を確保して行われていた。

■定点観察調査分析結果

定点観察調査により得られたホワイエの利用実態を示す。鑑賞者の表記方法は、表3-1の通りである。

表3-1 鑑賞者の表記方法 (左:男性 右:女性)

立つ	座る	姿勢 行為	立つ	座る	姿勢 行為
		会話			会話
		携帯電話使用			携帯電話使用
		パンフレット確認			パンフレット確認
		飲食			飲食
		あいさつ			あいさつ
		連絡			連絡

17:00のホワイエ利用状況

幕間の17:00よりビューフェエリアのハイテーブル7つには、それぞれ〔飲食〕〔会話〕といった2・3人の滞在が見られ、1グループ1テーブルであり、一時的ではあるが幕間の滞在場所となっている。

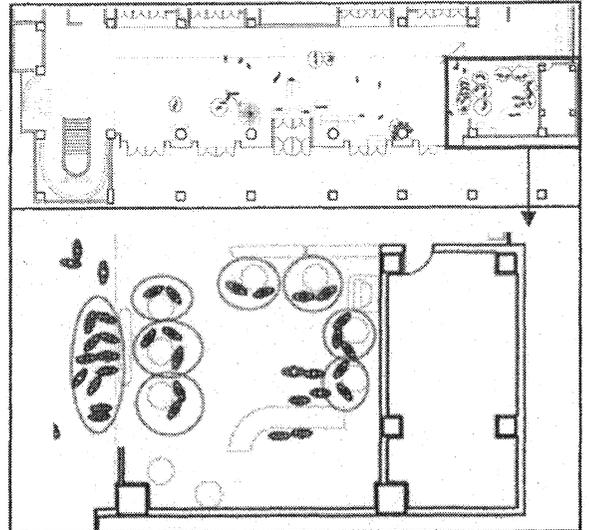


図3-1 ホワイエの利用状況 (幕間17:00)

18:20のホワイエ利用状況

公演後8分間経過した18:18では左側扉周辺での〔会話〕による滞在が目立ち始める。入って左側は滞在重視、右側は移動重視という空間の異なりが生じる。18:18~18:22になると、右側扉より帰ろうとする動きと、出入り口とは関係のない方向に移動する動きとがあり、人全体の動きの方向性がなくなる。〔会話〕のグループが合体する、〔携帯電話使用〕〔パンフレット確認〕〔特になし〕など、滞在の仕方は様々である。

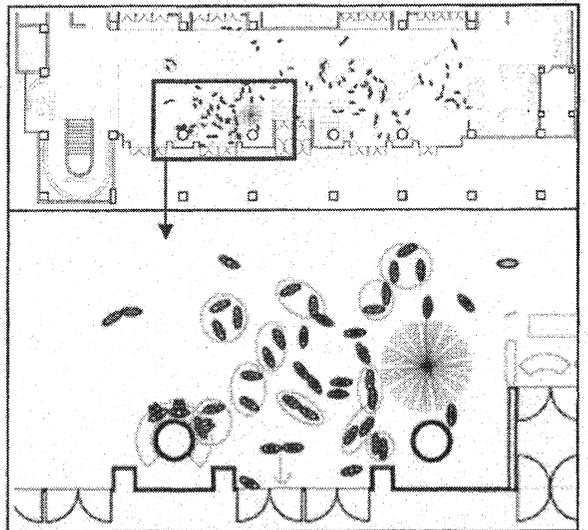


図3-2 ホワイエの利用状況 (公演後18:20)

公演後 18:14~18:20 までホワイエが混みあっているのが分かる。またパレエという演目上、鑑賞者の女性の割合が多く、ホワイエ利用者も女性の割合が多いのが分かる。(図 3-3)

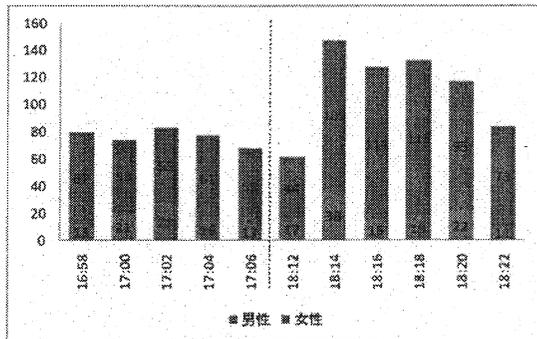


図 3-3 幕間・公演後のホワイエ利用者

ホワイエでは立って過ごしている人が大半を占めている。また、18:14~18:18 の間に帰る人がピークを迎えていることがわかる。(図 3-4)

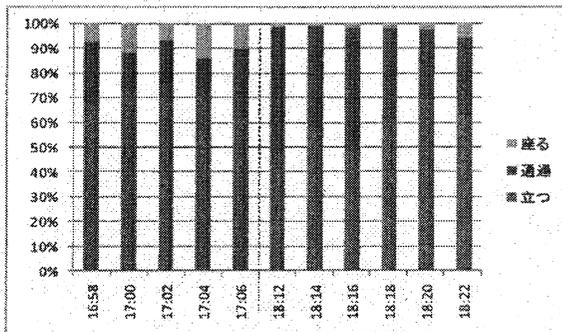


図 3-4 ホワイエ利用者の姿勢割合

ホワイエ利用者の行為の割合に関して、ピュッフェや自動販売機を利用する【飲食】の割合が高く、【飲食】行為がこの劇場における幕間の楽しみ方に大きく影響している。18:18 あたりから、ホワイエに滞在し続け会話を楽しむといった傾向も見られ、【パンフレット確認】や自動販売機を利用した【飲食】など、比較的時間に余裕をもった行為が見られる。(図 3-5)

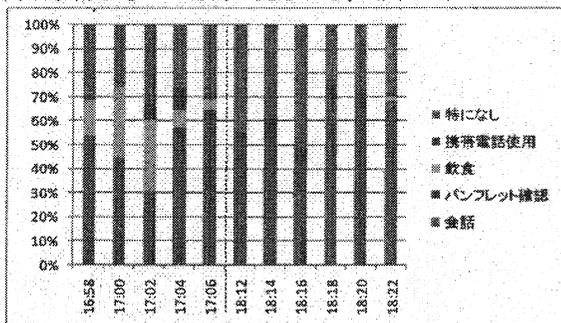


図 3-5 ホワイエ利用者の行為割合

以下に尼崎市総合文化センターの利用特性、また鑑賞者の行動特性をまとめる。

- ・1 ハイテーブル1 グループといった使われ方をする。
- ・輪になつての【会話】は、群れとなる。
- ・移動者と滞在者がいる場合、住み分けがされる。
- ・【会話】による一時的な滞在は、場所を選ばない。
- ・【パンフレット確認】(飲食) 行為は、通過 (passing) とは遠い行為である。
- ・公演後のプレゼント配布は、鑑賞者のホワイエ滞在時間を長くする。【会話】行為につながる。

第4章 各劇場共通の行動傾向

■行為内容

観察調査により 2 公演以上に共通して得られた行為内容を表 4-1 にまとめる。

表 4-1 行為の種類

行為	行為内容
会話	2人以上で話をする行為。
あいさつ	お互いを認識した際に行う言葉や身振りによる行為。会話以前の行為。
携帯電話使用	携帯電話を用いて通話、メールの確認や作成、付属しているカメラ機能を使用する行為。
飲食	食べ物や飲み物を摂取する行為。
パンフレット確認	鑑賞者全員に配られたパンフレットやパンフレットにはさまれたチラシに目を通す行為。
パンフレット採集	ホワイエに配置されているパンフレットコーナーに立ち寄り、劇場や周辺施設の催し物などの情報を得る行為。
アンケート記入	劇場側や主催者側が配布したアンケートに回答する行為。
写真撮影	カメラで人やものを撮影する行為。
待機	ある時間まで所定の場所に滞在する行為。
喫煙	たばこを吸う行為。

■物的要素

観察調査により得られた、観察調査により得られた行為と関係している物的要素を表 4-2 にまとめる。

表 4-2 物的要素の種類

建築的要素	ガラス面
	壁面
	柱
	段差
	アルコーブ
付属的要素	手すり
	ベンチもしくはソファ
	ハイテーブル
	キャビネット
	掲示板
	ちらしコーナー
	自動販売機
	灰皿
オブジェ	

※ は対象とした劇場全てにあてはまらない物的要素。

■場面抽出

行為と物的要素

建築的要素は、姿勢やそれに伴う行為が比較的限定されず、多様な行為が見られる。特に劇場のコモンスペースでは、座る人よりも立って過ごす人の方が多いので、よりかかれる、立ちやすいなどの特徴をもつ建築的要素は他の施設より人の拠り所となりやすい。

表 4-3 建築的要素が誘発する姿勢と行為

建築的要素	姿勢	行為
ガラス面	付近に立って	会話
		携帯電話使用
		飲食
壁面	よりかかって	景色を眺める
	近づいて	携帯電話使用
		会話
柱	面を利用して	写真撮影
	よりかかって	アンケート記入
	囲んで	携帯電話使用
段差	座って	会話
	立って	アンケート記入
アルコール	おさまるように立って	飲食
手すり	もたれて	会話
		景色を眺める
	手、肘をついて	待機

行為と付属的要素

付属的要素は姿勢が限定されやすい。姿勢が限定されたならば行為も限定される。付属的要素の中には行為を誘発するだけでなく制限するものがあり、利用者も限定される。(表 4-5) しかし、付属的要素の中でベンチ・ソファとハイテーブルは多くの行為をアフォードしているといえる。(図 4-1)

表 4-4 付属的要素が誘発する姿勢と行為

付属的要素	姿勢	行為
ベンチ・ソファ	座って	飲食
		携帯電話使用
		パンフレット確認
		待機
ハイテーブル	立って	アンケート記入
		荷物確認
キャビネット	面を利用して	携帯電話使用
掲示板	立って	アンケート記入
ちらしコーナー	立って	掲示板確認
自動販売機	付近に立って	パンフレット採集
		飲食
灰皿	付近に立って	会話
	付近に座って	喫煙
オブジェ	付近に立って	会話

表 4-5 行為を成立させる姿勢と要素

行為	姿勢	付属的要素
飲食	(座る)	ハイテーブル・ベンチ・ソファ
パンフレット確認	座る	ベンチ・ソファ
パンフレット採集		ちらしコーナー
アンケート記入		机、キャビネット、面
喫煙		灰皿
掲示板確認		掲示板

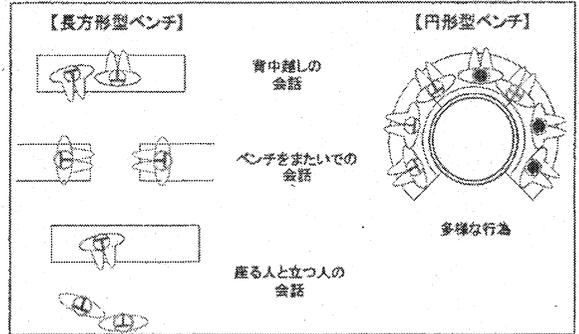


図 4-1 ソファの形状と座り方

■行為間の関係

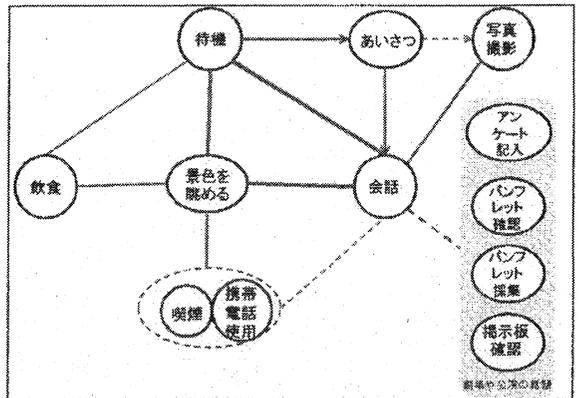


図 4-2 行為間の関係

景色を眺める行為は、何気なく行われ、他の行為を邪魔しないため他の行為と同時にされる。会話は、他の行為と同時に行うことで意思疎通がうまくいき、同時に行っている行為をより楽しむことができる。飲食や待機が、景色を眺める行為や会話と同時にされると、単一で行うよりも充実した行為になる。アンケート記入やパンフレット確認と採集、掲示板確認と同時に会話をすると、劇場や公演の話題になりやすく、公演や来館を記憶することにつながる。それに対し、携帯電話使用は1人でそして単一で起こりやすい傾向にあり、長時間の使用は劇場にいないが他の空間に1人であるのと同じ結果になるという短所と、劇場にいない人と容易に話題を共有できるという長所を兼ね備えている。

また、待機してあいさつを行い会話といった、最後に会話に発展する行為の流れは、人と人の間に交流を生む。図 4-2 で示した会話と同時に行われやすい行為は、観客の交流の鍵をにぎっている。

第5章 各劇場の利用特性

■観客層と行為の関係

服装や会話内容から観客層を予測した時、観客が劇場に通うまでの過程で表5-1のような行為の変化があると予測できた。

表5-1 観客層と行為の関係

流れ	観客層	行為
↑	劇場に通う	3人以上での会話 出演者への差し入れ
	劇場に興味 公演内容に興味	パンフレット確認 パンフレット採集 掲示板確認 公演内容に関する会話
	はじめて劇場に 足を運ぶ	劇場の大まかな計画に沿った行為

■接している空間と行為の関係

屋外テラスや吹き抜け空間では、幕間に多様な滞在行動が見られ、コンコースやデッキでは公演後に会話による滞在が目立つ。

表5-2 各空間と行為傾向

行為		場所	屋外テラス	吹き抜け空間	コンコース	デッキ
幕間	眺める		○	○	△	△
	飲食		○	△		
	会話		○	△		
	喫煙		○			
公演後	会話		○	○	○	

■平面と行動の関係

[ワイド直線型]ホワイエ全体の一体間を得やすいが、全体として移動空間になりやすい

[スクエア型] 4隅のいずれかに人の滞在が偏りやすい

[L型] 交差部分を分岐点として移動空間と滞在空間が成立

[C型] 2隅に注意が集まるが、エントランスから遠いエリアが奥まった印象

[Z型] C型と比べ奥まった印象の空間がなくなる。

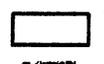
注目のいくコーナー 滞在直後の空間	0か所	1か所	2か所
0			
1			
2			

図5-1 平面型と空間傾向

■断面と行動の関係

吹き抜けの有無

吹き抜けがなければ、上階ホワイエから下階のメインホワイエの様子を眺める行為ができず、各階に一体感を感

じられない。しかし、メインホワイエへの移動は吹き抜けの有無に関わらず頻繁に行われる。

各階ホワイエの重なり方

そのまま上に積み上げた各階ホワイエは、経路が単純明快であり短路である。それに対し、ずらして積み上げた各階ホワイエは、建物に誘導されて移動している感覚を得やすい、人が移動している様子を眺めやすい、経路途中に他と異なる滞在空間をつくりやすいなどの長所が挙げられる。特に幕間のような短い時間をどう楽しむかといった時に、上階の座席の観客にとって、移動自体が退屈でないような仕掛けが必要である。

第6章 結論

■コモンスペースの計画への提案

大きな移動空間と小さな滞在空間の両立

- ・人の移動を感じ解放感の得られる、移動重視の吹き抜け空間
- ・落ち着いた雰囲気の付属的要素の充実した、滞在重視の空間

滞在内容が異なる空間を多数配置=物的要素の充実

ソファ・ベンチエリアはグループごとに利用しやすい配置、多様な行為を誘発するハイテーブルエリアの設置、段差やアルコーブ・ガラス面を多く取り入れる、吹き抜け空間を見降ろせる平面を一部突出させ、手すりにもたれての小さな滞在空間をつくる など

出演者との交流の場を提供

- ・出演者のプロフィールやコメントをのせた掲示板の配置
- ・出演者が鑑賞者のどちらかが待ち構えることのできる、ある程度の人数がおさまる建築的要素のみの空間を設ける

次回の来館につながる仕掛け

- ・パンフレット確認と採集、掲示板確認の行われる、掲示板とちらしコーナーを滞在空間と移動空間のどちらにも配置
- ・ちらし回収BOXを滞在空間に配置

■今後の課題

本研究を通して、公演前後や幕間の鑑賞以外の楽しみ方は、第一に出演者や観客同士の交流、第二に劇場の雰囲気味わえるような飲食や景色を眺める行為、第三に劇場や公演の情報入手ではないかと考える。しかし、コモンスペースの充実について考察する際、特徴の異なるより多くの劇場に足を運ぶ必要がある。また、利用実態から行為の種類と行動傾向を把握し、その行動傾向から行為に影響を与えている要因について考察したが、各劇場の物的要素の情報と比較が不十分である。定点観察調査も含め、今回の調査人数や方法については検討、改善すべきであった。家具配置に関するコモンスペースの滞在行動については、今後着目していきたい。